

共通教育科目 履修案内

*Guide for Subjects
in Liberal Arts and Science*

この履修案内は令和6(2024)年度入学者用です。
卒業まで必要ですので、絶対に紛失しないでください。

令和6(2024)年度

金沢大学国際基幹教育院

*Kanazawa University
Institute of Liberal Arts and Science*

目 次

角間キャンパスマップ	1
令和6（2024）年度共通教育科目学年暦	2
I 履修案内	
金沢大学の基本理念と教育目標	6
1 共通教育科目とは	7
2 学年・学期	7
3 授業時限	7
4 単位	7
5 授業時間割	8
6 アカンサスポータル	8
7 休講・補講	8
8 緊急登学停止	8
9 授業の欠席	8
10 既往症ならびに治療中の病気	8
11 インフルエンザ等感染症	9
12 履修に関する注意	9
13 Webシラバスの利用方法	12
14 履修登録の手続・方法	15
15 各科目区分の履修・単位修得方法	20
16 学類別の卒業要件（共通教育科目）	56
17 基幹教育特設プログラム	83
18 先導STEAM人材育成プログラム（KU-STEAM）	85
19 データサイエンス特別プログラム	86
20 教育職員免許状	86
21 成績評価（単位認定）	88
22 入学前の既修得単位の認定	91
23 授業評価アンケート	91
24 「いしかわシティカレッジ」の授業科目の履修	91
25 放送大学の授業科目の履修	92
26 金沢大学共通教育科目に関する規程	95
27 金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）の解説	100
II 時間帯表	103
III 学生生活	
1 学生生活に関する相談	112
2 キャンパス交通ルール	112
3 総合教育棟の利用	113
4 パソコンとネットワーク	114
5 大学院進学のおすすめ	115
6 所属変更・休学・復学・退学	115
7 その他	115
IV 建物配置図	
1 総合教育棟 平面図	118
付. 総合教育1号館、2号館在室者一覧（五十音順）	124

大学会館
 -1階- 生協
 *相談センター (PC・講座・共済)
 郵便局
 -2階- 生協食堂
 銀行ATM
 -3階- 生協コピーコーナー(有料)

南地区

中地区

北地区

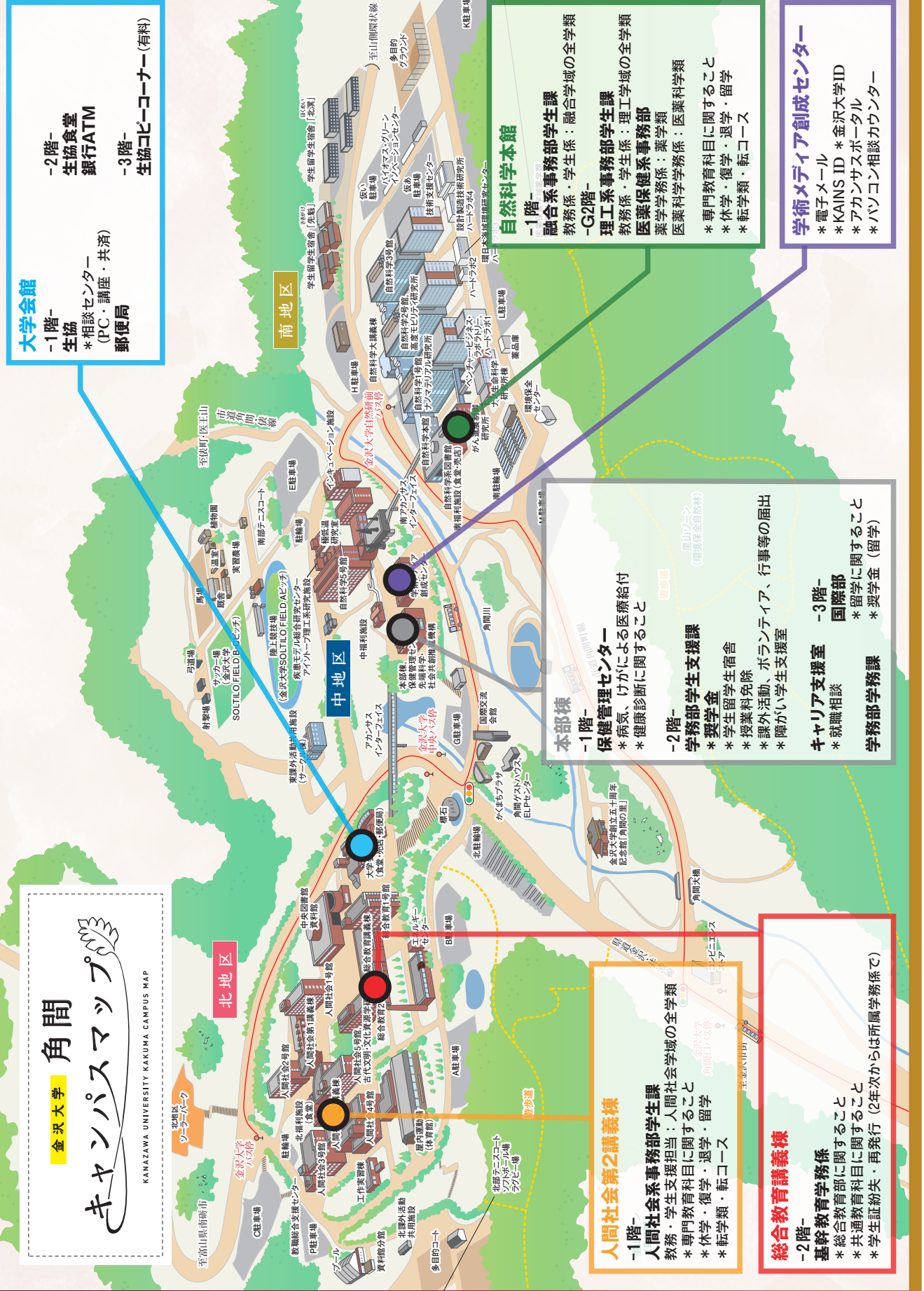
自然科学本館
 -1階- 融合系事務部学生課
 教務係・学生係：融合学域の全学類
 -G2階- 理工系事務部学生課
 教務係・学生係：理工学域の全学類
医薬保健系事務部
 薬学学務係：薬学類
 医薬科学学務係：医薬科学類
 *専門教育科目に関すること
 *休学・復学・退学・留学
 *転学類・転コース

学術メディア創成センター
 *電子メール
 *KAINS ID *金沢大学ID
 *アカンサスポータル
 *パソコン相談カウンター

本部棟
 -1階- 保健管理センター
 *病気、けがによる医療給付
 *健康診断に関すること
 -2階- 学務部学生支援課
 *奨学金
 *学生留學生宿舎
 *授業料免除
 *課外活動、ボランティア、行事等の届出
 *障がい学生支援室
 -3階- 国際部
 *留学に関すること
 *奨学金 (留学)
 *就職相談
学務部学務課

人間社会第2講義棟
 -1階- 人間社会系事務部学生課
 教務・学生支援担当：人間社会学域の全学類
 *専門教育科目に関すること
 *休学・復学・退学・留学
 *転学類・転コース

総合教育講義棟
 -2階- 基礎教育学務係
 *総合教育部に関すること
 *共通教育科目に関すること
 *学生証紛失・再発行 (2年次からは所属学務係で)



令和6(2024)年度 共通教育科目学年暦

(令和6(2024)年度入学者用)

第1クォーター・第2クォーター

曜	日	月	火	水	木	金	土
4月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
5月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
6月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
7月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
8月	28	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
9月	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
授業	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
試験	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	回
	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	回

- 履修ガイダンス 4月1日(月)
- 学類等オリエンテーション 4月2日(火)・4月3日(水)
- 4月期入学宣誓式 4月4日(木)
- 入学者定期健康診断 6月6日(木)～6月11日(火)

【第1クォーター】

- 履修登録期間 4月1日(月)7:00～4月3日(水)23:59
- 履修登録補正期間 4月5日(金)12:30～4月14日(日)23:59
- 授業開始 4月8日(月)
- 履修登録確定 4月16日(火)
- 曜日振替日(金曜扱いの授業日) 5月1日(水)
- 曜日振替日(月曜扱いの授業日) 5月7日(火)
- 金沢大学開学記念日 5月31日(金)
- Q1 補講週間 5月16日～5月29日の6限(2週間)
- 試験期間 5月30日(木)～6月5日(水)
- 授業終了 6月5日(水)
- 成績疑義受付期間 別途掲示

【第2クォーター】

- 履修登録期間 5月16日(木)7:00～5月21日(火)23:59
- 履修登録補正期間 ①5月24日(金)12:30～5月29日(水)23:59
②6月12日(水)7:00～6月18日(火)23:59
- 授業開始 6月12日(水)
- 履修登録確定 6月20日(木)
- 曜日振替日(月曜扱いの授業日) 7月17日(水)
- Q2 補講週間 7月18日～7月31日の6限(2週間)
- 試験期間 8月1日(木)～8月7日(水)
- 授業終了 8月7日(水)
- 成績疑義受付期間 別途掲示

- 注1. は原則として授業を行わない日 は試験日 はインターバル
2. インターバルは休講日であるが、補講や集中講義を行うことがあります。
 3. 学年暦に関する詳細及び諸通知については、すべて掲示で知らせます。
 4. 学生に対する連絡は、すべて掲示又はアカンサスポータルによって行います。掲示及びアカンサスポータルを見落としのために不利益が生じても救済しないので、常に確認するよう習慣づけてください。学生の呼び出しは、ラーニング commons の掲示板またはアカンサスポータルで行います。
- ※授業回数、試験回数は各クォーターにおける開講数を示します。

第3クォーター・第4クォーター

曜	日	月	火	水	木	金	土
10月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
11月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
1月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
2月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	1
3月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
授業		7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	回
試験		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	回

○10月期入学宣誓式

10月1日(火)

【第3クォーター】

履修登録期間 9月17日(火)7:00~9月23日(月・祝)23:59

履修登録補正期間 9月26日(木)12:30~10月7日(月)23:59

授業開始 10月1日(火)

履修登録確定 10月9日(水)

金大祭設営・撤収(休講) 11月1日(金)・11月4日(月)

曜日振替日(月曜扱いの授業日) 10月15日(火)

曜日振替日(金曜扱いの授業日) 10月31日(木)

曜日振替日(月曜扱いの授業日) 11月6日(水)

Q3 補講週間 11月8日~11月21日の6限(2週間)

試験期間 11月22日(金)~11月28日(木)

授業終了 11月28日(木)

成績疑義受付期間 別途掲示

【第4クォーター】

履修登録期間 11月8日(金)7:00~11月13日(水)23:59

履修登録補正期間 ①11月18日(月)12:30~11月21日(木)23:59

②12月5日(木)7:00~12月11日(水)23:59

授業開始 12月5日(木)

履修登録確定 12月13日(金)

共通テスト準備(休講) 1月17日(金)

Q4 補講週間 1月20日~1月31日の6限(2週間)

曜日振替日(月曜扱いの授業日) 1月16日(木)

試験期間 2月3日(月)~2月7日(金)

授業終了 2月7日(金)

TOEIC-IP (令和6(2024)年度入学者は原則全員受験)

2月10日(月)・2月12日(水)

成績疑義受付期間 別途掲示

注1. は原則として授業を行わない日 は試験日 はインターバル

2. インターバルは休講日であるが、補講や集中講義を行うことがあります。

3. 学年暦に関する詳細及び諸通知については、すべて掲示で知らせます。

4. 学生に対する連絡は、すべて掲示又はアカンサスポータルによって行います。掲示及びアカンサスポータルを見落としのために不利益が生じても救済しないので、常に確認するよう習慣づけてください。

学生の呼び出しは、ラーニング commons の掲示板またはアカンサスポータルで行います。

※授業回数、試験回数は各クォーターにおける開講数を示します。

I 履修案内

- ☆ 履修に関する事柄は、掲示及びアカンサスポータル等で通知します。
必ず、総合教育講義棟の掲示板も確認してください。
- ☆ 専門教育科目については、各学域・学類が発行している履修案内・手引き・ハンドブック等の交付物及びアカンサスポータル等により、確認してください。

金沢大学の基本理念と教育目標

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「**地域と世界に開かれた教育重視の研究大学**」の位置付けをもって改革に取むこととし、その拠って立つ理念と目標を**金沢大学憲章**として制定しています。

この金沢大学憲章では、教育について次の2点を謳っています。

- 金沢大学は、各種教育機関との接続、社会人のリカレント教育、海外からの留学、生涯学習等に配慮して、多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施する。
- 金沢大学は、**学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする**。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、**専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する**。

こうした本学の理念・目標の実現へ向けての大きな改革の一つとして、平成18（2006）年度に従来の教養教育を、導入教育や基盤教育などの幅広い教育内容を含む「**共通教育**」ということばに切り替え、教養的科目から「**共通教育科目**」に名称変更しました。

平成28（2016）年4月には、主体性を涵養する教育により、学士課程においては、専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに、大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成するため、国際基幹教育院を創設し、世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成のための本学独自の教育方針である「金沢大学<グローバル>スタンダード」(Kanazawa University“Global” Standard ; KUGS) を制定しました。

学士課程におけるKUGSは次の6項目で構成しています（詳細な解説は100ページで確認）。

1. 自己の立ち位置を知る：

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力

2. 自己を知り、自己を鍛える：

自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

3. 考え・価値観を表現する：

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力

4. 世界とつながる：

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力

5. 未来の課題に取り組む：

科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から、地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力

6. 新しい社会を生きる：

Society 5.0において幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未来の社会的課題を解決に導くための能力

本学は、このKUGSを基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目であるGlobal Standard科目（GS科目）およびGlobal Standard言語科目（GS言語科目）を中心とする体系的なカリキュラムを実施しています。

1. 共通教育科目とは

大学の教育は、基本的に教養教育（専門を超えた幅広い知識や知的技術・批判力・総合的視野などを身につける）と専門教育（専攻領域の知識・方法を身につける）に大きく区分しています。金沢大学では、このうちの教養教育のカリキュラムを大幅に見直し、科目名称も「教養的科目」から「共通教育科目」として

います。「共通教育科目」は主として低学年に、「専門教育科目」は高学年に、いわゆる「くさび型」に配置しています。また、「共通教育科目」は6つの科目区分（「導入科目」「GS科目」「GS言語科目」「基礎科目」「初習言語科目」「自由履修科目」）に分類しています（右図参照）。共通教育科目に関する規程については95ページで確認してください。

学年	授業科目の配置
4年	専門教育科目 学域GS科目 学域GS言語科目 専門基礎科目 専門科目 （教職科目）
3年	
2年	
1年	
	共通教育科目 導入科目 GS科目 GS言語科目 基礎科目 初習言語科目 自由履修科目

2. 学年・学期

大学の1年（年度）は、4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わります。この期間を4つに分けたものがクォーターで、令和6（2024）年度の第1クォーターは4月1日～6月11日、第2クォーターは6月12日～9月30日、第3クォーターは10月1日～12月4日、第4クォーターは12月5日～3月31日です。また1年を2つに分けたものが学期（セメスター）で、令和6（2024）年度の前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～翌年3月31日です。

また、第1クォーターはQ1、第2クォーターはQ2、第3クォーターはQ3、第4クォーターはQ4と省略することがあります。

3. 授業時限

- (1) 授業は、月曜日から金曜日まで開講し、土曜日、日曜日、祝日は（補講及び集中講義を除き）開講しません。
- (2) 授業は実験を除き、1時限単位で行い、1時限は90分で1コマと呼びます。
- (3) 1日の授業は6時限制で、各時限の始業・終業の時刻は、右のとおりです。

時 限	授業時間帯
1 時 限	8 : 45 ~ 10 : 15
2 時 限	10 : 30 ~ 12 : 00
3 時 限	13 : 00 ~ 14 : 30
4 時 限	14 : 45 ~ 16 : 15
5 時 限	16 : 30 ~ 18 : 00
6 時 限	18 : 15 ~ 19 : 45

4. 単位

授業はすべて単位制であり、**授業科目の履修と所定の授業外学修をすれば、試験・レポート等の成績評価を経て、単位を認定します。**

単位の計算方法は次のとおりです。

- ① 講義および演習については、原則として15時間から30時間までの授業をもって1単位とします。
- ② 実験、実習および実技については、原則として30時間から45時間までの時間をもって1単位とします。

授業科目の単位数

導入科目	大学・社会生活論	1単位
	データサイエンス基礎	1単位
	地域概論	1単位
GS科目	4D 異文化体験を除く科目	1単位又は0.5単位
	4D 異文化体験	1～8単位
GS言語科目		1単位
基礎科目		1単位又は2単位
初習言語科目		1単位
自由履修科目		1単位又は2単位

5. 授業時間割

毎年3月上旬に、Webシラバス (<https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>) を公開しますので、確認してください。

6. アカンサスポータル

アカンサスポータルとは、学生個々人のさまざまな情報にアクセスするための入口であるwebページです。金沢大学では、全学生に金沢大学IDを与え、アカンサスポータルの利用を学生生活の前提としています。学務情報等の大学からの連絡や授業担当教員からの情報などはアカンサスポータルに送りますので、**1日1度はアカンサスポータルを見てください。**

アカンサスポータルの利用のために必要な金沢大学IDと仮パスワードは、**履修ガイダンスで配付し、データサイエンス基礎の授業でアカンサスポータルの使用法を指導**しますので、入学者は休まずにこの授業に出席して使い方をマスターしてください。

7. 休講・補講

本学の公式行事等や、担当教員の都合により授業ができなくなった場合は、「休講」として掲示又はアカンサスポータルにて連絡します。また、休講となった授業の補充として「補講」を行う場合も同様です。

なお、公共交通機関の運休等の非常時の場合、遠隔授業に切り替えることがあります。その場合には、金沢大学Webサイトおよびアカンサスポータルに掲載します。常にこれらの手段で最新情報を集めてください。

また、スマートフォンに「金沢大学身分証アプリ」をインストールし、ログインをして、必要な設定をするとアカンサスポータルの掲載情報を確認できます。「金沢大学身分証アプリ」については、115ページで確認してください。

8. 緊急登学停止

警報の発令や不測の事態が生じ、授業等の実施が困難となるおそれが高いと大学が判断する場合、原則として、前々日の16時頃を目途に「緊急登学停止」の措置を発令する場合があります。登学停止措置発令期間における授業は、原則、オンラインで実施します。その場合には、金沢大学Webサイトに掲載するとともにアカンサスポータル又は、金沢大学緊急時連絡システム（C-SIREN）にて連絡します。

9. 授業の欠席

学生にとって、**授業への出席は義務**です。本来、全授業時間に出席していなければなりません。やむを得ず欠席しなければならない場合が生じたとしても、単位修得に最低限必要な出席日数を決めています。

単位を修得するには、原則として、当該科目の授業日数の3分の2以上の出席が必要です。特に保健体育関連科目の実技と実験・実習は、出席すべき日数の5分の4以上の出席が必要です。

書面で欠席を届け出たり、課外活動や冠婚葬祭等で出席扱いを願い出たりする制度はありません。課外活動や冠婚葬祭等は上記の「やむを得ない」場合に組み込んでいるからです。

ただし、インフルエンザ等の感染症に罹患した場合や教育職員免許状取得で介護等体験のため授業に出席できない場合は、所属学類の学務係に申し出て、指示に従ってください。

なお、遅刻も厳禁です。授業科目ごとに異なりますが、一定時間を超えた遅刻は出席として認めないことがあります。

10. 既往症ならびに治療中の病気

これまで患ったことのある病気や、現在治療中の病気で、授業中に救急対応の求められることが発生する可能性があるもの（例：てんかん、気管支喘息、心臓発作等）については、あらかじめ授業担当教員に話しておいてください。

11. インフルエンザ等感染症

季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症等にかかった場合は、授業担当教員及び所属の担当学務係に連絡をしたうえで、各々の報告方法にて報告してください。

報告方法については、以下Webサイトで確認してください。

金沢大学保健管理センター Webサイト内「感染症と診断された場合の対応について」

<https://hsc.w3.kanazawa-u.ac.jp/infection/>

なお、季節性インフルエンザは、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで「出席停止」となり、新型コロナウイルス感染症は、発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで「出席停止」となります。

ただし、社会情勢の変化により変更になることがあります。Webサイトやアカンサスポータルで常に最新情報の収集に努め、その時点での対応を確認してください。

12. 履修に関する注意

- (1) 共通教育科目と専門教育科目
- (2) 修得すべき共通教育科目と単位数
- (3) 自由履修枠
- (4) 履修に関するいろいろな制限
 - ① 履修登録単位数（履修が許可される単位数）の制限
 - ② 対象者による制限 全学生／限定／優先
 - ③ 収容数等による制限 抽選／スクリーニングテスト
 - ④ 重複履修の禁止 同一曜日・時限／同一授業科目名／合格済み科目
 - ⑤ 保健体育（GS 2 F・3 F）関連科目の履修制限
- (5) 集中講義
- (6) 開放科目
- (7) その他

この項目は、各自の時間割作成にあたって、特に大切です。「15. 各科目の履修・単位修得方法」「16. 学類別の卒業要件」とともに、十分注意して読んでください。

(1) 共通教育科目と専門教育科目

本学では、共通教育科目と専門教育科目を並行して開講します。原則として2年前期まで（医学類は1年後期まで）は主として総合教育講義棟および保健体育関連施設で開講します。

共通教育科目は、全学年を通じて開講しますが、学年が進むにつれて専門教育科目と重なる時間帯が増えてきます。

したがって、共通教育科目の履修は、履修上の規則および共通教育科目の時間帯表（104ページ）を十分理解した上で、しっかりした履修方針と年次計画を立てることが必要です。

共通教育科目の履修方法は、この『履修案内』で説明していますが、専門教育科目の履修方法は、各学類の履修の手引きなどによって説明しています。両方をよく読んでください。

また、授業科目ごとの注意はWebシラバスで確認してください。

(2) 修得すべき共通教育科目と単位数

共通教育科目に関する規程及び各学域規程により、それぞれの学類で修得すべき共通教育科目の内訳を決めています。卒業のためには、内訳に示された各科目区分の単位修得の要件（単位数・指定科目など）を満たし、さらに修得した全共通教育科目の単位数の合計が「共通教育科目合計」以上であることが必要です。

詳細は「16. 学類別の卒業要件（共通教育科目）」の各学類の説明で確認してください。

(3) 自由履修枠

数物科学類、物質化学類では、共通教育科目と専門教育科目のそれぞれの所定単位数を充たしても、卒業要件の総単位数には足りません。この不足分の単位数を「自由履修枠」と呼び、共通教育科目・専門教育科目のどちらからでも充たすことができます。自らの興味関心や能力に合わせて選択してください。

また、共通教育科目および専門教育科目の所定の単位数以上を修得すれば、その単位は自動的にこの枠に充足しますので、この枠に関連して特別な履修上の手続きをする必要はありません。

(4) 履修に関するいろいろな制限

① 履修登録単位数（履修登録が許可される単位数）の制限

・履修登録単位数は、各クォーターにつき共通教育科目・専門教育科目合わせて、1年次は12単位（医学類は共通教育科目のみ対象、薬学類はQ1～Q3が12.5単位、Q4は13.5単位）としています。

・次の科目は、共通教育科目の履修登録単位数の上限単位の対象外とします。

集中講義／いしかわシティカレッジにおいて開講する科目／放送大学において開講する科目／総合教育部（理系）の学生のみ一部の基礎科目（統計数学A・B、物理学実験、化学実験、地学I A・I B）

② 対象者による制限

・対象者による制限を設けている授業科目があります。対象者指定科目は、Webシラバス等に明記してあります。主な指定方法は以下のとおりです。

1. 全学生…対象者を特に指定せず、全学類・全学生を対象とする。

2. 限定…指定された学類・学年等の該当者以外は、原則不可。

再履修の場合などは指定学年以外でも許可することがあります。

3. 優先…指定された学類・学年等を優先する。

* 限定と優先を合わせて指定することもあります。

* Web上で履修登録できた場合でも、対象外の場合取り消すことがあります。

* 事前に履修者の選考等を行う科目もあります。詳細は掲示等で通知します。

③ 収容数等による制限

・ほとんどの科目には、教育効果や教室の収容力等を配慮して、受講者の適正人数を設定しています。受講希望者がそれを超過した場合、抽選やスクリーニングテスト等により受講者数調整が行うことがあります。

1. 抽選…ランダムに抽選して履修許可者を決定する（学年等で優先することがある）。

2. スクリーニングテスト…ミニテスト等課題を課し、その結果により履修許可者を決定する。

④ 重複履修の禁止

・以下のような履修は禁止しています。もし試験を受けても、履修許可された科目以外は単位認定しません。

1. 同一曜日・時限に開講する異なった授業科目の履修

2. 授業科目名が同じ科目の履修（一部のGS科目、Practical English (Retake)、EAP (Retake)、初習言語「展開」は除く）

* 授業科目名にA・BやI・II等がついている場合は別の科目なので、この禁止条項に該当しません。

* GS科目の例外については、27ページで確認してください。

3. 合格済み科目の再履修（科目名が異なる「過去の同一科目」を含む。過去の同一科目はWebシラバスの「履修条件」等で確認できます。）

⑤ 保健体育（GS科目2F・3F）関連科目の履修制限

・保健体育科目関連の集中講義を除く実技型授業の履修は、各クォーター内に2つまでです。さらに、実技授業の履修は同一曜日に1つまでです（詳細は27ページで確認）。

また、GS科目2F・3Fの修得できる単位数はそれぞれ2単位以下に制限しています。

(5) 集中講義

通常の授業期間外に、短期間に集中して行う授業科目を「集中講義」と呼びます。履修手続は、国際基幹教育院のWebサイト上で公開しています(5. 授業時間割表と同じ)。

なお、集中講義は履修登録単位数の上限単位に含みません。

(6) 開放科目

学類の専門教育科目で共通教育科目としても登録できる授業科目を「開放科目」と呼びます。**時間割番号が、共通教育科目用と専門教育科目用の二通り存在しますので、どちらか一方の番号を選択し、履修登録してください**(授業科目名が二種類存在することもあります)。

どちらかの科目で単位を修得したあとで、もう一つの科目として履修することは、「重複履修の禁止」の3に該当し、履修は許可しません。また、履修登録後・単位修得後の共通教育科目または専門教育科目への登録変更もできません。履修登録の際には、将来的な授業計画までよく考えながら、どちらの科目として登録するか選択してください。

令和6(2024)年度の開放科目を以下に付します。授業時間・履修制限・時間割番号・開講場所などの詳細は、共通教育科目または専門教育科目のWebシラバスや時間割表で確認してください。また、授業開始日・試験日および終了日は学類によって異なるので、該当学類の学年暦にしたがって履修してください。

令和6(2024)年度 開放科目一覧

授業科目名	【科目区分】	単位数	担当教員名	開講学期・曜日時限	学類等	専門教育科目名
金沢大学の歴史を学ぶ (自校教育入門)	【自由履修科目】	1	林 透	Q1・月曜2限	人間社会学域	金沢大学の歴史を学ぶ(自校教育入門)
金沢大学の歴史を学ぶ (自校教育入門)	【自由履修科目】	1	林 透	Q2・月曜2限	人間社会学域	金沢大学の歴史を学ぶ(自校教育入門)
泉鏡花と金沢アート (STEAM教育入門)	【自由履修科目】	1	林 透	Q4・木曜5限	人間社会学域	泉鏡花と金沢アート(STEAM教育入門)
防災学入門	【自由履修科目】	2	青木 賢人	Q2・集中	人間社会学域	防災学入門
様相論理入門	【自由履修科目】	2	足立 英彦	Q1・月曜1限、木曜1限	法学類	特講A(様相論理入門)
ドイツ語文献購読Ⅰ	【自由履修科目】	1	仲正 昌樹	Q3・木曜1限	法学類	外国書購読(独)
ドイツ語文献購読Ⅱ	【自由履修科目】	1	仲正 昌樹	Q4・木曜1限	法学類	外国書購読(独)
社会実装から学ぶ循環経済	【自由履修科目】	1	佐川 哲也	Q2・月曜4限	地域創造学類	地域創造プロジェクト講義E
ローカルキャリアデザインⅠ	【自由履修科目】	1	佐川 哲也	Q2・木曜5限	地域創造学類	地域創造プロジェクト演習A
ローカルキャリアデザインⅡ	【自由履修科目】	1	佐川 哲也	Q3・木曜5限	地域創造学類	地域創造プロジェクト演習B
環境動態学概説Ⅰ	【自由履修科目】	1	塚脇 真二	Q3・水曜1限	国際学類	地球環境論1E
環境動態学概説Ⅱ	【自由履修科目】	1	塚脇 真二	Q4・水曜1限	国際学類	地球環境論2E

(7) その他

授業中は、以下の行為を禁止します。

- 授業の撮影・録画・録音(担当教員の指示もしくは許可を得た場合を除く。)
- 他の履修者に迷惑を掛ける言動
- 本学の指示・指導に反する言動

13. Webシラバスの利用方法

(1) シラバスとは

シラバスには、授業目標、授業内容、授業計画、評価の方法、オフィスアワー等重要な項目を記載しています。授業を選択する際には、Webシラバスをよく読んでおく必要があります。

(2) Webシラバスの見方

金沢大学Webサイトトップページ→「Webシラバス」を開きます。

「開講学域・研究科」のプルダウンから「共通教育」を選択します。

(3) 検索方法

① 科目区分から検索するには、「開講学類・専攻」をクリックし選択します。

「開講学類・専攻」のプルダウンから科目区分を選択し、検索ボタンをクリックします。

② 曜日・時限を選択して検索する。

「開講学期」「曜日」「時限」のプルダウンから開講学期、曜日、時限を選択し、検索ボタンをクリックします。

③ 科目名、教員名、キーワードから検索する。

科目名、教員名、キーワードから検索することもできます。

※学域、曜日・時限、科目名、教員名、キーワードの条件を組み合わせ検索することもできます。

検索画面に戻る

検索条件

開講年度			
2017			
開講学域・研究科		開講学類・専攻	
共通教育			
曜日	時間	時間割コード(前方一致)	
科目名検索	教員名検索	キーワード検索	全文検索
大学・社会生活論			

表示件数 30件毎

No	時間割コード	日	英	開講学域・研究科 授業科目名	担当教員	開講期	曜日・時間
1	79500.01	日	英	共通教育 導入科目 大学・社会生活論[Lecture on Life in Campus and Society]	田中 徳之[TANAKA, Toshiyuki], 若田 礼 [IWATA, Ray], 若津 航[IWATSU, Ko], 山本 洋 [YAMAMOTO, Hiroshi], 小笠原 知子[OGASAWARA, Tomoko], 鈴木 克徳[SUZUKI, Katsunori]	Q1	月2
2	79500.02	日	英	共通教育 導入科目 大学・社会生活論[Lecture on Life in Campus and Society]	合田 薫子[GODA, Atsuko], 足立 由美 [ADACHI, Yumi] 小林 健介 [KOBAYASHI, Kenji]	Q1	月2

見たい科目の言語（日本語・英語）をクリックします。日本語のみ、英語のみのものもあります。

Syllabus

リンク用ページ 印刷用PDF

科目名(英文化)	大学・社会生活論[Lecture on Life in Campus and Society]		
担当教員(ローマ字表記)	田中 徳之[TANAKA, Toshiyuki], 若田 礼[IWATA, Ray], 若津 航[IWATSU, Ko], 山本 洋[YAMAMOTO, Hiroshi], 小笠原 知子[OGASAWARA, Tomoko], 鈴木 克徳[SUZUKI, Katsunori]		
科目ナンバー	INT1100A	科目ナンバリングとは	
時間割番号	79500.01	科目区分	
講義形態	講義	対象学生	人文学類1年限定
適正人数		開講学類	Q1
曜日・時間	月2	単位数	1
キーワード	大学生生活, 社会生活, 将来設計 university life / social life / career design	開講学域専	共通教育
開放科目			
講義室情報	総合教育講義棟 A1講義室	M A P 情報	
備考			

授業の主題

知的キャンパスライフのすすめ

An encouragement of the intellectual campus life

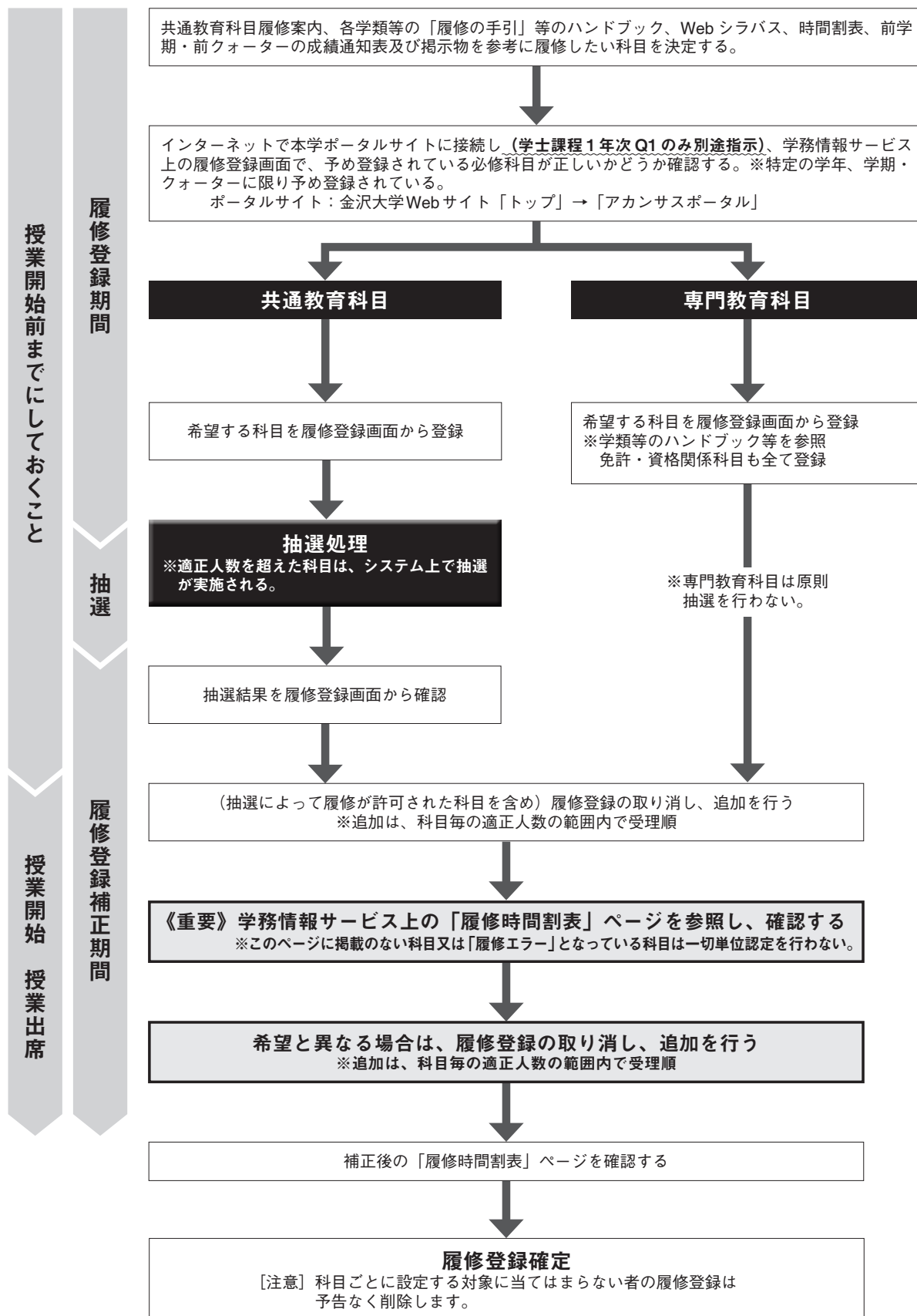
授業目標

大学生生活は高校までのそれと大きく異なる。とりわけ学習のあり方や社会的責任の違いは重要である。ただ、高校まではそれらについてあまり考える機会をもたなかったことが原因で、入学後のとまどいやトラブルが生じてしまう場合も見受けられる。また、この新生活を有意義に過ごすには、将来を考えながら自己発見・自己開発をしていくことが重要である。しかしながら、その手がかりがつかぬままに日々を過ごしてしまう学生も見受けられる。

選択した科目の Web シラバスが表示されます。

14. 履修登録の手続・方法

履修登録の流れ図



(1) 履修登録手続きに必要な知識

- ① 学籍番号
- ② 名列番号
- ③ 時間割番号
- ④ 履修登録
- ⑤ 履修登録の種類

(2) 履修登録日程の概要

- (3) 履修登録期間にする事項
- (4) 履修登録補正期間にする事項

各学期・クォーターに開講される授業科目で単位認定を希望する授業科目は、すべて履修登録手続きが必要であり、履修登録手続きをしていない授業科目は、授業に出席することも試験を受けることもできません。期限内に遅れたり、手続きミスをしたりとすると、その学期・クォーターの履修ができなくなりますので、以下の内容をよく読んで、間違いのないようにしてください。

また、変更などは掲示しますので、常に掲示板を見て、早め早めに手続きを済ませてください。

専門教育科目の履修も履修登録が必要です（医学類を除く）。詳細は学類からの指示に従ってください。

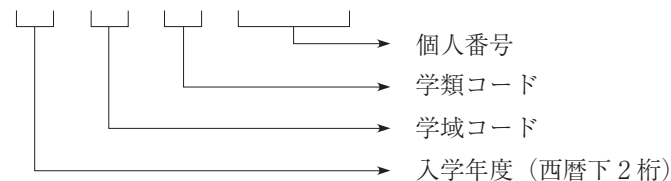
(1) 履修登録手続きに必要な知識**① 学籍番号**

学生一人一人に卒業まで基本的に変更しない学籍番号を与えています。各種申請や呼び出し、掲示など様々な場面で使用します。必ず学生証で確認してください。

なお、学籍番号は右のような規則で付番しています。

学籍番号

2 4 5 1 0 1 0 0 0 1



学域・学類番号

学域	学域コード	学類	学類コード	学域	学域コード	学類	学類コード	学域	学域コード	学類	学類コード
融合学域	55	先導学類	01	理工学域	52	数物科学類	01	国際基幹 教育院 総合教育部	54	文系	01
		観光デザイン学類	02			物質化学類	02			理系	02
		スマート創成科学類	03			3学類一括	10				
人間社会学域	51	人文学類	01			地球社会基盤学類	14				
		法学類	02			生命理工学類	15				
		経済学類	03			医学類	01				
		学校教育学類	07	薬学類	04						
		地域創造学類	05	医薬科学類	05						
		国際学類	06	医薬保健学域	53	保健学類	03				

② 名列番号

学域／総合教育部・学類・学年ごとに氏名を50音順に並べた名簿上の順序を名列番号と言います。

また、この番号は、所属によってはコース等の配属により変更しますのでアカンサスポータルから確認してください。

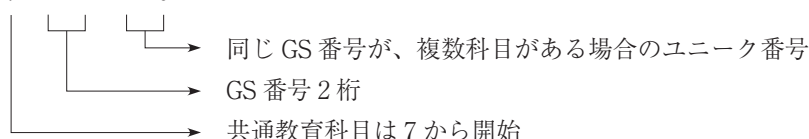
③ 時間割番号

開講する共通教育科目すべてに5桁（又は6桁）の科目番号を付けています。必ずWebシラバスで確認してください。同一科目を複数開講する場合等は、枝番（小数点以下）が付きます。

なお、GS科目は、以下の規則で科目番号を付番しています。

例) GS科目 「1A 現代世界への歴史学的アプローチ」

科目番号： 7 1 A 1 0



④ 履修登録

本学では、Webサイトから履修登録を行います。

履修登録画面へは、学内、学外を問わず接続できます。ただし、学内ネットワークを利用する場合は、KAINS ID^{*}を自ら取得する必要があります。取得方法は、共通教育履修ガイダンスで配付する資料で確認してください。

※ KAINS IDとは、無線LANへの接続をする際に使用するIDです。

また、履修登録画面へのログインにあたっては、共通教育履修ガイダンスで配付する「金沢大学ID」^{*}と、そのパスワードが必要です。詳しい方法は、学生便覧で確認してください。

※ 「金沢大学ID」とは、アカンサスポータルや学内専用Webページなどの学内認証に使われている金沢大学統合認証システム (KU-SSO) を利用する時に使うIDです。

⑤ 履修登録の種類

科目により、履修登録には4つの種類があります。

(ア) 予め登録されている科目

学類が必修科目として指定している共通教育科目は、担当している学年、学期・クォーターに限り、予め履修登録してあります。

また、初習言語科目も、第2クォーター以降予め履修登録してある科目があります。詳細は「初習言語科目」(48ページ～)で確認してください。

(イ) システムにより抽選される科目 (システム抽選対象科目)

GS科目、Practical English (Retake)、EAP (Retake)、初習言語科目、留学生のみ履修登録可能なGS言語科目 (日本語) 及び自由履修科目は履修登録期間内に希望する科目を登録します。希望する学生数が科目ごとに設定した適正人数を超えた場合、予め設定した期日にシステムにより抽選を行います。

(ウ) 抽選せず履修登録できる科目

専門教育科目 (別に指示のあるものを除く)、必修科目以外の基礎科目、シティカレッジ開講科目及び放送大学科目は、システムにより抽選することなく履修登録できます (適正人数の設定のない一部のGS科目、自由履修科目も同様)。

(エ) 事前の選考等で履修者を決定する科目

(ア)～(ウ)のほか、事前に選考などを行い、履修者を決定する科目等もあります。詳細は、科目ごとに掲示等で通知します。

(2) 履修登録日程の概要

履修登録日程は、以下の期間等から構成します。各日程などの概要はここに記載していますが、詳細は(3)以降で確認してください。

・履修登録期間

専門教育科目を含め履修を希望する科目をすべて登録します。

〈・システム抽選処理〉

履修登録期間に希望者が適正人数を超えたシステム抽選対象科目に対して抽選します。

- ・履修登録補正期間

システム抽選により履修が許可されなかった科目を中心に履修登録を補正します。

- ・授業開始

履修許可を受けた授業に出席します。

(3) 履修登録期間にする事項

まず、自分だけの時間割（予定表）を作成してください。その手順と注意事項は以下のとおりです。

① 時間割（予定表）作成の手順

学類別の卒業要件（56～82ページ）と共通教育科目の時間帯表（104ページ～）、Webシラバスを確認し、以下の例（1年次第1クォーターの場合）を参考に白紙の時間割表に記入してみてください。白紙の時間割表のサンプルは、国際基幹教育院Webサイトにあります。

国際基幹教育院Webサイト→「新入生・在学生の方へ」→「学年暦／授業時間割表」

Step 1 必修科目（履修して単位修得しなければ卒業できない科目）を入れる

大学・社会生活論／地域概論／GS言語科目（英語）「Practical English」及び「EAP」／データサイエンス基礎／必修指定の基礎科目（理工学域および医薬保健学域）

*開講期は、「共通教育科目の時間帯表」またはWebシラバスで確認してください。

*GS言語科目（英語）は履修する時間割を指定しています。自分が指定された時間割は、履修登録画面で確認してください。

*専門教育科目の時間を空けておいてください。あとで各学類のWebシラバス・時間割表をみて授業科目を入れてください。Webシラバスを使えば、専門教育科目の時間に開講される授業科目を知ることができます。トップページで学域からの検索をクリックし、検索画面で所属学類と学年・開講期を選択すると、履修できる専門教育科目の一覧を見ることができます。

初習言語科目…必修の学類では初習言語「基礎」・「実践基礎」を各1コマ入れるのが標準
GS言語科目（日本語）…留学生のみ登録します。対象学生には個別に指示します。

Step 2 その他の履修希望科目を入れる

*学類別の卒業要件（56～82ページ）及びWebシラバスを参考に授業科目を選択してください。

*「履修に関するいろいろな制限」（10ページ）と「各科目区分の履修・単位修得方法」（20ページ～）も注意して読んでください。

*初習言語科目は、学類ごとに細かな指導があるので、「初習言語科目」（48ページ～）および『初習言語ガイドブック』で確認してください。

② 時間割（予定表）作成における留意事項

- ・GS科目、GS言語科目（日本語）、初習言語科目及び自由履修科目は、希望者が適正人数を上回った場合、抽選を行い、その結果によって履修を許可しないことがあります。その場合のために、**第2希望以降をできるだけ多くあらかじめ想定**しておいてください。
- ・抽選において優先される学類、学年等や、履修登録が特定の学類、学年等に限定している科目がありますので、Webシラバスで確認してください。
- ・本学との単位互換協定により、「いしかわシティカレッジ」の授業科目と、放送大学の指定された授業科目の修得単位は、卒業要件の単位数に算入できます。詳しくは「24. 「いしかわシティカレッジ」の授業科目の履修」（91ページ）、「25. 放送大学の授業科目の履修」（92ページ）で確認してください。
- ・本学入学前に大学・短大等での修得単位は、入学前の既修得単位認定の制度を利用できます。詳しくは、「22. 入学前の既修得単位の認定」（91ページ）で確認してください。ただし、審査結果の通知は履修登録後に行うので、すべて不許可を想定して履修登録の手続きを進めてください。
- ・外部試験（TOEIC等）の所定のスコア・成績を得たことで単位を認定する制度があります。詳しくは、「（7）外部試験による成績評価制度」及び「（8）外部試験による単位認定制度」（GS言語科目35～

38ページ)又は、「(8)外部試験による単位認定」(初習言語科目54ページ)で確認してください。

・専門教育科目の履修に関しては、所属学域・学類の規則を確認してください。

③ Webサイトから履修登録を行う

・履修登録はWebサイトを通して行います。

・まず必修科目が正しく登録されているか確認してください。疑義がある場合は、至急基幹教育学務係に申し出てください。

・作成した時間割表(予定表)に従って、履修希望科目を、専門教育科目を含めすべて登録してください(医学類は専門教育科目の登録は不要)。

・システムによる抽選手順は、学務情報サービスのマニュアルに掲載しているので、確認してください。
アクセス方法

本学Webサイト「トップ」→「アカンサスポータル」→「学務情報サービス」

・システム抽選対象科目については、抽選の結果、履修が許可されなかった場合に備えて、複数の科目を登録してもかまいません。

・集中講義やいしかわシティカレッジ・放送大学の授業科目についても履修登録が必要です。

・時間割は、しばしば変更がありますので、常に掲示やWebシラバス等に注意して確認してください。

(4) 履修登録補正期間にする事項

授業開始までにシステム抽選の結果をWebサイトから確認してください。抽選の結果、履修が許可されなかった科目がある場合や、履修登録を間違えた場合は、補正を行います。

この期間には、抽選の結果履修が許可された科目を含め、履修登録の取り消し及び追加ができますが、追加は適正人数の範囲内で受理順での登録となりますので、注意してください。

・学務情報サービス上の「履修時間割表」を参照し、履修が許可された科目や、記載されている注意事項を確認してください。

・授業開始後も間違いがある場合や、追加・削除したい授業科目がある場合は、必ずこの期間中にWebサイトで訂正してください。期限を過ぎると訂正できません。

・作業がすべて終了したら、「履修時間割表」をPDFで別途保存しておいてください。これで履修登録は終了です。

・履修登録画面上登録できたとしても、科目ごとに設定されている対象学生に該当しない場合や、単位認定に不都合がある場合、予告なく履修許可を取り消すことがあります。

・「履修時間割表」は、次学期・クォーター開始前の成績通知まで大切に保管してください。

15. 各科目区分の履修・単位修得方法

ここでは、6つの科目区分毎に履修や単位修得のルールを解説します。本年度の開講科目と授業内容についてはWebシラバスを、学類等ごとの卒業に必要な単位数や履修上の制約などは「16. 学類別の卒業要件（共通教育科目）」（56～82ページ）を確認してください。

導 入 科 目

- (1) 導入科目は、「大学・社会生活論」「データサイエンス基礎」及び「地域概論」の3つの授業科目から構成します。いずれも、原則として、1年次第1クォーターに開講される必修科目です。ただし、第2クォーターに開講される学類もありますので、104ページ以降の「共通教育科目の時間帯表」または、履修ガイダンスで確認してください。

これらの必修科目に関して、Webシラバスの「対象学生」の欄に「〇〇学類1年次限定」などの記載があります。対象学生として自分が所属する学類に限定している授業を必ず履修してください。予めクラス分けされた状態で履修登録されているものもあるので、履修登録も確認してください。

- (2) 「大学・社会生活論」は、入学者が大学に慣れ、大学生としての生活態度及び自己管理能力を身につけて、充実した大学生活を送るようになることを目的とした授業科目です。

「大学・社会生活論」はオムニバス形式でさまざまな内容の講義を行います。いくつかの項目については、eラーニングを利用して授業を行います。学類等独自の内容を追加する場合があります。

ガイダンス
 大学の使命・学類の使命
 大学図書館の利用法
 学長講義
 キャリア形成
 健康論（eラーニングも必要）
 大人の交通マナー
 消費者被害に遭わないために
 医の倫理・生命倫理
 金沢大学の歴史
 環境論（環境問題の基礎）
 学生向け性暴力対策出前講座
 学問論
 企業倫理（技術者倫理）
 これからの日本のために財政を考える
 社会保障制度とライフプランニング
 新聞から学ぶ
 人権論
 大学における学修方法
 データで読み解く北陸経済の現状と地域活性化の取組み
 日本国憲法
 ハラスメント
 薬物問題を考える
 留学と国際交流

eラーニングによる授業動画配信及び期末テスト予定表

* eラーニングによる授業動画は、アカンサスポータルの「大学・社会生活論」全学類等のコースで配信期間に視聴できます。学類ごとに必修・選択必修を指定しており、その学類の学生は、指定している動画を視聴し、その後の簡単な確認テスト（5問程度の予定）を受けて合格してください。

授業動画名	配信予定期間	月1						月2					月3	火2	木3	金2	金4					
		数物科学類	物質化学類	地球社会基盤学類	生命理工学類	医薬科学類	保健学類	総合教育部(理系)	人文学類	法学類	地域創造学類	国際学類	総合教育部(文系)	薬学類	先端学類	観光デザイン学類	スマート創成科学類	医学類	学校教育学類	理工3学類(後半)	経済学類	理工3学類(前半)
1 大学における学修方法	4月上旬～6月5日まで	自	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 環境問題の基礎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 レポートの書き方～理系を中心に～		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 レポートの書き方～文系を中心に～		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5 ハラスメント		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6 消費者被害に遭わないために		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
7 薬物問題を考える		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
8 金沢大学の歴史		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
9 人権論		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
10 日本国憲法		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
11 新聞から学ぶ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
12 これからの日本のために財政を考える		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
13 データで読み解く北陸経済の現状と地域活性化の取組み		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
14 社会保障制度とライフプランニング		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
15 健康論(授業録画コンテンツ)		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
16 健康論1-タバコの害		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17 健康論2-健康診断の読み方(必) ^{注1}		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
18 健康論3-熱中症		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
19 健康論4-食事バランスと健康		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
20 健康論5-一次救命措置～心肺蘇生とAED		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
21 健康論6-男・女のからだのこと		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

凡例 ◎：必修 △：強く視聴を勧める 自：自由視聴

注1：「健康論2」は健康診断結果を読み解くものですので、診断結果を受け取った後、7月31日までに視聴してください。この「健康論2」以外のすべての視聴必須(◎)のものは6月5日までに必ず視聴してください。

* 期末テストは、テキストをもとに作成した10問に25分以内で回答します。(設問は予め用意した80問の中からアトランダムに出題します。)テストは5回チャレンジでき、8割以上正解で合格(学類によっては、6割以上正解で合格)です。点数はテスト終了後に判明します。正解が7問以下(5問以下)の学生は、再テスト期間に再チャレンジしてください。なお、テストには2つの形式があり、10問を通問で出す「通問形式」と、全体を5セクションに分け、1セクション2問(制限時間5分)×5の「ユニット形式」があります。学類によって、どちらかの形式です。

期末テスト配信期間	5/17～5/23
期末テストの再テスト期間	5/30～6/5

* 法学類及び医学類は、eラーニングによる期末テストは行いませんので、授業担当教員の指示に従ってください。

* 全回出席を成績評価の前提としている学類は、授業を収録した動画をアカンサスポータルにアップします。欠席した学生は、欠席回の動画を視聴してレポートを書いてください。

* パソコンでeラーニングを視聴して終了する場合、ブラウザを直接閉じたり、タブの「×」をクリックして終了すると、学修履歴の利用時間が記録されませんので、必ず「しおりをつけて閉じる」または「ユニットを閉じる」をクリックして終了してください。

* 期末テストは、5回の実行回数制限をしています。実行回数はアクセスする回数を意味します。「開始」し、「閉じる」を押すと1回とカウントしますので注意してください。

- (3) 「データサイエンス基礎」は、データサイエンスに関わる基礎知識の修得を目的とした授業科目です。授業内容は大きく分けて、データサイエンスに必要な情報リテラシーや情報倫理の学修とデータサイエンスに関する基礎的概念の学修から成ります。

「データサイエンス基礎」はeラーニングで学ぶ内容を含み、必携の携帯型パソコンを使って授業を行います。学類によっては、一部の授業内容を学術メディア創成センター等のパソコンを使って行います。また、8回の授業の前半と後半で実施時間、実施場所が異なる学類もあります。学類での説明をよく聞いてください。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 第1回：KAINSの接続実習、基本ソフトの設定など | 第4回：データ収集や資料探索実習 |
| 第2回：ポータルを活用実習 | 第5回から第8回：各学類による内容 |
| 第3回：データサイエンスとは何か | |

- (4) 「地域概論」は、学類で学ぶ専門分野と地域・社会との繋がりについて理解し、地域・社会に対する関心を高め、自分の将来の目標を意識しつつ、大学でどのように学ぶかを考える授業科目です。

「地域概論」には、授業に加えて一部の学類で、インターネットによる動画教材を視聴して、各自で学ぶ内容を含みます。

- (5) 導入科目の成績は合・否の2段階評価とします。ただし、人間社会学域の経済学類、地域創造学類および理工学域の物質化学類、地球社会基盤学類学生対象の「データサイエンス基礎」は、S・A・B・C等で評価します。

(6) 単位保留制度

導入科目には、単位保留制度（89ページで確認）を適用します。それぞれのルールは次のとおりです。

① 大学・社会生活論

「保留」と評価された学生には、課題と指導を課します。

② データサイエンス基礎

「保留」と評価された学生には、補講、課題あるいはレポートの再提出などを課します。補講、課題や再レポートについての指示は、アカンサスポータルのメッセージを使って担当教員が行いますので、メッセージ、掲示等に注意してください。

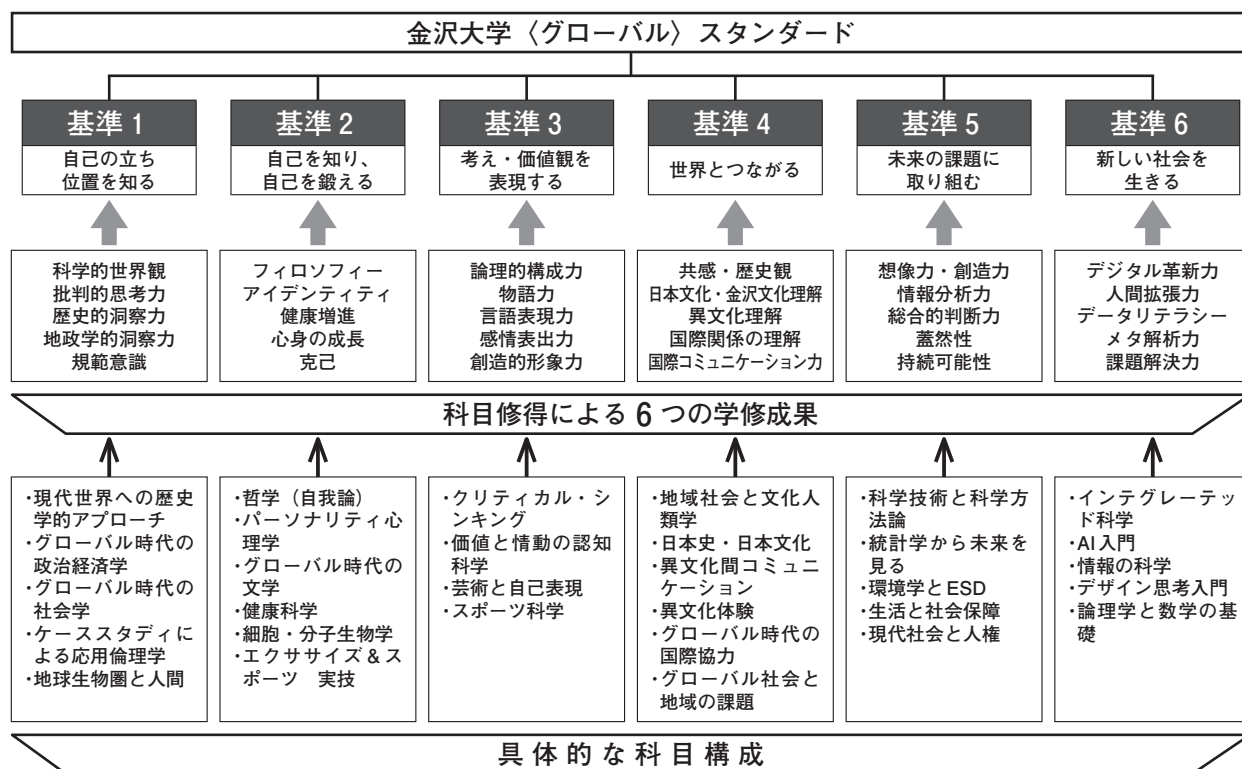
③ 地域概論

「保留」と評価された学生には、課題と指導を課します。

いずれの科目も、「保留」の期間は半年です。「否」とされた場合は、次年度に所属学類に対象を限定している授業を再履修してください。所属学類対象の科目を履修することが難しい場合は、基幹教育学務係に問い合わせてください。

G S 科 目

GS科目はKUGSの教育目標で示した具体的な能力を獲得させるために設定した科目群です。KUGSに基づいた6群より成り、各群に4～6科目を配置しています。



(1) GS科目

GS科目の学修成果を示します。各科目の詳細は、Webシラバスで確認してください。

① 1群 自己の立ち位置を知る (KUGS1)

授業科目名	学修成果のキーワード				
	科学的世界観	批判的思考力	歴史的洞察力	地政学的洞察力	規範意識
1 A 現代世界への歴史学的アプローチ	○	○	◎	○	○
1 B グローバル時代の政治経済学	○	○	○	◎	○
1 C グローバル時代の社会学	○	◎	○	○	○
1 D ケーススタディによる応用倫理学	○	○	—	○	◎
1 E 地球生物圏と人間	◎	○	○	—	—

② 2群 自己を知り、自己を鍛える (KUGS2)

授業科目名	学修成果のキーワード				
	フィロソフィー	アイデンティティ	健康増進	心身の成長	克己
2 A 哲学（自我論）	◎	○	—	○	○
2 B パーソナリティ心理学	○	○	—	○	◎
2 C グローバル時代の文学	○	◎	—	○	○
2 D 健康科学	—	○	◎	○	○
2 E 細胞・分子生物学	○	◎	○	—	—
2 F エクササイズ&スポーツ 実技	—	—	○	◎	○

③ 3群 考え・価値観を表現する (KUGS3)

授業科目名		学修成果のキーワード				
		論理的 構成力	物語力	言語表現力	感情表出力	創造的 形象力
3B	クリティカル・シンキング	○	◎	○	○	○
3C	価値と情動の認知科学	○	—	○	—	◎
3E	芸術と自己表現	—	○	—	◎	○
3F	スポーツ科学	—	○	—	◎	○

④ 4群 世界とつながる (KUGS4)

授業科目名		学修成果のキーワード				
		共感・ 歴史観	日本文化・ 金沢文化理解	異文化理解	国際関係の 理解	国際コミュニ ケーション力
4A	地域社会と文化人類学	○	◎	—	—	○
4B	日本史・日本文化	◎	○	—	○	—
4C	異文化間コミュニケーション	○	○	◎	—	○
4D	異文化体験	○	—	○	○	◎
4E	グローバル時代の国際協力	○	○	○	◎	○
4F	グローバル社会と地域の課題	◎	○	○	○	—

⑤ 5群 未来の課題に取り組む (KUGS5)

授業科目名		学修成果のキーワード				
		想像力・ 創造力	情報分析力	総合的 判断力	蓋然性	持続可能性
5A	科学技術と科学方法論	◎	○	○	○	○
5B	統計学から未来を見る	—	○	○	◎	—
5D	環境学とESD	○	○	○	—	◎
5E	生活と社会保障	—	○	◎	—	○
5F	現代社会と人権	○	○	○	○	◎

⑥ 6群 新しい社会を生きる (KUGS6)

授業科目名		学修成果のキーワード				
		デジタル 革新力	人間拡張力	データ リテラシー	メタ解析力	課題解決力
6A	インテグレート科学	○	◎	—	○	—
6B	AI入門	◎	—	○	○	○
6C	情報の科学	○	—	◎	○	—
6D	デザイン思考入門	—	○	—	○	◎
6E	論理学と数学の基礎	—	○	○	◎	○

(2) 履修（単位修得）要件

1群から5群は、各群から2単位を含む12単位を修得してください。

6群は、3単位を修得してください。

GS科目全体では、計15単位を修得してください。その他の要件は、下表のとおりです。

(注) 単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入します。

(注) 1群から5群で12単位を超える修得要件は、自由履修科目に算入します。

(注) GS科目全体（1群から6群）で15単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入します。

(注) 各群の「備考」欄も注意してください。

【具体例】

	1群	2群	3群	4群	5群	6群	計	判定
単位数	3	3	2	2	2	3	15	○
	2	4	2	2	2	3	15	×
	3	3	2	2	2	3※	15	×

※（6A2単位、6B1単位）

「1群～5群の各群から2単位（計10単位）」＋「1群～5群の2つの群からプラス1単位ずつ（計2単位）」＋「6群3単位（計3単位）」＝合計15単位を修得してください。その際は、各群の「備考」欄も必ず確認してください。

GS科目の授業科目及び履修方法

1群 自己の立ち位置を知る（KUGS1）			履修方法
	授業科目名	単位数	
1A	現代世界への歴史学的アプローチ	1	1群から5群の各群から2単位を含む12単位を修得することとし、単一の群で3単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。
1B	グローバル時代の政治経済学	1	
1C	グローバル時代の社会学	1	
1D	ケーススタディによる応用倫理学	1	
1E	地球生物圏と人間	1	
2群 自己を知り、自己を鍛える（KUGS2）			
	授業科目名	単位数	
2A	哲学（自我論）	1	
2B	パーソナリティ心理学	1	
2C	グローバル時代の文学	1	
2D	健康科学	1	
2E	細胞・分子生物学	1	
2F	エクササイズ&スポーツ実技	1又は0.5	
備考	※2F「エクササイズ&スポーツ実技」は、内容の異なる授業科目の履修により1単位を超える修得も可能とする。1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。		

3群 考え・価値観を表現する (KUGS3)		履修方法	
	授業科目名		単位数
3B	クリティカル・シンキング		1
3C	価値と情動の認知科学		1
3E	芸術と自己表現		1
3F	スポーツ科学		1
備考	※3F「スポーツ科学」は、内容の異なる授業科目の履修により1単位を超える修得も可能とする。1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。		
4群 世界とつながる (KUGS4)			
	授業科目名		単位数
4A	地域社会と文化人類学		1
4B	日本史・日本文化	1	
4C	異文化間コミュニケーション	1	
4D	異文化体験	1～8	
4E	グローバル時代の国際協力	1	
4F	グローバル社会と地域の課題	1	
備考	※4D「異文化体験」は、1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。		
5群 未来の課題に取り組む (KUGS5)			
	授業科目名	単位数	
5A	科学技術と科学方法論	1	
5B	統計学から未来を見る	1	
5D	環境学とESD	1	
5E	生活と社会保障	1	
5F	現代社会と人権	1	
6群 新しい社会を生きる (KUGS6)		履修方法	
	授業科目名		単位数
6A	インテグレートド科学		1
6B	AI入門		1
6C	情報の科学		1
6D	デザイン思考入門		1
6E	論理学と数学の基礎		1
備考	※6A「インテグレートド科学」は、内容の異なる授業科目の履修により1単位を超える修得も可能とする。1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。 ※6E「論理学と数学の基礎」は、内容の異なる授業科目の履修により1単位を超える修得も可能とする。1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。		

(3) 重複履修の禁止

10ページの記載のとおり、重複履修は禁止していますが、「2F エクササイズ&スポーツ 実技」、「3F スポーツ科学」、「4D 異文化体験」、「6A インテグレート科学」及び「6E 論理学と数学の基礎」については、以下のとおり取り扱います。

① 「2F エクササイズ&スポーツ 実技」及び「3F スポーツ科学」

Webシラバス等において、科目名の後ろに記載している種目名やテーマまでを含めて科目名として取り扱います。疑義のある場合は、基幹教育学務係に問い合わせてください。

② 「4D 異文化体験」

同一の留学プログラム等による重複履修は禁止します。疑義のある場合は、担当教員に問い合わせてください。

③ 「6A インテグレート科学」及び「6E 論理学と数学の基礎」

内容の異なる授業科目の履修はできますが、GS科目の修得すべき単位数として算入できるのは1単位までです。

(4) 保健体育関連科目の履修

GS科目の保健体育関連科目は、「2F エクササイズ&スポーツ 実技」(0.5単位及び1単位)、「3F スポーツ科学」(1単位)です。クォーター、セメスターのほか、集中講義も開講します。実技授業は、Webシラバスのキーワード欄に「身体・スポーツ」と記載しています。シラバスをよく読み、趣旨を理解して履修してください。

① 履修制限

集中講義を除く実技授業は、各クォーター内において、2つの授業科目までしか履修できません。さらに、実技授業は同一曜日に1つしか履修できません。また、GS科目2F・3Fの修得できる単位数は、それぞれ2単位以下に制限しています。

② 履修の方法

a) 「2Fエクササイズ&スポーツ 実技」

履修登録する際は、授業内容や対象学生等を十分に確認してください。各クォーターの**第1週目の授業は、シラバスの「備考」欄に記載の集合場所で行います**(授業ごとに集合場所が異なることがあります)。事前に確認のうえ、**スポーツに適した服装、シューズを持参のうえ集合してください**。更衣室(体育館、北部管理棟、南部管理棟、陸上競技・サッカー場クラブハウス、プールにあり)で、授業開始前に更衣を済ませて集合してください。その際、**荷物(特にパソコンや貴重品類)**は更衣室に置かず、授業実施場所に持参してください(以下、③で確認)。また、更衣場所に関して、不明な点や相談があれば、基幹教育学務係まで問い合わせてください。

b) Webサイトからの履修登録・訂正等の必要な手続きは、他の授業科目と同じです。

③ その他の注意事項

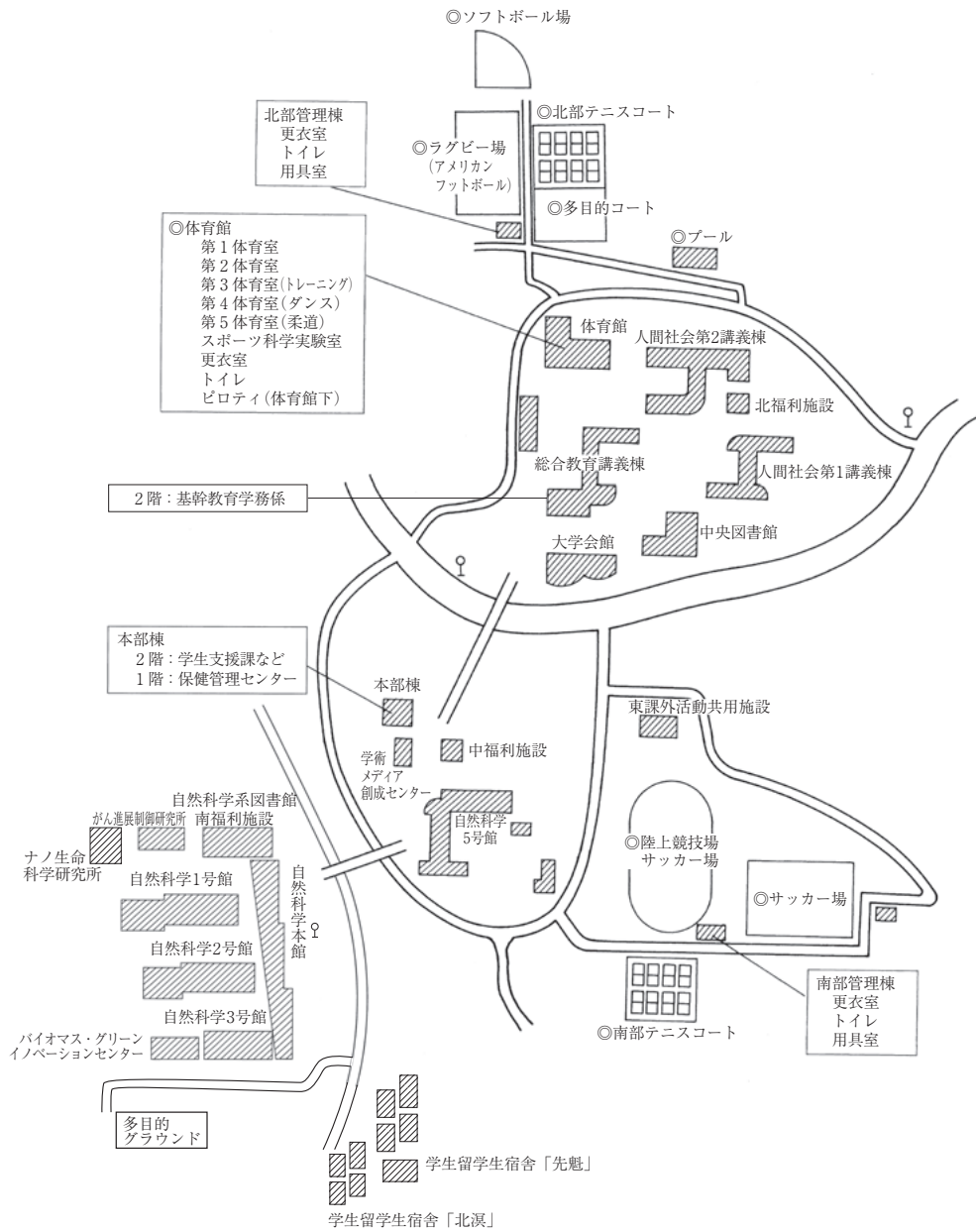
a) 集合場所や、雨天等の授業場所の変更通知は、アカンサスポータルを通じて行います。

b) **貴重品は、各自の責任で管理してください**。盗難事件も発生しています。**希望者は基幹教育学務係に預けられます**。また、ノートパソコンは、**3階のB10示範教室、4階のC10示範教室および5階のD10講義室前にある専用ロッカーに、授業時間の間だけ預けられます**。(114ページで確認)

c) 運動やスポーツに適した服装に着替えて、受講してください。

d) 体育館では、内履き専用シューズを各自で準備し使用してください。

保健体育（GS科目2F・3F）関連科目の授業場所配置図



共通教育の英語科目は「GS言語科目（英語）」（以下、GS言語科目）と呼びます。**GS言語科目は全学類の必修科目**です。所属する学類にかかわらず、**必修単位数（卒業に必要な単位数）は8単位**です（外国人留学生の必修単位数については、GS言語科目（日本語）の（3）で確認してください）。

以下の説明をよく読んで、授業を履修してください。

(1) 2つのコースと授業科目の区分

GS言語科目は「Practical English」と「EAP」の2つのコースで構成しています。各コースの目標は、次のとおりです。

- ・「Practical English」コース
このコースでは、汎用的な英語実践能力の向上を目指します。
- ・「EAP」コース
このコースでは、大学で必要とされる英語能力の向上を目指します（EAPはEnglish for Academic Purposesの略です）。

「Practical English」と「EAP」の各コースには、それぞれ、IからIVの4つの授業科目があります。**各授業科目は8回の授業（ただし試験を含む）からなり、単位数は各1単位**です。2つのコースの全8科目の単位が認定されると、GS言語科目の単位数が計8単位となり、必修単位数を満たします。

□ GS言語科目のコースと授業科目

コース名	授業科目名
「Practical English」 コース	Practical English I
	Practical English II
	Practical English III
	Practical English IV
「EAP」コース	EAP I
	EAP II
	EAP III
	EAP IV

それぞれの授業科目は1単位で、8つの授業科目を履修・合格して、8単位を得る。

GS言語科目には、「Practical English」I/II/III/IVと「EAP」I/II/III/IV以外に、再履修者を対象とした授業科目があります。詳細は、（6）で確認してください。

(2) 開講クォーター・開講時間帯と授業の種類

GS言語科目では、クォーターごとに、開講時間帯と授業の種類を決めています。また、GS言語科目（全8科目）では、各学生に対して、履修するクラスを事前に割り当てています。詳細は、次ページのとおりです。

① 開講クォーターと授業の種類

「Practical English」コースと「EAP」コースの授業は、各クォーターに1つずつ開講します。
GS言語科目の各授業科目の内容、開講クォーター、クラスサイズ（受講者数）は以下のとおりです。

□ GS言語科目の内容と開講クォーター

授業科目名	内容	開講クォーター	クラスサイズ (受講者数)
Practical English I	英語実践スキルの養成（リスニング重視）	第1クォーター	30人
Practical English II	英語実践スキルの養成（リーディング重視）	第2クォーター	30人
Practical English III	英語実践スキルの養成	第3クォーター	30人
Practical English IV	英語実践スキルの養成	第4クォーター	30人
EAP I	アカデミックライティングの導入クラス	第1クォーター	30人
EAP II	アカデミックライティングの応用クラス	第2クォーター	30人
EAP III	パブリックスピーキングの授業	第3クォーター	20人
EAP IV	統合型アカデミック英語の授業	第4クォーター	20人

② 開講時間帯

GS言語科目（Practical EnglishとEAP）は、複数の学類等を組み合わせて、開講時間帯を設定しています。
各学類等の開講時間帯と授業の種類は、次表のとおりです。（I～IVは省略しています。PrEはPractical Englishの略号です。また、学類等の略号は下記で確認してください。）

第1クォーターと第2クォーター

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1		人社1 PrE	理工2 PrE	人社2/総教文 PrE	医薬保 PrE
2		総教文/融合 EAP	理工1/総教理/融合 PrE	医薬 EAP	理工1/総教理 EAP
3	人社1 EAP			保健 EAP	理工2 EAP
4	人社2 EAP				
5					

第3クォーターと第4クォーター

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1		人社1 PrE	理工2 PrE	人社2/総教文 PrE	医薬保 PrE
2	国際 EAP	総教文/融合 EAP	理工1/総教理/融合 PrE	医薬 EAP	理工1/総教理 EAP
3	人法 EAP			保健 EAP	理工3学類一括 EAP
4	人社2 EAP				地球社会基盤 EAP
5					

- ・第1クォーターと第2クォーター、第3クォーターと第4クォーターは同じ設定です。
- ・Practical Englishは4つのクォーターで同じ時間帯です。EAPは前期と後期で組み合わせが若干異なります。

（略号）

融合：先導学類、観光デザイン学類、スマート創成科学類

人社1：人文学類、法学類、国際学類

人社2：経済学類、学校教育学類、地域創造学類

理工1：数物科学類、物質化学類、生命理工学類

理工2：理工3学類一括、地球社会基盤学類

医薬保：医学類、薬学類、医薬科学類、保健学類

総教文：総合教育部(文系)

総教理：総合教育部(理系)

医薬：医学類、薬学類、医薬科学類

人法：人文学類、法学類

例えば、人文学類に属する学生が履修するGS言語科目の種類と時間帯は、次のとおりです。

第1クォーター：月曜3限「EAP I」、火曜1限「Practical English I」

第2クォーター：月曜3限「EAP II」、火曜1限「Practical English II」

第3クォーター：月曜3限「EAP III」、火曜1限「Practical English III」

第4クォーター：月曜3限「EAP IV」、火曜1限「Practical English IV」

また、理工1（数物科学類、物質化学類、生命理工学類）に属する学生が履修するGS言語科目の種類と時間帯は、次のとおりです。

第1クォーター：水曜2限「Practical English I」、金曜2限「EAP I」

第2クォーター：水曜2限「Practical English II」、金曜2限「EAP II」

第3クォーター：水曜2限「Practical English III」、金曜2限「EAP III」

第4クォーター：水曜2限「Practical English IV」、金曜2限「EAP IV」

(3) クラス割り当て

「Practical English」I～IV及び「EAP」I～IV（全8科目）は、履修ブロックごとに決められた時間帯に、割り当てられたクラスで履修しなければなりません。各学生が履修すべきクラスの情報、Web上の履修登録画面で確認できます。（(4)の①で確認）

クラスの割り当ては、コンピュータシステムによって以下のように行います。

- ・「Practical English」コースのクラス割り当て
同じ履修ブロック内の全学生を、大まかな習熟度別に3つのグループに分けて、クラスを編成します。
- ・「EAP」コースのクラス割り当て
同じ履修ブロック内の全学生をランダムに割り振って、クラスを編成します。

(4) 履修の準備と第1週の授業

① 履修するクラスの確認

各学生が履修すべきGS言語科目は、あらかじめ登録されています。必ず、授業開始前にWeb上の履修登録画面で、自分の履修すべきクラスを確認してください。クラス割り当ては、各クォーターの履修登録期間に確認できます。

② シラバスの確認

自分が履修する授業科目は、Webシラバスで授業の概要を確認してください。Webシラバスで教科書が指定されている場合は、事前に教科書を購入し、第1週の授業に持参してください。

③ 第1週の授業

授業は第1週から始まりますので、必ず、出席してください。第1週の授業を欠席した場合、その授業を受けられないことがあります。やむを得ない事情で第1週の授業に出席できない場合は、事前に基幹教育事務係に申し出てください。

(5) 成績評価と単位認定

次の出席回数と合格基準を満たした場合、S、A、B、Cのうちのいずれかの評価とし、1単位を認定します。

- ・出席回数：全授業日数の3分の2以上
- ・合格基準：学修目標の達成度が60%以上

出席回数または合格基準を満たさなかった場合の評価は次のとおりとし、当該授業科目の単位は認定しません（単位が認定されなかった場合は、(6)と(8)で確認してください）。

a) 出席回数が不足している場合

- ・「Practical English」と「EAP」のいずれの科目でも、評価は「放棄」とします。

b) 出席回数を満たしているが、定期試験を受験しなかった場合

定期試験を受験しなかった場合、定期試験の得点は0点とします。

- ・「Practical English」コースの科目では、評価は「保留」とします。
- ・「EAP」コースの科目では、評価項目の合計が合格基準を満たさない場合、評価は「不可」とします。

c) 出席回数を満たし、かつ、定期試験を受験して、合格基準に達しなかった場合

- ・「Practical English」コースの科目では、評価は「保留」とします。
- ・「EAP」コースの科目では、評価は「不可」とします。

(6) 単位が認定されなかった場合

1年次に単位が認定されなかった場合は、以下をよく読んで、該当する方法により、単位を修得してください。

- ・「EAP」I～IVの「不可」または「放棄」（または、履修登録削除による未履修の場合）：
→ ①を確認してください。
- ・「Practical English」I～IVの「保留」：
→ ②を確認してください。
- ・「Practical English」I～IVの「放棄」（または、履修登録削除による未履修の場合）：
→ ③を確認してください。

① 「EAP」I～IVで「不可」、「放棄」、未履修の場合

「EAP」I～IVで「不可」または「放棄」とされた場合、あるいは履修登録削除による未履修の場合は、次のいずれかの方法で、単位の認定を受けてください。

- a) 2年次以降に「EAP (Retake)」を履修し、合格基準を満たして単位認定を受ける。
- b) 「外部試験による単位認定制度」による単位認定を受ける。((8)で確認)
- c) 「放送大学の授業科目の履修」による単位認定を受ける。(92～94ページの25.で確認)

EAP (Retake) に関する説明会を3月下旬に開催します。詳細はアカンサスポータル等で通知します。

○ 「EAP (Retake)」を履修する際の注意点

- ・1年次の学生は「EAP (Retake)」を履修できません。
- ・「EAP」I～IVのいずれかで「不可」または「放棄」が確定している場合、あるいは履修登録削除による未履修の場合のみ、「EAP (Retake)」を履修できます。
- ・「EAP」で4単位を修得している場合は、「EAP (Retake)」を履修できません。

- ・「EAP (Retake)」には、I/II/III/IVの区分はありません。
- ・「EAP (Retake)」は1単位で、認定された単位は、「EAP」I/II/III/IVのいずれの単位としても見なせません。ただし、すでに単位が認定された「EAP」の授業と教科書やシラバス内容が同一の授業は重複して履修できません。また、原則として、同じシラバス内容の授業を複数履修することはできません。
- ・開講クォーターと時間帯は、Webシラバスで確認してください。
- ・適正人数は30人程度です。履修を希望する場合は、必ず事前にシラバスを読み、システム抽選により履修可能となった授業の第1週に出席してください。

② 「Practical English」I～IVで「保留」となった場合

「保留」は単位が認定されていない状態です。次のいずれかの方法で、単位の認定を受けてください。

- 「保留」の解除により単位認定を受ける。
- 「外部試験による単位認定制度」による単位認定を受ける。((8)で確認)

「保留」の解除の方法については、以下をよく読んでください。なお、「保留」が解除された場合の評価は「C」とします。

「Practical English」I/II/IIIの「保留」の解除

「Practical English」I/II/IIIの保留解除の方法は、「Practical English IV」の履修状況や評価によって異なります。以下で確認してください。

- 「Practical English IV」で「C」以上の評価を得た場合：
「Practical English」I/II/IIIの「保留」はすべて解除され、単位が認定されます。解除申請は不要です。
- 「Practical English IV」で「保留」または「放棄」となった場合（または、履修登録削除により「Practical English IV」が未履修の場合）：
「Practical English」I/II/IIIの「保留」は解除されず、残った「保留」はすべて、2年次以降に解除を受けるべき「持ち越し保留」とします。「Practical English IV」が「保留」の場合、これも含めて「持ち越し保留」とします。（次の注意事項を確認してください。）

「持ち越し保留」のある学生への注意事項

- ・原則として、保留解除に向けた学修を支援する「サポートクラス」に参加してください。
- ・2年次の第1クォーター開始前に「持ち越し保留者説明会」を開きます。「持ち越し保留」の解除方法と「サポートクラス」の詳細を説明しますので、「持ち越し保留」のある学生は、必ず参加してください。日程等の詳細は、3月上旬頃にアカンサスポータル等で通知します。

「持ち越し保留」の解除

「Practical English」を履修した翌年度以降に受験したTOEIC L&R（公開テストまたはIPテスト。ただし、原則としてオンライン試験は除きます。）で400点以上を取得した場合に、「持ち越し保留」の解除を申請することができます。

「持ち越し保留」の解除申請

- ・「持ち越し保留」を解除する場合は、基幹教育学務係への申請が必要です。
- ・解除申請の受け付け期間は、各クォーターの定期試験期間中となる予定です。詳細はアカンサスポータル等で通知します。

③ 「Practical English」 I～IVで「放棄」となった場合・未履修の場合

「放棄」または履修登録削除による未履修の科目では、単位が未修得です。次のいずれかの方法で、単位の認定を受けてください。

- a) 2年次以降に「Practical English (Retake)」を履修し、当該授業の合格基準を満たして単位認定を受ける。
- b) 「外部試験による単位認定制度」による単位認定を受ける。((8)で確認)

□ 「Practical English (Retake)」の履修

- ・「Practical English (Retake)」は、1年次に割り当てられた「Practical English」I～IVで「放棄」(または未履修)となった学生が、2年次以降に履修する科目です(「Practical English (Retake)」は予めクラス割り当てを指定された授業ではありません)。
- ・2年次の第1クォーター開始前に、履修説明会を開きます。履修予定者は、必ず説明会に出席してください。日程等の詳細は、3月上旬頃に掲示等で通知します。

④ 「Practical English (Retake)」で「保留」または「放棄」となった場合

- ・「Practical English (Retake)」で「保留」となった場合は、当該授業の終了後に受験したTOEIC L&R(公開テストまたはIPテスト。ただし、原則としてオンライン試験は除きます。)で400点以上を取得した場合に、保留解除を申請することができます。
- ・「Practical English (Retake)」の保留解除には、基幹教育学務係への申請が必要です。解除申請の方法は、②の「持ち越し保留」の解除申請に準じます。
- ・「Practical English (Retake)」で「放棄」となった場合は、「Practical English」I～IVで「放棄」となった場合と同様です。詳細については、③で確認してください。

⑤ 海外語学研修・留学等で割り当てられた授業を履修できない場合

海外語学研修・留学等によって、1年次に割り当てたGS言語科目を履修できない場合、事前に基幹教育学務係に申し出て、教員による履修指導を受けてください。

⑥ その他の場合

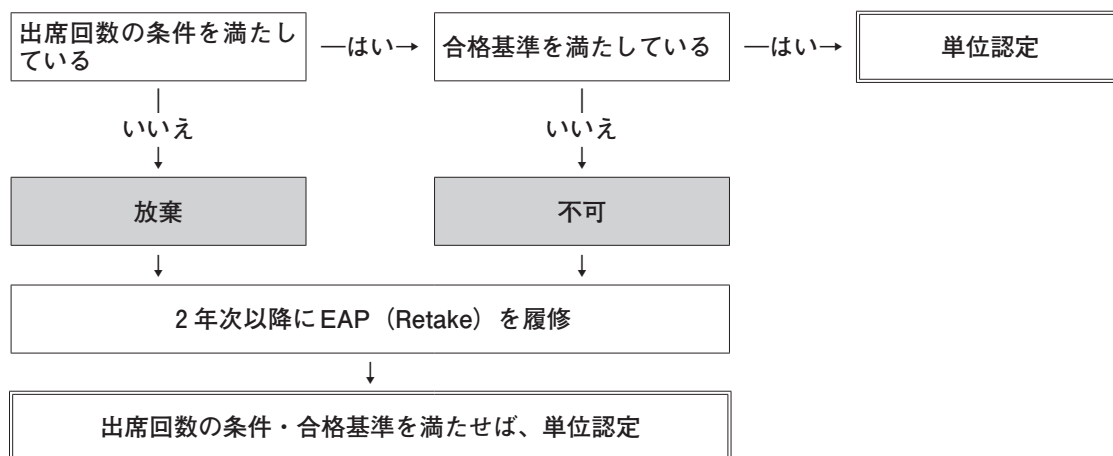
上記の①から⑤以外の理由で単位を修得できなかった場合は、基幹教育学務係に申し出て、教員による履修指導を受けてください。

単位認定への流れを図に示すと、次のとおりです。

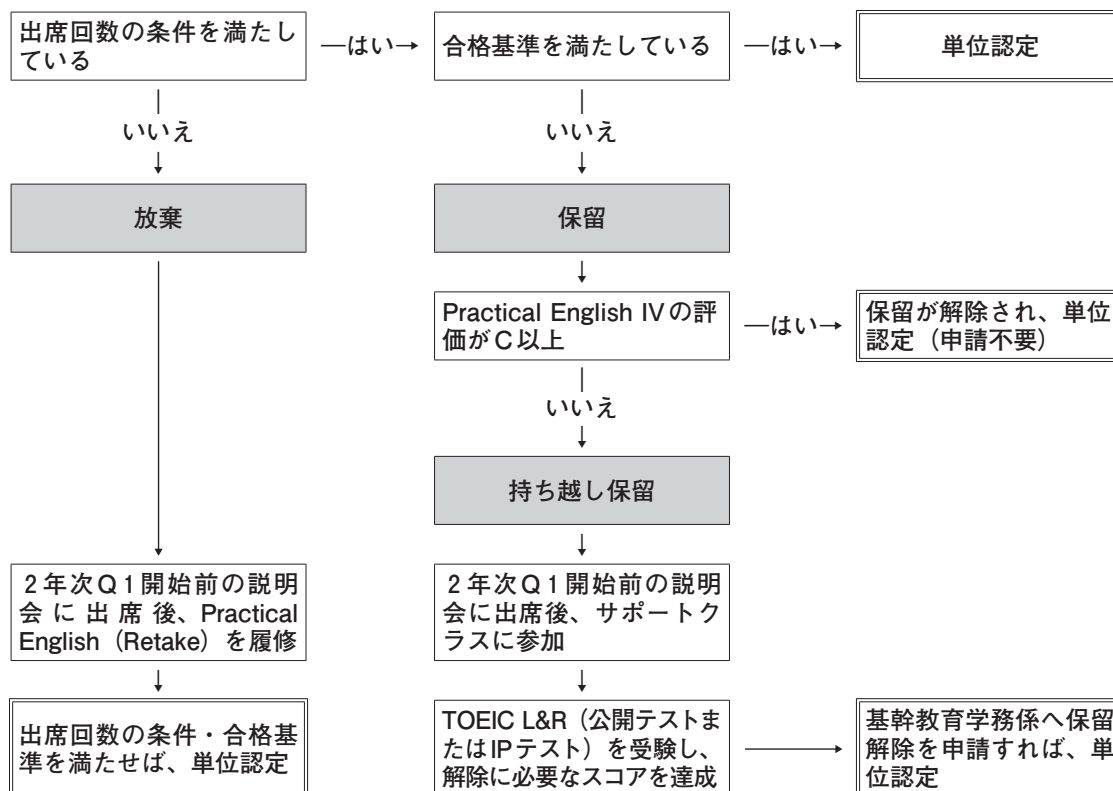
□ GS言語科目の単位認定への流れ

※以下の図に記載された方法のほか、「外部試験による成績評価制度」や「外部試験による単位認定制度」、「放送大学の授業科目の履修」(EAPのみ)により単位認定を受けることも可能です。

■ EAP I～IV



■ Practical English I～IV



(7) 外部試験による成績評価制度

GS言語科目には、授業の履修によらず、外部試験の成績によって成績評価を受ける制度があります。この制度は、1年次にクラスを割り当てた科目のみに適用し、外部試験で所定の成績を得た場合、申請により、該当する科目を「S」の評価で単位認定します。詳細は、次のとおりです。

- ①対象となる科目は、1年次に割り当てられたGS言語科目（Practical English I～IV及びEAP I～IV）です。1年次に履修するこれ以外の科目や、2年次以降に履修する科目には適用しません。
- ②対象となる外部試験、スコア等の成績や付帯条件、認定される科目と評価については、Practical Englishコースは別表1、EAPコースは別表2のとおりです。ただし、申請の締切日の時点で受験日から2年以内の試験に限ります。また、TOEFL iBTについては、自宅受験によるスコアも対象とします。ただし、MyBest scoresは対象としません。IELTSについては、CDI（コンピュータによる筆記試験）のスコアも対象とします。
- ③この制度による成績評価を希望する者は、⑤の締切日までに、成績を証明できる公式認定証などの書類（pdfファイル等を印刷したものは不可）を添えて、基幹教育学務係へ所定の申請書を提出してください。また、該当する科目の履修登録（補正）期間が終了するまでに、履修登録削除申請書を基幹教育学務係へ提出してください。申請書は基幹教育学務係で配布しています。
- ④審査に合格すれば、該当する科目は「S」の評価で単位を認定します。認定した科目は、GPA制度の対象です。
- ⑤申請の締切日は、[別表1]及び[別表2]のとおりです。
- ⑥この制度による成績評価は、⑤の申請締切日を含むクォーター以降に開講される科目のみに適用します。申請締切日を含むクォーターより前に開講した科目は、未履修の場合も含め、この制度は適用しません。また、すでに成績評価された科目の評価をこの制度によって変えることはできません。
- ⑦この制度でEAP I/IIの「S」の基準を満たして成績評価を受けた後に、外部試験でEAP I～IVの「S」の基準を満たした場合、この制度による成績評価を再度申請することができます。この場合、EAP III/IVのみ「S」の評価で単位を認定します。
- ⑧申請前のクォーターに割り当てた科目の単位が未修得の場合、この制度と同じ証明書類を用いて、未修得科目の単位認定を同時に申請することができます。また、この制度で成績評価を受けた後に、割り当てた科目の単位未修得が判明した場合は、当該申請時に使用した証明書類を用いて、未修得科目の単位認定を申請することが可能です。（未修得科目の単位認定の詳細は、（8）外部試験による単位認定制度で確認）
- ⑨「学域GS言語科目」の外部試験による単位認定制度において、スコア等成績の扱いに制限がある学域・学類もあるため、所属学類の学務係で申請前に確認してください。

[別表1] 外部試験による成績評価制度（Practical Englishコース）

試験名	スコア等成績	認定科目と評価
TOEIC L&R (公開テスト)	730以上	Practical Englishコースの科目* (最大4単位)を「S」で認定

4月入学者

*入学年度4月12日までの申請…Practical English I～IV（計4単位）の認定が可能

*入学年度6月18日までの申請…Practical English II、III、IV（計3単位）の認定が可能

*入学年度10月7日までの申請…Practical English III、IV（計2単位）を認定

10月入学者

*入学年度10月7日までの申請…Practical English I～IV（計4単位）の認定が可能

[別表2] 外部試験による成績評価制度 (EAPコース)

試験名	スコア等成績	付帯条件	認定科目と評価
TOEFL iBT	60以上	なし	EAP IとEAP IIを「S」で認定
	90以上 (付帯条件あり)	Writingの2項目がいずれもGood以上 (レベル記載のないスコアレポートの場合は、writingが24以上)	EAPコースの科目* (最大4単位) を「S」で認定
IELTS (Academic)	5.5以上	なし	EAP IとEAP IIを「S」で認定
	6.5以上 (付帯条件あり)	Writingが6.0以上	EAPコースの科目* (最大4単位) を「S」で認定

4月入学者

*入学年度4月12日までの申請…EAP I～IV (計4単位) の認定が可能

*入学年度6月18日までの申請…EAP II、III、IV (計3単位) の認定が可能

*入学年度10月7日までの申請…EAP III、IV (計2単位) を認定

10月入学者

*入学年度10月7日までの申請…EAP I～IV (計4単位) の認定が可能

(8) 外部試験による単位認定制度

この制度は、1年次に割り当てたGS言語科目のうち、単位が未修得の科目のみに適用されます。外部試験で所定の成績を得た場合、申請により単位認定を受けることができ、2年次以降の申請も可能です。詳細は、以下のとおりです。

- ①対象とする科目は、1年次に割り当てたGS言語科目 (Practical English I～IV及びEAP I～IV) のうち、「不可」・「放棄」・「保留」・履修登録削除による未履修の科目です。
- ②対象とする外部試験、スコア等の成績や付帯条件、認定される科目と単位数は、Practical Englishコースは別表3、EAPコースは別表4のとおりです。ただし、申請の締切日の時点で受験日から2年以内の試験に限ります。また、TOEFL iBTについては、自宅受験によるスコアも対象とします。ただし、MyBest scoresは対象としません。IELTSについては、CDI (コンピュータによる筆記試験) のスコアも対象とします。
- ③この制度により単位認定を希望する者は、成績を証明できる公式認定証などの書類 (pdfファイル等を印刷したものは不可) を添えて、基幹教育学務係へ所定の申請書を提出してください。申請の締切日は、別途、掲示等で通知します。また、1年次にこの制度の申請をする場合は、該当する科目の履修登録が削除できることがあるので、基幹教育学務係に問い合わせてください。
- ④審査に合格すれば、該当する科目の単位が認定されます。認定された科目の成績は「認定」となり、GPA制度の対象外です。
- ⑤EAPコースでは、より高いスコア等の成績で再度申請することも可能ですが、その場合、再申請時に単位未修得の科目のみが認定対象です。
- ⑥「学域GS言語科目」の外部試験による単位認定制度において、スコア等の成績の扱いに制限がある学域・学類もあるため、所属学類の学務係で申請前に確認してください。

[別表3] 外部試験による単位認定制度 (Practical Englishコースの未修得の科目のみ)

試験名	スコア等成績	認定科目と単位数
TOEIC L&R (公開テスト)	730以上	Practical English I、II、III、IVのうち、未修得の科目 (最大4単位)

[別表4] 外部試験による単位認定制度 (EAPコースの未修得の科目のみ)

試験名	スコア等成績	付帯条件	認定科目と単位数
TOEFL iBT	60以上	なし	EAP I、IIのうち、未修得の科目 (最大2単位)
	90以上 (付帯条件あり)	Writingの2項目がいずれもGood以上 (レベル記載のないスコアレポートの場合は、writingが24以上)	EAP I、II、III、IVのうち、未修得の科目 (最大4単位)
IELTS (Academic)	5.5以上	なし	EAP I、IIのうち、未修得の科目 (最大2単位)
	6.5以上 (付帯条件あり)	Writingが6.0以上	EAP I、II、III、IVのうち、未修得の科目 (最大4単位)

(9) 外国人留学生の履修上の特例

母語が英語の場合は、GS言語科目(英語)に代えて、GS言語科目(日本語)の履修が必要です。該当者には個別に履修指導を行いますので、必ず1年次の第1クォーターの授業開始前の指定する日時に、基幹教育学務係に申し出てください。

(10) 卒業に必要な英語力

卒業要件を定めているので、90ページの(6)卒業に必要な英語力を確認してください。

G S 言 語 科 目 (日 本 語)

目的は、本学の学類に所属する「正規生」で「日本語を母語としない外国人留学生」を対象とし、日本語による大学の講義、演習、研究を遂行するために必要な日本語力を育成します。

【日本語を母語としない外国人留学生対象】

(1) 開講科目の概要

以下の科目を開講します。1クラスの適正人数は15~20名です。

①アカデミック基礎日本語 2単位 ※必修科目

大学で学修、研究をするために必要なアカデミック・スキルの基礎を身につけます。

②アカデミック・ライティング 2単位

レポート・論文を書くために必要な日本語の文章表現を身につけます。

③講義の聴解 2単位

大学での講義を聞き取るのに必要な聞き取りストラテジーを学び、いくつかの講義の聞き取り練習問題を通して、大学での学修・研究生活に支障のない聴解能力を身につけます。

④上級読解I・II 各2単位

評論や専門書など、生の日本語の文章を読んで理解する力を身につけます。また、読んだ内容を説明し、意見を述べる練習も行います。

⑤日本事情 2単位 ※令和6年度は不開講

日本の大学で学修・研究する上で必要な日本社会の背景知識を深めます。

⑥日本語で学ぶ論理 2単位

論理トレーニング(論証と演繹)と実際の論文読解を通じて、大学での学修や研究に必要な日本語(アカデミック日本語)力を身につけます。

(2) カリキュラム

- ・各科目を以下のように配当してあり、単位数は各1単位です。
- ・各科目Q1とQ2、Q3とQ4の両方を一緒に履修して「2単位」修得してください。(例、Q1「アカデミック基礎日本語A」(1単位)とQ2「アカデミック基礎日本語B」(1単位))
- ・全ての学類の留学生は、「アカデミック基礎日本語」の修得を必修とします。

	月			火			水			木			金		
	開講期	授業科目名	担当教員名	開講期	授業科目名	担当教員名	開講期	授業科目名	担当教員名	開講期	授業科目名	担当教員名	開講期	授業科目名	担当教員名
1限	Q1 Q2 Q3 Q4	アカデミック・ライティングA アカデミック・ライティングB アカデミック・ライティングA アカデミック・ライティングB	小島 荘一 小島 荘一 小島 荘一 小島 荘一	Q1 Q2 Q3 Q4	講義の聴解A 講義の聴解B 講義の聴解A 講義の聴解B	太田 亨 太田 亨 太田 亨 太田 亨	Q3 Q4	上級読解Ⅱ A 上級読解Ⅱ B	小島 荘一 小島 荘一				Q3 Q4	アカデミック基礎日本語A(必修) アカデミック基礎日本語B(必修)	小島 荘一 小島 荘一
2限													Q1 Q2	上級読解Ⅰ A 上級読解Ⅰ B	小島 荘一 小島 荘一
3限															
4限				Q1 Q2 Q3 Q4	日本語で学ぶ論理A 日本語で学ぶ論理B 日本語で学ぶ論理A 日本語で学ぶ論理B	太田 亨 太田 亨 太田 亨 太田 亨									
5限	Q1 Q2	アカデミック基礎日本語A(必修) アカデミック基礎日本語B(必修)	深川 美帆 深川 美帆												

※時間割は変更になる場合がありますので、Webシラバス等で確認してください。

(3) GS言語科目(英語・日本語)および初習言語科目 履修要件

各学類が以下に提示する履修要件にしたがって、科目を履修してください。

学類	GS言語科目	初習言語	備考
先導学類	①英語、日本語、初習言語を合わせて16単位 ②英語、日本語を合わせて8単位+基礎科目8単位		外国人留学生の言語能力により決める
観光デザイン学類	①英語、日本語、初習言語を合わせて16単位 ②英語、日本語を合わせて8単位+基礎科目8単位		外国人留学生の言語能力により決める
スマート創成科学類	英語、日本語を合わせて8単位	-	外国人留学生の言語能力により決める
人文学類	①英語4単位+日本語4単位 ②日本語8単位	8単位	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
法学類	①英語4単位+日本語4単位 ②日本語8単位	8単位	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
経済学類	英語4単位+日本語4単位	8単位	
学校教育学類	英語4単位+日本語4単位	-	
地域創造学類	英語4単位+日本語4単位	8単位	
国際学類	英語、日本語、初習言語を合わせて16単位		外国人留学生の言語能力により決める
数物科学類	①英語4単位+日本語4単位 ②英語外部試験による単位認定4単位 +日本語4単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
物質化学類	①英語4単位+日本語4単位 ②英語外部試験による単位認定4単位 +日本語4単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
機械工学類	①英語4単位+日本語4単位 ②英語外部試験による単位認定4単位 +日本語4単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
フロンティア工学類	①英語4単位+日本語4単位 ②英語外部試験による単位認定4単位 +日本語4単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*

電子情報通信学類	①英語 4 単位 + 日本語 4 単位 ②英語外部試験による単位認定 4 単位 + 日本語 4 単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
地球社会基盤学類	①英語 4 単位 + 日本語 4 単位 ②英語外部試験による単位認定 4 単位 + 日本語 4 単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
生命理工学類	①英語 4 単位 + 日本語 4 単位 ②英語外部試験による単位認定 4 単位 + 日本語 4 単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
医学類	日本語 8 単位	-	これに加え専門教育科目の「学域GS言語科目」で「医学英語 2 科目 4 単位」を修得すること
薬学類	①英語 4 単位 + 日本語 4 単位 ②英語外部試験による単位認定 4 単位 + 日本語 4 単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
医薬科学類	①英語 4 単位 + 日本語 4 単位 ②英語外部試験による単位認定 4 単位 + 日本語 4 単位	-	①通常の外国人留学生 ②英語履修の例外扱いの外国人留学生*
保健学類	①英語 6 単位 + 日本語 2 単位 ②英語 4 単位 + 日本語 4 単位 ③英語 2 単位 + 日本語 6 単位	-	外国人留学生の言語能力により決める

*英語履修の例外扱い

英語を母語とする学生、英語で学校教育を受けた学生、または英語母語話者並みの語学力を有する学生は、入学出願時のTOEFLスコア等を参考に、個々の学生の能力を診断した上で決定します。

【日本語を母語としない外国人留学生のうち、融合学域・国際学類で日本語能力を要件としない入学者選抜試験により入学した外国人留学生対象】

(1) 開講科目

- ・日本語レベル初級から上級の以下の科目を履修することができます（表1）。ただし、プレースメントテストで決められたレベルの科目を受講すること。
- ・各科目 Q1 と Q2、Q3 と Q4 の両方を必ず一緒に履修してください。
(例 Q1 「中級作文A」と Q2 「中級作文B」)
- ・各科目の詳細は金沢大学 Web シラバスを参照してください。

(表1)

(注意) 令和6年度に開講されない科目もあるので、必ず入学時の「日本語の履修説明会」で確認すること。

日本語レベル	科目 (Q1/Q3)	科目 (Q2/Q4)
初級	初級2-1A (1単位) 初級2-2A (1単位) 初級2-3A (1単位) 初級2-4A (1単位) 漢字・語彙1A (1単位) 漢字・語彙2A (1単位)	初級2-1B (1単位) 初級2-2B (1単位) 初級2-3B (1単位) 初級2-4B (1単位) 漢字・語彙1B (1単位) 漢字・語彙2B (1単位)
中級	中級聴解A (1単位) 初中級会話A (2単位) 中級会話A (1単位) 中上級会話A (1単位) 中上級聴解A (1単位) 速読A (1単位) 中級作文A (1単位) 中上級作文A (1単位) 漢字・語彙3A (1単位) 漢字・語彙4A (1単位) 漢字・語彙5A (1単位)	中級聴解B (1単位) 初中級会話B (2単位) 中級会話B (1単位) 中上級会話B (1単位) 中上級聴解B (1単位) 速読B (1単位) 中級作文B (1単位) 中上級作文B (1単位) 漢字・語彙3B (1単位) 漢字・語彙4B (1単位) 漢字・語彙5B (1単位)
上級	アカデミック基礎日本語A (1単位) アカデミック・ライティングA (1単位) 講義の聴解A (1単位) 上級読解IA (1単位) ※Q1のみ 上級読解IIA (1単位) ※Q3のみ 日本事情A (1単位) ※令和6年度は不開講 日本語で学ぶ論理A (1単位)	アカデミック基礎日本語B (1単位) アカデミック・ライティングB (1単位) 講義の聴解B (1単位) 上級読解IB (1単位) ※Q2のみ 上級読解IIB (1単位) ※Q4のみ 日本事情B (1単位) ※令和6年度は不開講 日本語で学ぶ論理B (1単位)

(2) カリキュラム

時間割は、基幹教育学務係に確認してください。

(3) GS言語科目 (英語・日本語) および初習言語科目 履修要件

各学類が以下に提示する履修要件にしたがって、科目を履修してください。

学類	GS言語科目	初習言語	備考
先導学類	①英語、日本語、初習言語を合わせて16単位 ②英語、日本語を合わせて8単位+基礎科目8単位		留学生の言語能力により決める
観光デザイン学類			
スマート創成科学類	英語、日本語を合わせて8単位+基礎科目8単位		
国際学類	英語、日本語、初習言語を合わせて16単位		留学生の言語能力により決める

【基礎科目とは】

将来の専門にかかわらず、大学教育の最初の段階で共通に身につけなければならない学修課題があります。それらには、基礎的知識や概念の修得、入門として必要な原理や法則の理解、学問体系の概論的学修、実験・実習や演習などの訓練的学修、各分野の相互関係の理解などが含まれます。

数学、物理学、化学、地学の分野ごとに上記の学修課題をまとめ編成したものが基礎科目です。それらの修得がその後の様々な専門分野での学修にとって前提となる性格を持つため、基礎科目は多くの科目が必修の指定を受けています。

【基礎科目の学修にあたって】

数学、物理学、化学、地学の各分野の学問としての基礎付けから始め、必要な知識の学修や技術的訓練を経て、一定の基礎学力を修得することを目標にします。融合学域、理工学域および医薬保健学域の学生にとって、大学では学修量が増えるだけでなく、質が飛躍的に深化します。最先端の研究の前線に向けて開かれたものとして、生きた学問像を把握し方法や目的を理解しようとする姿勢を望みます。

各分野はそれぞれの特色を持っており、学修の進め方もそれぞれの特色を踏まえることが必要です。

基礎科目は上記の意味で、専門教育と連結するように編成していますが、専門性を通して豊かな教養が身につくように配慮しています。基礎的学修が豊かな応用として結実することを願っています。

- (1) 主として融合学域、理工学域および医薬保健学域向けに数学、物理学、化学、地学の分野に属する授業科目を基礎科目として開講します。かなりの科目を必修としていますので、履修要件に注意してください。
- (2) 学修の最低基準を示すために必要単位数を設定しています。自然科学各分野の広い視野と基礎学力を修得するために、各自の今後の進路、目標に従って学修計画を立てて、できるだけ必要単位数以上を修得してください。必要単位数を超えた分は自由履修科目または自由履修枠に算入できます。詳細は「16. 学類別卒業要件」で確認してください。
- (3) 同一科目名の授業は意義、目的などは同じですが、学類によって授業内容などの重点の置き方が異なってくる場合がありますので、自分の所属する学類を対象とした授業クラスで履修してください。それ以外の授業クラスの場合は、担当教員と相談し、了承を得ることが必要です。
- (4) 基礎科目の一部を理工学域での教育職員免許状取得に必要な科目としています。履修漏れのないように充分注意してください。

基礎科目開講一覧表

分野	学 域 名		融合学域			理工学域						医薬保健学域								
	学 類 名		先 導 学 類	観 光 デ ザ イ ン 学 類	ス マ ー ト 創 成 科 学 類	数 物 科 学 類	物 質 化 学 類	機 械 工 学 類	フ ロ ン テ ィ ア 工 学 類	電 子 情 報 通 信 学 類	地 球 社 会 基 盤 学 類	生 命 理 工 学 類	医 学 類	薬 学 類	医 薬 科 学 類	保健学類				
	科 目 名	単 位 数														看 護	放 射	検 査	理 学	作 業
数 学	微分積分学ⅠA	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○
	微分積分学ⅠB	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○
	線形代数学ⅠA	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★	◎			○	◎	○	○	○
	線形代数学ⅠB	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★	◎			○	◎	○	○	○
	微分積分学ⅡA	1	○	○	○	◎	★	◎	◎	◎	○									
	微分積分学ⅡB	1	○	○	○	◎	★	◎	◎	◎	○									
	線形代数学ⅡA	1	○	○	○	◎	★	◎	◎	◎	○									
	線形代数学ⅡB	1	○	○	○	◎	★	◎	◎	◎	○									
	統計数学A	1			○								◎	◎	◎		☆	☆		
統計数学B	1			○								◎	◎	◎		☆	☆			
物 理 学	物理学ⅠA	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★	◎			○	◎	○	○	○
	物理学ⅠB	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	★	◎			○	◎	○	○	○
	物理学ⅡA	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎				◎	○		
	物理学ⅡB	1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎				◎	○		
	物理学実験	2				※1 ○	★	◎	○	◎	★		☆			○			○	○
化 学	化学ⅠA	1	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	★	◎			○	☆	○	○	○
	化学ⅠB	1	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	★	◎			○	☆	○	○	○
	化学ⅡA	1	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	★	◎			○	☆	○	○	○
	化学ⅡB	1	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	★	◎			○	☆	○	○	○
	化学実験	2				○	◎	○	○	○	★		☆							
地 学	地学ⅠA	1				○	○				◎									
	地学ⅠB	1				○	○				◎									
	地学ⅡA	1				○	○				○									
	地学ⅡB	1				○	○				○									
必要単位数		8	8	8	14	16	16	16	16	16	8	14	4	4	2	8	6	2	2	

◎印は必修科目

★印は選択必修科目

○印は選択科目

☆印は基礎科目としての修得すべき単位数には入らないが対象クラスを設定している科目です。

※1は物理学系基礎プログラムの必修科目です。

総合教育部（理系）の学生は、「総合教育部案内」で確認してください。

融合学域先導学類および観光デザイン学類の学生は、基礎科目8単位又は初習言語科目1言語8単位を修得してください。融合学域スマート創成科学類の学生は、基礎科目8単位を修得してください。

(5) 基礎科目授業クラス編成
令和6（2024）年度入学者

学域	融合学域			理工学域							医薬保健学域					総合教育部（理系）	開講学期									
	先導学類	観光デザイン学類	スマート創成科学類	数物科学類	物質化学類	機械工学類	フロンティア工学類	電子情報通信学類	地球社会基盤学類	生命理工学類	医学類	薬科学類	薬学類	保健学類	看護			放射	検査	理学	作業	全員				
分野	名	列	番	号	及	び	専	攻	欄	の	ク	ラ	ス	分	け	の	番	号	は	別	途	掲	示	し	ま	す
数学	微分積分学ⅠA	16			1	2	3 4 5 6 7							12	13	14			15	Q 1						
	微分積分学ⅠB	16					3 4 5 6 7									14				Q 2						
	線形代数学ⅠA	15					3 4 5 6 7									13				Q 1						
	線形代数学ⅠB	15					3 4 5 6 7									13				Q 2						
	微分積分学ⅡA	9					3 4 5 6 7									13				Q 3						
	微分積分学ⅡB	9					3 4 5 6 7									13				Q 4						
	線形代数学ⅡA	9					3 4 5 6 7									13				Q 3						
	線形代数学ⅡB	9					3 4 5 6 7									13				Q 4						
	統計数学A	4					3 4 5 6 7									13				Q 3						
	統計数学B	4					3 4 5 6 7									13				Q 4						
物理学	物理学ⅠA	16			1	2	3	4 5 6 7 8							9	10	11	12	13	14	15	Q 1				
	物理学ⅠB	16						4 5 6 7 8														13			Q 2	
	物理学ⅡA	12						4 5 6 7 8														11			Q 3	
	物理学ⅡB	12						4 5 6 7 8														11			Q 4	
	物理学実験							4 5 6 7 8														11			⑤	⑤
化学	化学ⅠA	10			1	2	3 4 5 6 7 8							9	10	11	12	13	14	15	Q 1					
	化学ⅠB	10					3 4 5 6 7 8														13			Q 2		
	化学ⅡA	7					3 4 5 6 7 8														11			Q 3		
	化学ⅡB	7					3 4 5 6 7 8														11			Q 4		
	化学実験						3 4 5 6 7 8														11			②	②	後期：1年
地学	地学ⅠA				1								1				Q 1									
	地学ⅠB																Q 2									
	地学ⅡA																Q 3									
	地学ⅡB																Q 4									

◆印は曜日選択

* 名列表号及び専攻欄のクラス分けの番号は別途掲示します。

(6) 単位保留制度

基礎科目の単位保留制度は単位未修得者すべてに適用するものではありません。一定程度の学修段階に到達し、今後の努力によって合格水準に到達すると思われる者にのみ適用されます。そして、その内容は次のように決めています。

「単位保留の者は、担当教員に申し出て、その後の学修の仕方や成績の評価の仕方について十分な指導を受けてください。ただし、この単位保留の期間は最大1年間とします。」

当該学期又はクォーターに合格できなかった場合、そのままでは再履修が必要ですが、その時点で他の科目の開講時間と重なるなどの理由から、再履修が困難となる場合が多くなってきます。そこで速やかに再学修を行い、早い時期に合格水準に達することを重視する観点から、この単位保留制度を実施しています。ただし、再学修の過程で学修効果が上がらない場合は1年を待つことなく不可の判定がなされます。

(7) 各分野の概要と履修指針

① 数学

数学は人間の知性の一つの結晶であり、すべての学生はこの学問を学ぶことによって自らの知性を磨くよう努力しなければなりません。さらに数学は世界のあらゆる法則を適切に記述するための言葉としても用いられますから、自然系と人社系を問わずすべての学生にとってこれを学ぶことは重要です。特に自然法則は数学的形式を用いて記述され、その応用には数学の各理論の理解と知識が必要です。したがって、特に自然系分野を専攻しようとする学生はそれぞれに関連した数学を学ぶために、強い熱意をもって十分な時間をそれに充てなければなりません。

基礎科目としての数学では「微分積分学ⅠA」、「微分積分学ⅠB」、「微分積分学ⅡA」、「微分積分学ⅡB」、「線形代数学ⅠA」、「線形代数学ⅠB」、「線形代数学ⅡA」、「線形代数学ⅡB」、「統計数学A」、「統計数学B」の10科目を開講します。「微分積分学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」を通して、問題を数理的に解析するための基本となる微分法と積分法を中心に、その理論と応用を学修します。「線形代数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」を通して、線形性（あるいは、重ね合わせ）という普遍的性質に基づく数学的方法を行列の理論を中心に、併せてその応用を学修します。「統計数学A、B」では偶然を伴う問題を理解する基本となる確率の数学的理論を中心に、その統計学への応用を学修します。

これら数学の理解と知識は、大学で自然系の分野を専攻した人々すべてに期待される世界的標準にもなっている、ということを知っていなければなりません。

- a) 微分積分学と線形代数学は応用範囲も広く、融合学域、理工学域および医薬保健学域にとって基礎として必要なものであり、ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に1年を通じて履修することを推奨します。
- b) 所属する学類によっては、数学の分野に属する専門教育科目を開講します。それらは基礎科目の修得を前提として授業を進めますので、よく承知して学修してください。

② 物理学

物理学は古典物理学（主にニュートン力学、熱力学、電磁気学）と現代物理学（主に相対論、原子、量子物理学）から構成され、それらはさらに発展して物性論、素粒子論となり、現代の科学技術や宇宙の理解の基礎となってゆきます。

基礎科目としての物理学は最初に力学を対象にし、時間、空間、質量などの基本量と次元、速度、加速度の解析的表現と運動学、エネルギー、運動量、角運動量などの物理量とそれらの間の基本法則を学修します。力学はさらに質点系の力学や振動・波動へと発展します。熱力学は第1、第2法則、エントロピーについて基礎概念を明確にする方向に力点を置きます。電磁気学はマクスウェルの方程式の導出が基本課題とします。

授業で学ぶ物理学の法則は、物質世界の諸法則の最も基本的部分を占め、他の諸科学にとっては物理学的前提や要請として含まれます。この特徴により、すべての自然系学生に物理学の学修が求められています。これらの内容を基礎的なものから順に編成し物理学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBとして開講します。

- a) 物理学ⅠA、ⅠBは入門として必要な教育課題を中心に構成していますので、物理学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に履修してください。
- b) 所属する学類によっては、物理学の分野に属する専門教育科目を開講します。それらは基礎科目の修得を前提として授業を進めますので、よく承知して学修してください。
- c) 物理学の理解を深めるためには、講義と実習の他に演習が必要です。各自、演習書などを利用して学修してください。
- d) 物理学は理論の体系性が著しい科学ですが、実験科学としての側面も持っています。物理学実験は必要な学修課題を配置したコース実験としています。コース全体の履修を通じて実験の手法や装置の学修を行いますので、詳細はWebシラバスで確認してください。

③ 化学

私たちの身のまわりには、空気や岩石から生体分子まで、数え切れないほどの多様な物質が存在し、変化しています。物質を構成する基本単位は原子であり、物質の多様性は原子の組み合わせによって生じていると考えられます。化学はさまざまな物質の性質や変化を原子や分子の振る舞いに注目して調べる学問であるといえます。また、原子や分子の性質をうまく活用して新しい有用な物質を作り出すことも、化学の重要な活動のひとつです。

自然界に存在するきわめて多数の物質の構造や性質をひとつひとつ記憶するのは、よほどの記憶力を持った人にしかできないでしょうし、化学を理解し自分の専門分野に活用するために有効な努力だとは考えられません。共通性や規則性にもとづいていろいろな知識を整理し活用するという発想法は、化学でも有効です。また化学では、物質を理解するために役に立つことは、物理学でも数学でも、何でも取り入れて活用しています。科目の区分にとらわれて他の分野のやり方や考え方を拒絶するのは、化学を理解し活用する妨げになります。

このように、化学は物質を理解し活用するための要となる学問分野であり、工学、医学、薬学などの応用科学とも深く関係しています。

- a) 化学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの意義、目的などは共通ですが、授業で取り上げる項目の順番、重点をおく項目、説明のために用いる例などが各学類等で多少異なっています。したがって、自分の所属する学類等を優先する授業クラスで履修してください。また、化学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に履修することを推奨します。
- b) 所属する学類によっては、化学の分野に属する専門教育科目を開講します。それらは基礎科目の修得を前提として授業を進めますので、よく承知して学修してください。
- c) 化学実験は、これまでに学修したりこれから学修したりする化学的な現象を実際に体験する機会として、さらに化学実験の手法を学修する機会として、とても重要です。化学関係の分野を専攻しない学生にも履修することを勧めます。
- d) 自分の所属する学類等を優先する授業クラスが開講されていない場合でも、基礎科目の化学の講義、実験を履修することができます。履修希望者は授業クラスの担当教員と相談し、了承を得てください。履修者が多すぎて講義、実験を円滑に行うことが困難となる場合は了承しないこともあるので、よく相談してください。

④ 地学

地学は、地球自体の姿を解明する分野、地球を太陽系や宇宙の中で捉えようとする分野、そして人間を含む生物と地球の関係を明らかにしようとする分野等を含み、各種の観測・観察手法、解析・分析手法により地球の過去・現在・未来を明らかにしようとする総合科学です。地学は、地球科学に関連する分野への展開に繋がる基礎科学であると同時に、現在人類の喫緊の課題である地球環境・資源問題に対応するための基礎科学としての役割も果たしています。従って、地球科学およびそれに関連する分野を専攻しようとする学生には、その基礎と今後の指針を示すことを目的とし、また、他の分野の学生には科学常識としての一般的な地球科学・地球環境学の知識・考え方が修得できるように配慮しています。

内容は、基本的、概説的なものから順次、地球の進化と現状の理解が容易になるように構成されています。また専門的な分野にもつながるように考慮され、基礎科目として第1・2クォーターには、それぞれ地学ⅠA、ⅠBを、第3・4クォーターには、地学ⅡA、ⅡBを開講します。

- a) 地学の概説的入門科目として理工学域の学生に地学ⅠA、ⅠBおよび地学ⅡA、ⅡBを開講します。
- b) 理工学域地球社会基盤学類の学生には地学ⅠA、ⅠBは必修科目としていますので、必ず履修してください。理工学域地球社会基盤学類以外の理工学域の学生は、選択科目として履修できる場合があります。
- c) 理工学域以外の学生も、授業クラスの人数を超えない範囲で受講を認めますので、希望者は担当教員に申し出て了承を得てください。
- d) 地学ⅠA、ⅠBおよび地学ⅡA、ⅡBは、ⅠA、ⅠBおよびⅡA、ⅡBの順に履修することを推奨します。

⑤ 実験

自然科学は観測から出発し、それがどのように理論的に体系化されても、最後には実験によって検証しなければなりません。この意味で実験は自然と人間認識の橋渡しをする自然科学の要の位置を占めています。また科学技術の進展によって実験装置や手法が開発され、それによって新たな学問分野が開かれたり、新しい物質が合成されたりして、自然科学の諸分野をさらに発展させている側面も忘れてはなりません。

基礎科目における実験の学修は以下のような様々の意義をもっています。

- (1) 講義内容と対応した実験によって、法則や理論の理解を深める。
- (2) 自然の多様な現象を体験し、興味を育てる。
- (3) 実験の技術、手法や装置の学修をする。
- (4) データの処理や実験結果のまとめ方を学修する。
- (5) 試行錯誤や教員などとの対話によって科学的思考方法を会得する。

基礎科目の実験としては物理学実験、化学実験を開講します。

⑥ 各分野の相互関係と学修の相乗効果

数学の内容は他の分野にとって言葉として、あるいは手段、道具として日常不断に登場してきます。数学の学修にはより原理的理解を旨とする学修と、諸定理、法則の運用の経験を積み应用能力を高めることを旨とする学修とがあります。この二つの立場を柔軟に使い分け学修してゆくことが望ましいと考えられます。

物理学は他分野に基礎的法則として入り込んでいますので、各分野について原理的理解を旨とすると、物理学の学修が重要になります。物理学の現象や法則を数学的方法によって記述する機会が多いので、物理学の学修が、数学の法則の応用、適用例として、数学そのものの理解にも通じる側面があります。

化学の内容の一部では数学や物理学のやり方や考え方を活用しています。したがって、数学や物理学の学修は化学の理解を助けます。また、化学で学修した内容は地学に活用できます。逆に、地学を学修することによって化学に対する関心が高まると期待されます。

地学は現代の総合科目としての側面を持ちつつあり、環境問題から、自然観にかかわる多様な知識を得ることができますので他分野の学修に刺激を与えるものとなります。

以上の各科目をバランスをとって学修することにより、その相乗効果により各自が基礎学力を一層高めることが期待されています。

初 習 言 語 科 目

- (1) 開講科目・区分・単位・成績評価と単位認定
- (2) 初習言語科目開講時間帯
- (3) 初習言語科目を卒業要件とする学類と必修単位
- (4) ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・スペイン語の履修
 - 4.1. 標準的履修
 - 4.2. 履修登録、単位修得上のルール
 - 4.3. 前クォーターの成績が「不可」、「放棄」又は未履修の場合
 - 4.4. 選択科目として4単位分を履修する場合の注意
- (5) ギリシア語・ラテン語（西洋古典語）の履修
 - 5.1. 標準的履修
 - 5.2. 履修登録、単位修得上のルール
 - 5.3. 必修単位修得上のルール
 - 5.4. 前クォーターの成績が「不可」、「放棄」又は未履修の場合
- (6) 日本語の履修
 - 6.1. 対象と目的
 - 6.2. 開講科目
 - 6.3. 履修登録、単位修得上のルール
 - 6.4. 再履修のルール
- (7) 履修上の特例
 - 7.1. 外国人留学生
 - 7.2. 帰国生徒
 - 7.3. 初習言語を入学以前に学んでいる者
- (8) 外部試験による単位認定

(1) 開講科目・区分・単位・成績評価と単位認定

- ① 共通教育科目として開講される初習言語科目は、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語、ギリシア語・ラテン語、ロシア語※1、日本語※2です。履修可能な初習言語は第1言語（母語）以外の言語のみです。
 - ※1 ロシア語は令和6年度不開講です。令和7年度以降の開講計画も未定であるため、ロシア語に関する記述は以下では省略します。
 - ※2 融合学域・国際学類で日本語能力を要件としない入学者選抜試験により入学した外国人留学生対象
- ② 初習言語科目は「基礎」「実践基礎」「展開」に区分します。「基礎」は当該言語のコミュニケーション体系に関する基礎的な知識を獲得する科目、「実践基礎」は時代状況に適応した実践的な言語運用能力を獲得する科目、「展開」は「基礎」「実践基礎」で獲得した知識や運用能力を確実にするとともにさらに伸長させる科目です。

「基礎」は「基礎1」「基礎2」「基礎3」「基礎4」の4科目4単位、「実践基礎」は「実践基礎1」「実践基礎2」「実践基礎3」「実践基礎4」の4科目4単位、「展開」は「展開I」「展開II」の2科目2単位から構成されます。「展開」の履修は、入学前に学習歴がある場合を除き、「基礎」および「実践基礎」の合計修得単位数が6単位以上の場合にのみ許可されます。
- ③ 週1コマ1クォーターの履修をもって1単位が認定されます。
- ④ 各クォーター、3分の2以上の授業に出席して試験に合格すれば「S・A・B・C」のいずれかの評価で単位が認定されます。試験に不合格の場合、評価は「不可」となります。また欠席が3分の1を超える場合や試験を受けなかった場合、評価は「放棄」となり、単位は認定されません。

(2) 初習言語科目開講時間帯

初習言語科目は3つの開講時間帯で開講されます。その3つの時間帯と開講曜日・時限、対象となる学類等は以下の通りです。

初習言語科目「基礎」「実践基礎」開講時間帯		
	開講曜日・時限	対象学類等
第1時間帯	火曜日 2限 木曜日 4限	人文学類、法学類、国際学類
第2時間帯	火曜日 3限 木曜日 3限	先導学類、観光デザイン学類、 経済学類、地域創造学類、総合教育部（文系）
全学生対象時間帯	月曜日 5限 水曜日 5限	全学生

初習言語科目「展開」開講時間帯		
	開講曜日・時限	対象学類等
全学生対象時間帯	月曜日 5限 水曜日 5限	全学生

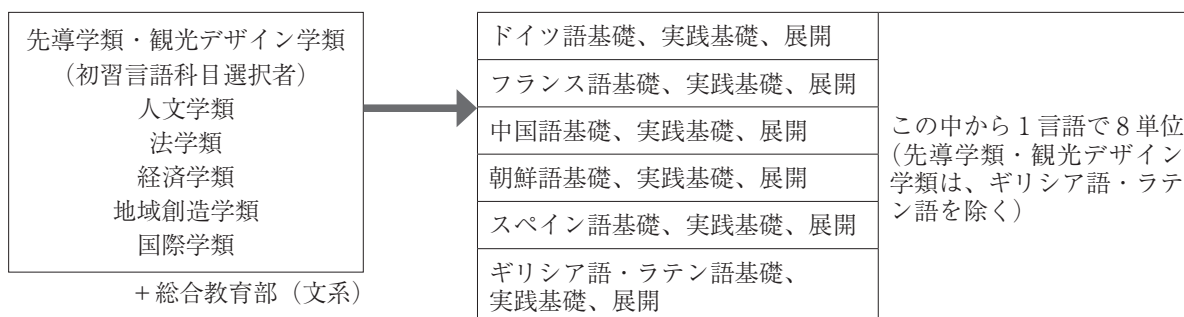
注：初習言語（日本語）の履修時間帯は、「(6)日本語の履修」で確認してください。

(3) 初習言語科目を卒業要件とする学類と必修単位

① ここでは、初習言語科目8単位を必修として履修する人文学類、法学類、経済学類、地域創造学類、及び国際学類、必修ではありませんが、初習言語科目を卒業要件として選択できる先導学類及び観光デザイン学類、並びにこれらの学類が移行先に含まれる総合教育部（文系）の1年次を「必修1年次」と呼びます。

ただし、先導学類及び観光デザイン学類では、ギリシア語・ラテン語を除く言語から1言語8単位を修得する必要があります。

スマート創成科学類、学校教育学類、理工学域、医薬保健学域は、初習言語科目は必修ではありませんが、第1時間帯、第2時間帯の4名枠及び全学生対象時間帯での履修が可能です。



② 初習言語科目を卒業要件として履修する場合、「基礎」「実践基礎」「展開」の10科目から1言語8単位を修得してください。「展開」については、授業内容が異なれば1単位を超える修得が可能です。ただし、卒業要件を満たす単位として認められるのは、「展開Ⅰ」1単位、「展開Ⅱ」1単位を上限とします。これを超えた単位は、自由履修科目に算入されます。

③ 外国人留学生は「(7)履修上の特例」で確認してください。

【注】初習言語科目のクラス定員

「基礎」「実践基礎」の1クラスの定員は26名です。第1時間帯および第2時間帯に開講されるクラスについては、必修1年次は22名、2年次以上及び必修1年次以外の1年次（以下「必修1年次以外」と呼ぶ）は4名を上限とします。全学生対象時間帯に開講するクラスについては人数の内訳を定めません。「展開Ⅰ、Ⅱ」の1クラスの定員は26名です。

(4) ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・スペイン語の履修

4.1. 標準的履修

クォーター	第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
科目	ドイツ語基礎1	ドイツ語基礎2	ドイツ語基礎3	ドイツ語基礎4
	ドイツ語実践基礎1	ドイツ語実践基礎2	ドイツ語実践基礎3	ドイツ語実践基礎4

必修1年次の標準的履修例

初習言語科目「基礎」「実践基礎」は、1年次の第1クォーターに「基礎1」と「実践基礎1」、第2クォーターに「基礎2」と「実践基礎2」、第3クォーターに「基礎3」と「実践基礎3」、第4クォーターに「基礎4」「実践基礎4」を履修するのが標準となります。

「基礎1」と「実践基礎1」、「基礎2」と「実践基礎2」、「基礎3」と「実践基礎3」、「基礎4」と「実践基礎4」は通常、セットで開講します。

「基礎1～4」および「実践基礎1～4」は内容的に連続しています。第2クォーター以後は、第1クォーターの「基礎1」と「実践基礎1」と同じ曜日の同じ時限に、第1クォーターと同じ教員が担当する「基礎2」「実践基礎2」等を履修することが原則となります。

4.2. 履修登録、単位修得上のルール

① ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・スペイン語を第1希望とする必修1年次

履修登録期間中に学類等ごとに指定された第1時間帯又は第2時間帯において、ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・スペイン語の5言語のうち、第1希望から第5希望まで希望する言語を履修登録してください。(必ず第5希望まで登録してください) なお、全学生対象時間帯で開講されている初習言語科目に履修登録してはいけません。

抽選の結果、言語とクラスが自動的に振り分けられます。履修登録補正期間に抽選結果を確認してください。当選した言語及びクラスの変更はできません。抽選結果に基づき、「基礎1」～「基礎4」と「実践基礎1」～「実践基礎4」が一年間を通じて履修登録されます。

・原則的に「基礎1」から履修をはじめ、「基礎2」、「基礎3」…、「実践基礎4」という順序で履修を進めます。

② 必修1年次以外

第1時間帯及び第2時間帯では、各クラスに設定された4名の枠に履修登録可能です。また、全学生対象時間帯にも履修登録が可能です。定員を超える履修希望があった場合、抽選が行われます。通常の履修登録と同じです。全ての科目について個別に履修登録が必要です。

学生所属及び第1希望言語による整理

区分	第1希望言語	時間帯	第1クォーター履修登録期間に行うこと	抽選	履修登録補正期間に行うこと	第2クォーター以降の履修登録
必修1年次	ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語	第1時間帯又は第2時間帯	抽選用の時間割番号による履修登録*	言語抽選(言語決定、授業クラスの振り分け)	当選した科目は原則修正等不可。**	自動的に登録されるため履修登録不要
	ラテン語・ギリシア語	全学生対象時間帯	通常の履修登録	通常の抽選処理	通常通り	通常通り
必修1年次以外	全て	全て	通常の履修登録***	通常の抽選処理	通常通り	通常通り

* ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語のうち第1希望から第5希望まで履修登録する。言語選択に「優先指定」を使用できる。

** 基本的にいずれかの言語が当選するが、言語抽選後に当選した言語がない学生については、第1時間帯又は第2時間帯の22人枠のうち空きがある科目か、全学時間帯の科目に履修登録を行う。なお、この場合は、第2クォーター以降も全て個別に履修登録する必要がある。

*** 第1時間帯・第2時間帯は4名枠に履修登録する。

4.3. 前クォーターの成績が「不可」、「放棄」又は未履修の場合

「基礎」「実践基礎」については、前クォーターの科目が「不可」、「放棄」又は未履修である場合は、内容的に次段階に位置する科目の履修は原則としてできません。不可等が判明した時点で履修登録が削除されます。ただし、担当教員に履修希望を申し出て、初習言語科目責任担当者の連絡会(以下、「初習連絡会」)が履修を認めた場合に限り、次段階に位置する科目を履修することができます。その際、初習連絡会が小テスト、課題、面談などにより履修可否を判断します。この場合の履修登録は基幹教育学務係において行うため、初習連絡会の許可を得られ次第速やかに、基幹教育学務係に申し出る必要があります。

「基礎1～4」「実践基礎1～4」を履修して不合格となった場合は、不合格となった科目を再度履修し、単位を修得するか、「基礎1～4」「実践基礎1～4」から合わせて6単位以上修得していれば、「展開Ⅰ」「展開Ⅱ」の履修により1言語8単位の要件を充足することも可能です。

再履修の場合、学類による曜日・時限の指定はありません。「基礎」「実践基礎」の各クラスに設定されている必修1年次以外向けの4名枠に履修登録するか、全学生対象時間帯のクラスに履修登録してください。

4.4. 選択科目として4単位分を履修する場合の注意

選択科目として履修する場合は最低でも4単位の修得を目指してください。

セットで開講されている「基礎1」と「実践基礎1」、「基礎2」と「実践基礎2」を履修することが標準です。ただし、「基礎1」・「基礎2」と「基礎3」・「基礎4」、または「実践基礎1」・「実践基礎2」と「実践基礎3」・「実践基礎4」の組合せで履修することも可能です。

(5) ギリシア語・ラテン語(西洋古典語)の履修

※初習言語科目を卒業要件として選択して履修する先導学類・観光デザイン学類の学生は、ギリシア語・ラテン語を除く言語から1言語8単位を修得する必要がありますので、注意してください。(ギリシア語・ラテン語の履修は可能です。この場合は、自由履修科目に算入されます。)

ギリシア語・ラテン語を第1希望とする学生は、全学生対象時間帯に開講されている科目に履修登録してください。

5.1. 標準的履修

- ・ギリシア語・ラテン語科目は、1年次の第1クォーターに「基礎1」、第2クォーターに「基礎2」、第3クォーターに「基礎3」、第4クォーターに「基礎4」、2年次の第1クォーターに「実践基礎1」、第2クォーターに「実践基礎2」、第3クォーターに「実践基礎3」、第4クォーターに「実践基礎4」を履修するのが標準です。
- ・「基礎1」「基礎2」「基礎3」「基礎4」、「実践基礎1」「実践基礎2」「実践基礎3」「実践基礎4」は、内容的に連続した授業です。

西洋古典語	履修時期	曜日時限	第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
ギリシア語	1年目	月5	基礎1	基礎2	基礎3	基礎4
	2年目	水5	実践基礎1	実践基礎2	実践基礎3	実践基礎4
	3年目	月5/水5	展開I	展開II		
ラテン語	1年目	水5	基礎1	基礎2	基礎3	基礎4
	2年目	月5	実践基礎1	実践基礎2	実践基礎3	実践基礎4
	3年目	月5/水5	展開I	展開II		

※全学生開講時間帯（月5限/水5限）以外の時間割での開講もあります。詳細についてはシラバスを参照してください。

5.2. 履修登録、単位修得上のルール

ギリシア語またはラテン語、もしくはその両者を第1希望とする学生は、全学生対象時間帯に開講されている科目に履修登録してください。この場合、全学生対象時間帯に開講する他の言語も履修登録可能です。ただし、定員26名を超える履修希望者がいた場合には抽選が行われます。曜日時限が指定されていること以外は、通常の履修登録と同じです。全学生対象時間帯に開講される初習言語科目は、「基礎」及び「実践基礎」を個別に、毎クォーター履修登録する必要があります。

なお抽選前には、第1時間帯および第2時間帯の初習言語科目には履修登録してはいけません。履修登録補正期間中の履修登録は可能ですが、基幹教育学務係に申し出る必要があります。

また、ギリシア語またはラテン語のどちらか一方のみを履修登録する場合には、1年次では、卒業に必要な1言語8単位を充足できないので、各言語のコーディネーターに相談し、慎重に履修計画を立ててください。

5.3. 必修単位修得上のルール

- ・ギリシア語「基礎」「実践基礎」の8単位、またはラテン語「基礎」「実践基礎」の8単位により1言語8単位とするほか、ギリシア語「基礎1～4」（計4単位）とラテン語「基礎1～4」（計4単位）を履修し、これを合わせて「西洋古典語」1言語8単位とみなすこともできます。

5.4. 前クォーターの成績が「不可」、「放棄」又は未履修の場合

「基礎」「実践基礎」については、前クォーターの科目が「不可」、「放棄」又は未履修である場合は、内容的に次段階に位置する科目の履修は原則としてできません。ただし、担当教員に履修希望を申し出て、初習連絡会が履修を認めた場合に限り、次段階に位置する科目を履修することができます。その際、初習連絡会が小テスト、課題、面談などにより履修可否を判断します。この場合の履修登録は基幹教育学務係において行うため、初習連絡会の許可を得られ次第速やかに、基幹教育学務係に申し出る必要があります。

「基礎1～4」「実践基礎1～4」を履修して不合格となった場合は、不合格となった科目を再度履修し、単位を修得するか、「基礎1～4」「実践基礎1～4」から合わせて6単位以上修得していれば、「展開I」「展開II」の履修により1言語8単位の要件を充足することも可能です。

(6) 日本語の履修

【融合学域・国際学類で日本語能力を要件としない入学者選抜試験により入学した外国人留学生対象】

6.1. 対象と目的

本学の融合学域・国際学類で日本語能力を要件としない入学者選抜試験により入学した「正規生」で「日本語を母語としない外国人留学生」のうち、日本語の初学者を対象とし、大学での日常生活を遂行するために必要な日本語力を育成します。

6.2. 開講科目

※日本語をこれまでに学んだことがない者と学期開始前のプレースメントテストで「初習言語科目（日本語）」を履修するよう判定された者は、この科目を履修してください。

日常生活の遂行に必要な基礎的な日本語能力を総合的に身に付けます。

週4回授業があり、毎回の授業内容は連続しています。全てに出席しなければなりません。

曜日	月		火		水		木		金	
時限	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学期	Q1/Q3	Q2/Q4	Q1/Q3	Q2/Q4	Q1/Q3	Q2/Q4	Q1/Q3	Q2/Q4	Q1/Q3	Q2/Q4
科目名	日本語 基礎1	日本語 実践基礎1	日本語 基礎2	日本語 実践基礎2	日本語 基礎3	日本語 実践基礎3	—	—	日本語 基礎4	日本語 実践基礎4

6.3. 履修登録、単位修得上のルール

- ① 基礎1、基礎2、基礎3、基礎4（Q1/Q3）と実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4（Q2/Q4）のすべてを同時に履修して、セメスターで「8単位」修得してください。
- ② Q1に基礎1、基礎2、基礎3、基礎4のすべてを履修し、4単位を修得しなければ、Q2に実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4の履修登録ができません。

6.4. 再履修のルール

- ① Q1に基礎1、基礎2、基礎3、基礎4が不合格になった場合、Q3で再度同じ科目を履修してください。
- ② Q2に実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4が不合格になった場合、Q4で再度同じ科目を履修してください。

(7) 履修上の特例

7.1. 外国人留学生

- ① 母語の判定も含めて、個別に履修指導を行います。履修説明会時の指示に従ってください。
- ② 母語を初習言語科目として履修することはできません。

7.2. 帰国生徒

入試の種別にかかわらず、個別に履修指導を行います。必ず1年次の第1クォーターの履修登録前に基幹教育学務係に申し出てください。

7.3. 初習言語を入学以前に学んでいる者

1年次の第1クォーターに初習言語「展開」の履修を希望する者については、個別に履修指導を行います。必ず第1クォーターの履修登録前に基幹教育学務係に申し出てください。初習連絡会による履修可否の判定を行います。

(8) 外部試験による単位認定

- ① 本学入学後の外部試験合格（あるいは所定のスコアへの到達）によって、相応する科目の単位認定を申請することができます。
※日本語【日本語を母語としない外国人留学生のうち、融合学域・国際学類で日本語能力を要件としな
い入学者選抜試験により入学した外国人留学生対象】に限り、本学に外部試験の単位認定を申請した
日を起点として当該試験の受験日が2年以内のものに限り認められます。
- ② 対象とする外部試験と認定される単位数は別表のとおりです。
- ③ 単位認定を希望する者は、合格証並びにスコアレポート（PDFファイル等を印刷したものは不可）
を添えて基幹教育学務係に単位認定申請書を提出してください。審査により認定基準への合致が認めら
れた場合にのみ、単位が認定されます。申請の締切日は、別途、掲示等で通知します。
- ④ 成績評価は「認定」とし、履修単位数上限およびGPA制度の対象から除外します。
- ⑤ 履修中の初習言語科目「基礎」「実践基礎」の単位認定を希望する者は、合格証を受け取り次第、速
やかに単位認定申請書を提出してください。履修中の科目については、「履修登録削除申請書」の提出
により履修登録削除が可能です。
- ⑥ 同一言語での2回目以降の申請については増加単位分のみを認定します。
- ⑦ 原則として、一度単位認定に使用したスコア等を他の単位認定申請に使用することはできません。

【別表】対象となる外部試験と単位認定数

言語名	試験名	単位認定数
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験5級	ドイツ語基礎1、実践基礎1 計2単位
	ドイツ語技能検定試験4級	ドイツ語基礎1、基礎2、実践基礎1、実践基礎2 計4単位
	ドイツ語技能検定試験3級以上	ドイツ語基礎1、基礎2、基礎3、基礎4、 実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4 計8単位
	CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）A1以上	
フランス語	実用フランス語技能検定試験5級	フランス語基礎1、基礎2、実践基礎1、実践基礎2 計4単位
	実用フランス語技能検定試験4級以上	フランス語基礎1、基礎2、基礎3、基礎4、 実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4 計8単位
	CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）A1以上	
中国語	中国語検定試験準4級	中国語基礎1、基礎2、実践基礎1、実践基礎2 計4単位
	中国語検定試験4級以上	中国語基礎1、基礎2、基礎3、基礎4、 実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4 計8単位
朝鮮語	ハングル能力検定試験5級	朝鮮語基礎1、基礎2、実践基礎1、実践基礎2 計4単位
	韓国語能力試験（TOPIK）1級	
	ハングル能力検定試験4級以上	朝鮮語基礎1、基礎2、基礎3、基礎4、 実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4 計8単位
	韓国語能力試験（TOPIK）2級以上	
スペイン語	スペイン語技能検定6級	スペイン語基礎1、基礎2、実践基礎1、実践基礎2 計4単位
	スペイン語技能検定5級以上	スペイン語基礎1、基礎2、基礎3、基礎4、 実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4 計8単位
	CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）A1以上	
ロシア語	ロシア語能力検定試験4級以上	ロシア語基礎1、基礎2、基礎3、基礎4、 実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4 計8単位
日本語	日本語能力試験N5以上	日本語基礎1、基礎2、基礎3、基礎4、 実践基礎1、実践基礎2、実践基礎3、実践基礎4 計8単位

自 由 履 修 科 目

前述した区分以外のその他の共通教育科目を指します。また、所属する学類が定める最低修得要件を超えて修得した単位が、自由履修科目として算入されます。

自由履修科目には、例えば、以下のような科目があります。

- ・「未来デザインプラクティス」
- ・教職科目（「日本国憲法概説」「生物学実験」「地学実験」など）
- ・シティカレッジ開講科目（「金沢の歴史と文化」「石川県の市町」など）

これ以外の自由履修科目は、Webシラバス等で確認してください。

○GS科目

GS科目は全学類が修得すべき単位数及び要件を「1群から5群の各群から2単位以上、6群から3単位」計15単位（詳細は25ページ GS科目（2）履修要件参照）と定めています。これを越えてGS科目の単位を修得した場合は、自由履修科目の単位として卒業要件に含めることができます。

○基礎科目および初習言語科目

基礎科目および初習言語科目は、それぞれの学類が単位修得要件として指定しています。所属の学類が指定していない科目を履修し、単位を修得した場合は、自由履修科目の単位として卒業要件に含めることができます。

○導入科目とGS言語科目

導入科目とGS言語科目は全学必修の割り当て科目なので、学類が定める最低修得要件を超えて単位を修得できません。

16. 学類別の卒業要件（共通教育科目）

令和6（2024）年度入学者用

先 導 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件	
共通教育科目	導入科目		大学・社会生活論 1単位 データサイエンス基礎 1単位 地域概論 1単位
	GS科目(6群)	36単位以上	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位
	GS言語科目		Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位
	自由履修科目※		2単位以上
	基礎科目		所定の基礎科目8単位又は所定の初習言語科目1言語 8単位
	初習言語科目		
	学域GS科目	6単位	
学域GS言語科目	2単位		
専門教育科目	専門基礎科目	88単位以上 (融合試験履修者は94単位以上)	実践科目
	コア科目		10単位
	自主選択枠		同一のコアエリアから8単位以上、かつ、残る2コア エリアから各1単位以上を含む計18単位
	学知科目		すべての専門教育科目から10単位以上
	鍛練科目		30単位
	確立科目		4単位
	融合研究、融合演習又は融合試験から8単位		
卒業に必要な単位数		124単位以上（融合試験履修者は130単位以上）	

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）の単位を指します。

注1. 専門教育科目における自主選択枠は、学域GS科目、学域GS言語科目、専門基礎科目及び専門科目の最低修得要件を超えて修得した科目を指します。

注2. 専門教育科目の履修要件は、『融合学域学生ハンドブック』で確認してください。

注3. 学域GS科目におけるGS科目発展系科目群の修得単位は、専門教育科目における自主選択枠にのみ算入できます。

融合学域規程 別表第2

共通教育科目における基礎科目の修得要件

授業科目	配当年次	単位数	修得要件
微分積分学 I A	1	1	8単位を修得すること。
微分積分学 I B	1	1	
線形代数学 I A	1	1	
線形代数学 I B	1	1	
微分積分学 II A	1	1	
微分積分学 II B	1	1	
線形代数学 II A	1	1	

線形代数学ⅡB	1	1	8単位を修得すること。
物理学ⅠA	1	1	
物理学ⅠB	1	1	
物理学ⅡA	1	1	
物理学ⅡB	1	1	
化学ⅠA	1	1	
化学ⅠB	1	1	
化学ⅡA	1	1	
化学ⅡB	1	1	

(2) 共通教育科目の履修

外国人留学生の言語科目の履修は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

観 光 デ ザ イ ン 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	36単位以上	大学・社会生活論 1単位 データサイエンス基礎 1単位 地域概論 1単位	
	GS科目(6群)		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位	
	GS言語科目		Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
	基礎科目		所定の基礎科目8単位又は所定の初習言語科目1言語 8単位	
	初習言語科目			
専門教育科目	学域GS科目	88単位以上 (融合試験履修者は94単位以上)	6単位	
	学域GS言語科目		2単位	
	専門基礎科目		実践科目	13単位
			基盤科目	19単位
	自主選択枠		すべての専門教育科目から10単位以上	
	専門科目		学知科目	同一のコアエリアから13単位以上、かつ、残る2コアエリアから各1単位以上を含む計26単位
			鍛練科目	4単位
確立科目		融合研究、融合演習又は融合試験から8単位		
卒業に必要な単位数			124単位以上(融合試験履修者は130単位以上)	

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）の単位を指します。

注1. 専門教育科目における自主選択枠は、学域GS科目、学域GS言語科目、専門基礎科目及び専門科目の最低修得要件を超えて修得した科目を指します。

注2. 専門教育科目の履修要件は、『融合学域学生ハンドブック』で確認してください。

注3. 学域GS科目におけるGS科目発展系科目群の修得単位は、専門教育科目における自主選択枠にのみ算入できます。

融合学域規程 別表第2

共通教育科目における基礎科目の修得要件

授業科目	配当年次	単位数	修得要件
微分積分学 I A	1	1	8単位を修得すること。
微分積分学 I B	1	1	
線形代数学 I A	1	1	
線形代数学 I B	1	1	
微分積分学 II A	1	1	
微分積分学 II B	1	1	
線形代数学 II A	1	1	
線形代数学 II B	1	1	
物理学 I A	1	1	
物理学 I B	1	1	
物理学 II A	1	1	
物理学 II B	1	1	
化学 I A	1	1	
化学 I B	1	1	
化学 II A	1	1	
化学 II B	1	1	

(2) 共通教育科目の履修

外国人留学生の言語科目の履修は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	36単位以上	大学・社会生活論 1単位	
			データサイエンス基礎 1単位	
			地域概論 1単位	
	GS科目(6群)		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。	
	GS言語科目		Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
	基礎科目		所定の基礎科目8単位	
	初習言語科目			
専門教育科目	学域GS科目	88単位以上 (融合試験履修者は94単位以上)	6単位	
	学域GS言語科目		2単位	
	専門基礎科目		実践科目	13単位
			基盤科目	19単位
	自主選択枠		すべての専門教育科目から10単位以上	
	専門科目		学知科目	同一のコアエリアから13単位以上、かつ、残る2コアエリアから各1単位以上を含む計26単位
			鍛練科目	4単位
			確立科目	融合研究、融合演習又は融合試験から8単位
卒業に必要な単位数		124単位以上(融合試験履修者は130単位以上)		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)の単位を指します。

注1. 専門教育科目における自主選択枠は、学域GS科目、学域GS言語科目、専門基礎科目及び専門科目の最低修得要件を超えて修得した科目を指します。

注2. 専門教育科目の履修要件は、『融合学域学生ハンドブック』で確認してください。

注3. 学域GS科目におけるGS科目発展系科目群の修得単位は、専門教育科目における自主選択枠にのみ算入できます。

融合学域規程 別表第2

共通教育科目における基礎科目の修得要件

授業科目	配当年次	単位数	修得要件
微分積分学ⅠA	1	1	8 単位を修得すること。
微分積分学ⅠB	1	1	
線形代数学ⅠA	1	1	
線形代数学ⅠB	1	1	
微分積分学ⅡA	1	1	
微分積分学ⅡB	1	1	
線形代数学ⅡA	1	1	
線形代数学ⅡB	1	1	
統計数学A	1	1	
統計数学B	1	1	
物理学ⅠA	1	1	
物理学ⅠB	1	1	
物理学ⅡA	1	1	
物理学ⅡB	1	1	
化学ⅠA	1	1	
化学ⅠB	1	1	
化学ⅡA	1	1	
化学ⅡB	1	1	

(2) 共通教育科目の履修

外国人留学生の言語科目の履修は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等の履修は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	1単位	
		データサイエンス基礎	1単位	
		地域概論	1単位	
	GS科目(6群)	36単位以上	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位	28単位以上
	GS言語科目		Practical English コース 4単位、 EAP コース 4単位	
	自由履修科目 ※ ¹		2単位以上	
	基礎科目			
	初習言語科目		1言語 8単位以上	
専門教育科目	学域GS科目 ※ ²	アカデミックスキル	1単位	6単位以上
		プレゼン・ディベート論	1単位	
		学域俯瞰科目		
		データサイエンス応用系科目	2単位以上	
	学域GS言語科目		2科目 2単位	
	専門基礎科目 (人文学基盤科目)		「人文学序説A・B・C・D」4単位を含む合計14単位以上を必ず履修すること。	
	専門科目		「卒業論文演習A」1単位、「卒業論文演習B」1単位、「卒業論文演習C」1単位、「卒業論文演習D」1単位、「卒業論文」6単位を必ず履修すること。また、これら計10単位に加えて、各プログラムごとに指定する専門科目54単位以上の履修が必要。※ ³	
卒業に必要な単位数		124単位以上		

※¹ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）の単位を指します。

※² 学域GS科目の「学域俯瞰科目」、「データサイエンス応用系科目」として開講するGS科目発展系科目群の修得単位を含みます。

※³ 教職免許を取得するために必要な「教育の基礎的理解に関する科目等」や「各教科の指導法」の単位は、一部を除き、卒業要件に含まれませんので、十分に注意してください。

(2) 共通教育科目の履修

- ① 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。
- ② 各プログラムにおいて履修することが望ましい科目は以下のとおりです。

現代社会・人間学プログラム

【哲学・倫理学系の履修モデル選択希望者】

○ドイツ語基礎・実践基礎、フランス語基礎・実践基礎、ギリシア語基礎・実践基礎、ラテン語基礎・実践基礎のうち、少なくとも1つを履修することが望ましい。

歴史学プログラム

【履修モデル「日本史」選択希望者】

○GS科目「4B 日本史・日本文化」を履修していることが望ましい。

【履修モデル「東洋史」選択希望者】

○中国語基礎・実践基礎を履修することが望ましい。

【履修モデル「西洋史」選択希望者】

○研究したいテーマに関連するヨーロッパ諸言語を1つ以上履修することが望ましい。

(例えば、ドイツ語基礎・実践基礎、フランス語基礎・実践基礎。ただし、ラテン語、ギリシア語の場合はさらに他のヨーロッパ諸言語を履修することが望ましい。)

日本・中国言語文化学プログラム

【中国語学中国文学系の履修モデル選択希望者】

○中国語基礎・実践基礎を履修することが望ましい。

欧米言語文化学プログラム

○フランス語基礎・実践基礎かドイツ語基礎・実践基礎のうち、いずれか一方を履修することが望ましい。

言語科学プログラム

○特に指定はないが、中国語基礎・実践基礎、ドイツ語基礎・実践基礎、フランス語基礎・実践基礎といった現代語、ギリシア語基礎・実践基礎、ラテン語基礎・実践基礎といった古典語など、広く言語科目を履修することが望ましい。

(3) 専門教育科目の履修

火曜日・木曜日・金曜日に1年次を主な対象とする専門教育科目が開講されます。その他、一部の専門教育科目も履修できます。

(4) 教育職員免許状については、「20. 教育職員免許状」で確認してください。

法 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件	
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論 1単位 データサイエンス基礎 1単位 地域概論 1単位	28単位以上
	GS科目(6群)	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位	
	GS言語科目	Practical English コース 4単位、 EAPコース 4単位	
	自由履修科目 ※ ¹	2単位以上	
	基礎科目		
	初習言語科目	1言語 8単位	
専門教育科目	学域GS科目 ※ ²	アカデミックスキル、プレゼン・ディベート論各1単位及びデータサイエンス応用系科目から2単位以上を含め、合計8単位	
	学域GS言語科目	2単位以上※ ³	
	専門基礎科目	専門基礎科目 4単位以上を含め82単位以上	
	専門科目		
卒業に必要な単位数		128単位以上	

※¹ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)の単位を指します。

※² 学域GS科目の「学域俯瞰科目」、「データサイエンス応用系科目」として開講するGS科目発展系科目群の修得単位を含みます。

※³ 学域GS言語科目は、4単位まで卒業に必要な単位として算入できます。

(2) 共通教育科目の履修

GS言語科目及び初習言語科目

(ア) 法学類の専門科目の勉強を深める前提として、言語科目を履修することによってどのような意味があるかは、「法学類ハンドブック」第1章「大学における履修のための基礎知識（入門編）」のうち、「5. 授業科目あれこれ」の部分で説明していますから、よく読んでください。

なお、「初習言語ガイドブック」には、各言語を効果的に履修するためのアドバイスや、各言語と専門科目との関連性の説明を掲載していますから、ぜひ参照してください。

(イ) 外国人留学生の言語科目の履修は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

(3) 演習（専門科目・必修）

3年次以降の演習を履修するためには、次の単位をすべて修得していることが必要です（ただし、編入学生は、この限りではありません）。

(ア) 導入科目 3単位

(イ) 学域GS科目「アカデミックスキル」、「プレゼン・ディベート論」の各1単位

(ウ) 専門基礎科目「法学概論」2単位、「政治学A」1単位、「政治学B」1単位、「民法入門A」2単位、「民法入門B」2単位の合計8単位のうちから4単位

経	済	学	類
---	---	---	---

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件	
共通教育科目	導入科目		大学・社会生活論 1単位 データサイエンス基礎 1単位 地域概論 1単位
	GS科目(6群)	36単位以上	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位
	GS言語科目		Practical English コース 4単位、 EAP コース 4単位
	自由履修科目 ※		2単位以上
	基礎科目		
	初習言語科目		1言語 8単位
専門教育科目	学域GS科目(注1)		アカデミックスキル 1単位、プレゼン・ディベート論 1単位及びデータサイエンス応用系科目から2単位以上を含め、合計8単位
	学域GS言語科目	90単位以上	学域GS言語科目Ⅰ 1単位、学域GS言語科目Ⅱ 1単位
	専門基礎科目		4単位以上(注2)
	専門科目		コース選択必修24単位(注3)、演習 8単位及び英語化科目(EMI) 1単位を含む
卒業に必要な単位数		126単位以上	

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）の単位を指します。

注1. 学域GS科目の「学域俯瞰科目」、「データサイエンス応用系科目」として開講するGS科目発展系科目群の修得単位を含みます。

注2. 科目群Ⅰ（基礎統計学、マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ、Basic Economics A）から2単位、科目群Ⅱ（経済学史、日本経済論、経営学概論、Basic Economics B、経済史）から2単位を含みます。

注3. エコノミクスコースは、理論・政策系科目群から16単位およびグローバル系科目群から8単位を、グローバル・マネジメントコースは、マネジメント系科目群から16単位およびグローバル系科目群から8単位を、それぞれ含みます。

(2) 共通教育科目の履修

次の事項に留意するほか、『経済学類ハンドブック』に記載している『人間社会学域規程』『経済学類細則』等をよく読んでください。

- ① 共通教育科目はどの年次でも履修できます。また、高学年次での履修も可能ですが、**演習(専門科目・必修)**を履修するためには、**2年次前期終了までに一定の共通教育科目の単位を修得しなければなりません。**
- ② 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目(日本語)で確認してください。

(3) 演習配属要件

演習配属要件は、共通教育科目から22単位(大学・社会生活論、データサイエンス基礎、地域概論の3科目3単位を含む)以上及び専門教育科目からアカデミックスキル、プレゼン・ディベート論の2科目2単位を修得すること、並びに統計検定を受験することです。なお、演習配属要件に該当する検定種別は別に定める。

学校教育学類 共同教員養成課程

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件	
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論 1単位 データサイエンス基礎 1単位 地域概論 1単位	28単位以上
	GS科目(6群)	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位	
	GS言語科目	Practical Englishコース 4単位、 EAPコース 4単位	
	自由履修科目 ※ ¹	2単位以上	
	基礎科目	—	
	初習言語科目	—	
専門教育科目	学域GS科目 ※ ²	アカデミックスキル 1単位 プレゼン・ディベート論 1単位 } 必修 学域俯瞰科目 データサイエンス応用系科目 2単位以上	6単位以上
	学域GS言語科目	2単位	
	専門基礎科目	82単位以上 小学校教諭に加えて、幼稚園教諭二種免許状を取得する場合は、82単位以上、特別支援学校教諭二種免許を取得する場合は、83単位以上、中学校教諭二種免許状を取得する場合は、85単位以上	
	専門科目	24単位以上 特別支援学校教諭二種免許状を取得する場合は、23単位以上	
卒業に必要な単位数		144単位以上	

※¹ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)の単位を指します。

※² 学域GS科目の「学域俯瞰科目」、「データサイエンス応用系科目」として開講するGS科目発展系科目群の修得単位を含みます。

(2) 共通教育科目の履修

- ① 教育職員免許状取得のため、次の科目を必ず修得してください。
 日本国憲法に関する科目…日本国憲法概説（2単位）（自由履修科目に算入）
 体育に関する科目…GS科目「2F エクササイズ&スポーツ 実技」及びGS科目「3F スポーツ科学」から計2単位
 情報機器の操作に関する科目…GS科目「6C 情報の科学」（1単位）
 詳細は、「20. 教育職員免許状」で確認してください。
- ② 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

地 域 創 造 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件			
共通教育科目	導入科目	36単位以上	大学・社会生活論 1単位	28単位以上	
			データサイエンス基礎 1単位		
			地域概論 1単位		
	GS科目(6群)		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位		
	GS言語科目		Practical English コース 4単位、 EAP コース 4単位		
	自由履修科目 ※		2単位以上		
基礎科目					
初習言語科目	1言語 8単位				
専門教育科目	学域GS科目(注1)	88単位以上	8単位	アカデミックスキル 1単位	
				プレゼン・ディベート論 1単位	
				学域俯瞰科目	6単位以上
				データサイエンス応用系科目 2単位以上	
	学域GS言語科目		2科目 2単位		
専門基礎科目	8単位				
専門科目	54単位				
自由選択科目(注2)	16単位以上				
卒業に必要な単位数		124単位以上			

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）の単位を指します。

注1. 学域GS科目の「学域俯瞰科目」、「データサイエンス応用系科目」として開講するGS科目発展系科目群の修得単位を含みます。

注2. 専門教育科目における自由選択科目は、学域GS科目、専門基礎科目、専門科目の最低修得要件を超えて修得した科目及び他学域・他学類の授業科目を指します（専門基礎科目のうち、選択科目は4単位まで自由選択科目として認定します）。

(2) 共通教育科目の履修

- ① 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

国	際	学	類
---	---	---	---

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件	
共通教育科目	導入科目		大学・社会生活論 1単位 データサイエンス基礎 1単位 地域概論 1単位
	GS科目(6群)	36単位以上	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位
	GS言語科目		Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位
	自由履修科目 ※		2単位以上
	基礎科目		
	初習言語科目		1言語8単位
			28単位以上
専門教育科目	学域GS科目(注1)	88単位以上(注3)(注4)	アカデミックスキル1単位、プレゼン・ディベート論1単位及びデータサイエンス応用系科目から2単位以上を含め、8単位
	学域GS言語科目		2科目2単位
	専門基礎科目		「国際学入門」「同E」から1単位、「日本文化」「同E」から1単位(注2)、「研究指導1a、1b、2a、2b」から1単位を含め4単位必修
	専門科目		卒業論文(6単位)、研究演習(ABから4単位以上)を含む/プログラムごとに専門必修・選択必修科目26単位必修、選択科目38単位必修(注5)
卒業に必要な単位数		124単位以上	

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)の単位を指します。

注1. 学域GS科目の「学域俯瞰科目」、「データサイエンス応用系科目」として開講するGS科目発展系科目群の修得単位を含みます。

注2. Eプログラムにあっては、国際学入門E、日本文化Eが必修です。

注3. 専門基礎科目、専門科目中の英語による授業(Eを付した科目)を、英語圏研究プログラムにあっては6単位以上、Eプログラム以外の他のプログラムにあっては4単位以上修得してください。

注4. 教職免許を取得するために必要な「教育の基礎的理解に関する科目等」や「各教科の指導法」の単位は、卒業要件に含みませんので、十分に注意してください。

注5. 選択科目は、学域GS科目、専門基礎科目、各プログラムの専門必修・選択必修科目の修得すべき単位数を超えた単位及び他学域・他学類の科目で修得した単位(24単位まで)を含みます。

(2) 共通教育科目の履修

① 言語科目

(ア) 初習言語

国際政治プログラム、同Eプログラム、国際経済プログラム、同Eプログラム、英語圏研究プログラム、同Eプログラム、グローバルDEIプログラム、日本語教育プログラムで学びたい学生は、どの言語でもよいです。アジア・日本研究プログラムはどの言語でもよいですが、中国・台湾・朝鮮を研究しようとする者は、中国語・朝鮮語のいずれかを勧めます。ヨーロッパ圏研究プログラムは、ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語(ロシア語:2024年度は不開講)のいずれかを勧めます。

(イ) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目(日本語)で確認してください。また、英語のみで入学した学生には、別途指導します。

② 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、本履修案内「教育職員免許状」の項目や『国際学類ハンドブック』及び『教育職員免許状ハンドブック』の指示に従ってください。

数 物 科 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	42単位以上	大学・社会生活論 1単位	28単位以上
			データサイエンス基礎 1単位	
			地域概論 1単位	
	GS科目(6群)		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。	
	GS言語科目		Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
	基礎科目		14単位以上	
初習言語科目				
専門教育科目	自由履修枠	2単位以下	共通教育科目又は専門教育科目から自由に選択	
	学域GS科目	80単位以上	学域俯瞰科目 4単位以上 ※アントレプレナーシップ論は必修	8単位以上
			データサイエンス応用系科目 2単位以上	
	学域GS言語科目		初学者科目 2単位	
	専門基礎科目		2単位 ※2単位を超える修得単位は、自由履修枠に算入する。	
専門科目				
卒業に必要な単位数		124単位以上		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）の単位を指す。

注. 共通教育科目における基礎科目の履修方法は、理工学域規程別表第2のとおりとする。

課題研究着手に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第6のとおりとする。

卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第7のとおりとする。

* 自由履修枠の説明は10ページで確認。

注2. GS科目発展系科目群の修得単位は「専門教育科目」の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する。

* 学域GS科目には算入できないので注意すること。

理工学域規程別表第2（抜粋）

学 類	授業科目	学 年	毎週授業時間数				区 分	単 位 数	修得要件
			前期		後期				
			第1 クォーター	第2 クォーター	第3 クォーター	第4 クォーター			
数 物 科 学 類	微分積分学 I A	1	2				必修	1	必修のすべてと、選択から2単位以上を含む、14単位以上を修得すること。ただし、物理学系基礎プログラムにおいては、物理学実験を修得することが必要である。
	微分積分学 I B	1		2			必修	1	
	線形代数学 I A	1	2				必修	1	
	線形代数学 I B	1		2			必修	1	
	物理学 I A	1	2				必修	1	
	物理学 I B	1		2			必修	1	
	化学 I A	1	2				選択	1	
	化学 I B	1		2			選択	1	
	地学 I A	1	2				選択	1	
	地学 I B	1		2			選択	1	

数 物 科 学 類	微分積分学Ⅱ A	1		2		必修	1	必修のすべてと、選択から2単位以上を含む、14単位以上を修得すること。ただし、物理学系基礎プログラムにおいては、物理学実験を修得することが必要である。
	微分積分学Ⅱ B	1			2	必修	1	
	線形代数学Ⅱ A	1		2		必修	1	
	線形代数学Ⅱ B	1			2	必修	1	
	物理学Ⅱ A	1		2		必修	1	
	物理学Ⅱ B	1			2	必修	1	
	化学Ⅱ A	1		2		選択	1	
	化学Ⅱ B	1			2	選択	1	
	地学Ⅱ A	1		2		選択	1	
	地学Ⅱ B	1			2	選択	1	
	物理学実験	2	6			選択	2	
	化学実験	1			6	選択	2	

(2) 共通教育科目の履修

・課題研究の着手

3年後期末までに、共通教育科目に関し、卒業に必要な修得すべき単位数42単位以上のうち38単位以上を修得していなければ課題研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので、計画的に単位を修得してください。

(3) 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

数物科学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』に記載していますので、ここでは省略しますが、共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認してください。また、理科の教育職員免許状を取得するためには、以下の共通教育科目の履修が必要です。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応して開設している共通教育科目及び単位数		理科の教育職員免許状取得のための要件
	授業科目	単位数	
物理学	◎物理学Ⅰ A	1	2科目2単位以上
	◎物理学Ⅰ B	1	
	◎物理学Ⅱ A	1	
	◎物理学Ⅱ B	1	
物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験	化学実験	2	※
	生物学実験	2	※
	地学実験	2	※

注1 ◎印の科目は卒業に必要な必修科目のため、必ず修得しなければなりません。

注2 中学校1種免許状（理科）を取得する場合は、※印の化学実験、生物学実験及び地学実験の3科目全てを修得しなければなりません。高等学校1種免許状（理科）を取得する場合は、※印の化学実験、生物学実験、地学実験及び専門教育科目の物理実験1 A、物理実験1 Bの5科目から、4単位以上を修得しなければなりません。

(4) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

物 質 化 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	44単位以上	大学・社会生活論 1単位	28単位以上
			データサイエンス基礎 1単位	
			地域概論 1単位	
	GS科目(6群)		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。	
	GS言語科目		Practical English コース 4単位、 EAPコース 4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
	基礎科目		16単位以上	
初習言語科目				
専門教育科目	自由履修枠	2単位以下	共通教育科目又は専門教育科目から自由に選択	
	学域GS科目	80単位以上	学域俯瞰科目 4単位以上 ※アントレプレナーシップ論は必修	8単位以上
			データサイエンス応用系科目 2単位以上	
	学域GS言語科目		初学者科目 2単位	
	専門基礎科目		2単位 ※2単位を超える修得単位は、課題研究着手及び卒業に必要な単位数に算入しない。	
専門科目				
卒業に必要な単位数		126単位以上		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）の単位を指す。

注. 共通教育科目における基礎科目の履修方法は、理工学域規程別表第2のとおりとする。
課題研究着手に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第6のとおりとする。
卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第7のとおりとする。

* 自由履修枠の説明は10ページで確認。

注2. GS科目発展系科目群の修得単位は「専門教育科目」の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する。

* 学域GS科目には算入できないので注意すること。

理工学域規程別表第2（抜粋）

学類	授業科目	学年	毎週授業時間数				区分	単位数	修得要件
			前期		後期				
			第1 クォーター	第2 クォーター	第3 クォーター	第4 クォーター			
物質化学類	微分積分学 I A	1	2				必修	必修のすべてと、選択必修から2単位以上を含む、16単位以上を修得すること。	
	微分積分学 I B	1		2			必修		
	線形代数学 I A	1	2				必修		
	線形代数学 I B	1		2			必修		
	物理学 I A	1	2				必修		
	物理学 I B	1		2			必修		
	化学 I A	1	2				必修		
化学 I B	1		2			必修			

物質化学類	地学ⅠA	1	2			選択	1	必修のすべてと、選択必修から2単位以上を含む、16単位以上を修得すること。	
	地学ⅠB	1		2		選択	1		
	微分積分学ⅡA	1			2	選択必修	1		
	微分積分学ⅡB	1				2	選択必修		1
	線形代数学ⅡA	1			2		選択必修		1
	線形代数学ⅡB	1				2	選択必修		1
	物理学ⅡA	1			2		必修		1
	物理学ⅡB	1				2	必修		1
	化学ⅡA	1			2		必修		1
	化学ⅡB	1				2	必修		1
	地学ⅡA	1			2		選択		1
	地学ⅡB	1				2	選択		1
	物理学実験	2		6			選択必修		2
化学実験	1				6	必修	2		

(2) 共通教育科目の履修

① 必修（化学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、物理学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、化学実験、線形代数学ⅠA、ⅠB、微分積分学ⅠA、ⅠB）のすべてと、選択必修（線形代数学ⅡA、ⅡB、微分積分学ⅡA、ⅡB、物理学実験）2単位以上を含む16単位を履修すること。

② 課題研究の着手

3年後期末までに、共通教育科目に関し、卒業に必要な修得すべき単位数44単位以上を修得していなければ課題研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので、計画的に単位を修得してください。

(3) 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

物質化学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』に記載していますので、ここでは省略しますが、共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認してください。また、理科の教育職員免許状を取得するためには、以下の共通教育科目の履修が必要です。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応して開設している共通教育科目及び単位数		理科の教育職員免許状取得のための要件
	授業科目	単位数	
化学	◎化学ⅠA	1	2科目2単位以上
	◎化学ⅠB	1	
	◎化学ⅡA	1	
	◎化学ⅡB	1	
物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験	物理学実験	2	※※
	◎化学実験	2	※
	生物学実験	2	※※
	地学実験	2	※※

注1 ◎印の科目は卒業に必要な必修科目のため、必ず修得しなければなりません。

注2 中学校1種免許状（理科）を取得する場合は、*印の物理学実験、生物学実験及び地学実験の3科目すべてを修得しなければなりません。高等学校1種免許状（理科）を取得する場合は、※印の物理学実験、化学実験、生物学実験及び地学実験の4科目から、2科目4単位以上を修得しなければなりません。

(4) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

機 械 工 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	44単位以上	大学・社会生活論 1単位	28単位以上
			データサイエンス基礎 1単位	
			地域概論 1単位	
	GS科目(6群)		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。	
	GS言語科目		Practical English コース 4単位、 EAP コース 4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
基礎科目	16単位以上			
初習言語科目				
専門教育科目	学域GS科目	80単位以上	学域俯瞰科目 4単位以上 ※アントレプレナーシップ論は必修	8単位以上
			データサイエンス応用系科目 2単位以上	
			初學者科目 2単位	
	学域GS言語科目		2単位以上	
	専門基礎科目			
専門科目				
卒業に必要な単位数		124単位以上		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）の単位を指す。

注. 共通教育科目における基礎科目の履修方法は、理工学域規程別表第2のとおりとする。

卒業研究着手に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第6のとおりとする。

卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第7のとおりとする。

注2. GS科目発展系科目群の修得単位は「専門教育科目」の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する。

* 学域GS科目には算入できないので注意すること。

理工学域規程別表第2（抜粋）

学類	授業科目	学年	毎週授業時間数				区分	単位数	修得要件
			前期		後期				
			第1 クォーター	第2 クォーター	第3 クォーター	第4 クォーター			
機 械 工 学 類	微分積分学ⅠA	1	2				必修	1	必修のすべてと、選択から2単位以上を含む、16単位以上を修得すること。
	微分積分学ⅠB	1		2			必修	1	
	線形代数学ⅠA	1	2				必修	1	
	線形代数学ⅠB	1		2			必修	1	
	物理学ⅠA	1	2				必修	1	
	物理学ⅠB	1		2			必修	1	
	化学ⅠA	1	2				選択	1	
	化学ⅠB	1		2			選択	1	
	微分積分学ⅡA	1			2		必修	1	
	微分積分学ⅡB	1				2	必修	1	
	線形代数学ⅡA	1			2		必修	1	
	線形代数学ⅡB	1				2	必修	1	
物理学ⅡA	1			2		必修	1		

機械工学類	物理学ⅡB	1			2	必修	1	必修のすべてと、選択から2単位以上を含む、16単位以上を修得すること。
	化学ⅡA	1		2		選択	1	
	化学ⅡB	1			2	選択	1	
	物理学実験	2	6			必修	2	
	化学実験	2	6			選択	2	

(2) 共通教育科目の履修

・卒業研究の着手

3年次後期末までに、共通教育科目に関し、卒業に必要な修得すべき単位数44単位以上を修得していなければ卒業研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので、計画的に単位を修得してください。

(3) 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

機械工学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』に記載していますので、ここでは省略しますが、共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認してください。

(4) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

フロンティア工学類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件	
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論 1単位 データサイエンス基礎 1単位 地域概論 1単位	28単位以上
	GS科目(6群)	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位	
	GS言語科目	Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位	
	自由履修科目 ※	2単位以上	
	基礎科目	16単位以上	
	初習言語科目		
専門教育科目	学域GS科目	学域俯瞰科目 4単位以上 ※アントレプレナーシップ論は必修 データサイエンス応用系科目 2単位以上	8単位以上
	学域GS言語科目	初学者科目 2単位	
	専門基礎科目	2単位以上	
	専門科目		
卒業に必要な単位数		124単位以上	

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）の単位を指す。

- 注. 共通教育科目における基礎科目の履修方法は、理工学域規程別表第2のとおりとする。
卒業プロジェクト着手に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第6のとおりとする。
卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第7のとおりとする。
- 注2. GS科目発展系科目群の修得単位は「専門教育科目」の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する。
* 学域GS科目には算入できないので注意すること。

理工学域規程別表第2（抜粋）

学類	授業科目	学年	毎週授業時間数				区分	単位数	修得要件
			前期		後期				
			第1 クォーター	第2 クォーター	第3 クォーター	第4 クォーター			
フ ロ ン テ ィ ア 工 学 類	微分積分学ⅠA	1	2				必修	1	必修のすべてと、選択から4単位以上を含む、16単位以上を修得すること。
	微分積分学ⅠB	1		2			必修	1	
	線形代数学ⅠA	1	2				必修	1	
	線形代数学ⅠB	1		2			必修	1	
	物理学ⅠA	1	2				必修	1	
	物理学ⅠB	1		2			必修	1	
	化学ⅠA	1	2				選択	1	
	化学ⅠB	1		2			選択	1	
	微分積分学ⅡA	1			2		必修	1	
	微分積分学ⅡB	1				2	必修	1	
	線形代数学ⅡA	1			2		必修	1	
	線形代数学ⅡB	1				2	必修	1	
	物理学ⅡA	1			2		必修	1	
	物理学ⅡB	1				2	必修	1	
	化学ⅡA	1			2		選択	1	
	化学ⅡB	1				2	選択	1	
	物理学実験	2		6				選択	
化学実験	2		6				選択	2	

(2) 共通教育科目の履修

・卒業プロジェクトの着手

3年次後期末までに、共通教育科目に関し、卒業に必要な修得すべき単位数44単位以上を修得していなければ卒業プロジェクトに着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので、計画的に単位を修得してください。

(3) 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

フロンティア工学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』に記載していますので、ここでは省略しますが、共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認してください。

(4) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

電 子 情 報 通 信 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	44単位以上	大学・社会生活論 1単位	28単位以上
			データサイエンス基礎 1単位	
			地域概論 1単位	
	GS科目(6群)		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。	
	GS言語科目		Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
基礎科目	16単位以上			
初習言語科目				
専門教育科目	学域GS科目	80単位以上	学域俯瞰科目 4単位以上 ※アントレプレナーシップ論は必修	8単位以上
			データサイエンス応用系科目 2単位以上	
			初学者科目 2単位	
	学域GS言語科目		2単位以上	
	専門基礎科目			
専門科目				
卒業に必要な単位数		124単位以上		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）の単位を指す。

注. 共通教育科目における基礎科目の履修方法は、理工学域規程別表第2のとおりとする。

卒業研究着手に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第6のとおりとする。

卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第7のとおりとする。

注2. GS科目発展系科目群の修得単位は「専門教育科目」の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する。

* 学域GS科目には算入できないので注意すること。

理工学域規程別表第2（抜粋）

学類	授業科目	学年	毎週授業時間数				区分	単位数	修得要件
			前期		後期				
			第1 クォーター	第2 クォーター	第3 クォーター	第4 クォーター			
電子情報通信学類	微分積分学ⅠA	1	2				必修	1	必修のすべてと、選択から2単位以上を含む、16単位以上を修得すること。
	微分積分学ⅠB	1		2			必修	1	
	線形代数学ⅠA	1	2				必修	1	
	線形代数学ⅠB	1		2			必修	1	
	物理学ⅠA	1	2				必修	1	
	物理学ⅠB	1		2			必修	1	
	化学ⅠA	1	2				選択	1	
	化学ⅠB	1		2			選択	1	
	微分積分学ⅡA	1			2		必修	1	
	微分積分学ⅡB	1				2	必修	1	
	線形代数学ⅡA	1			2		必修	1	
	線形代数学ⅡB	1				2	必修	1	
物理学ⅡA	1			2		必修	1		

電子情報通信学類	物理学ⅡB	1			2	必修	1	必修のすべてと、選択から2単位以上を含む、16単位以上を修得すること。
	化学ⅡA	1		2		選択	1	
	化学ⅡB	1			2	選択	1	
	物理学実験	2	6			必修	2	
	化学実験	2	6			選択	2	

(2) 共通教育科目の履修

・卒業研究の着手

3年次後期までに、共通教育に関し、卒業に必要な修得すべき単位数44単位以上を修得していなければ卒業研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので、計画的に単位を修得してください。

(3) 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

電子情報通信学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』に記載していますので、ここでは省略しますが、共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認してください。

(4) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

地球社会基盤学類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	1単位	
		データサイエンス基礎	1単位	
		地域概論	1単位	
	GS科目(6群)	44単位以上	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位	28単位以上
	GS言語科目		Practical English コース 4単位、 EAP コース 4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
基礎科目		16単位以上		
初習言語科目				
専門教育科目	学域GS科目	学域俯瞰科目	4単位以上 ※アントレプレナーシップ論は必修	8単位以上
		データサイエンス応用系科目	2単位以上	
		初学者科目	2単位	
	学域GS言語科目		2単位以上	
専門基礎科目				
専門科目				
卒業に必要な単位数		124単位以上		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）の単位を指す。

- 注. 共通教育科目における基礎科目の履修方法は、理工学域規程別表第2のとおりとする。
 課題研究・卒業研究着手に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第6のとおりとする。
 卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第7のとおりとする。
- 注2. GS科目発展系科目群の修得単位は「専門教育科目」の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する。
 * 学域GS科目には算入できないので注意すること。

理工学域規程別表第2 (抜粋)

学類	授業科目	学年	毎週授業時間数				区分	単位数	修得要件
			前期		後期				
			第1 クォーター	第2 クォーター	第3 クォーター	第4 クォーター			
地球 社会 基盤 学類	微分積分学ⅠA	1	2				必修	1	必修のすべてと、選択必修から2単位以上を含む、16単位以上を修得すること。
	微分積分学ⅠB	1		2			必修	1	
	線形代数学ⅠA	1	2				必修	1	
	線形代数学ⅠB	1		2			必修	1	
	物理学ⅠA	1	2				必修	1	
	物理学ⅠB	1		2			必修	1	
	化学ⅠA	1	2				必修	1	
	化学ⅠB	1		2			必修	1	
	地学ⅠA	1	2				必修	1	
	地学ⅠB	1		2			必修	1	
	微分積分学ⅡA	1			2		選択	1	
	微分積分学ⅡB	1				2	選択	1	
	線形代数学ⅡA	1			2		選択	1	
	線形代数学ⅡB	1				2	選択	1	
	物理学ⅡA	1			2		選択	1	
	物理学ⅡB	1				2	選択	1	
	化学ⅡA	1			2		選択	1	
	化学ⅡB	1				2	選択	1	
	地学ⅡA	1			2		選択	1	
	地学ⅡB	1				2	選択	1	
物理学実験	1				6	選択必修	2		
化学実験	1				6	選択必修	2		

(2) 共通教育科目の履修

① 導入科目

初年度は学類指定の「大学・社会生活論」、「データサイエンス基礎」、「地域概論」を必ず修得してください。

② 課題研究又は卒業研究の着手

3年後期末までに、共通教育科目に関し、卒業に必要な修得すべき単位数44単位以上を修得していなければ課題研究又は卒業研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので、計画的に単位を修得してください。

(3) 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

地球社会基盤学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』に記載していますので、ここでは省略しますが、共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認してください。また、理科の教育職員免許状を取得するためには、以下の共通教育科目の履修が必要です。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応して開設している 共通教育科目及び単位数		理科の教育職員免許 状取得のための要件
	授業科目	単位数	
物理学実験、化学実験、 生物学実験、地学実験	○物理学実験	2	
	○化学実験	2	
	生物学実験	2	

注1 ○印の科目は卒業に必要な選択必修科目のため、1科目以上必ず修得しなければなりません。

注2 中学校1種免許状（理科）を取得する場合は、物理学実験、化学実験及び生物学実験のすべての科目を修得しなければなりません。高等学校1種免許状（理科）を取得する場合は、物理学実験、化学実験又は、生物学実験から1科目2単位以上修得する必要があります。

(4) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目（日本語）で確認してください。

生 命 理 工 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件			
共通 教育 科目	導 入 科 目	大学・社会生活論 1単位	28単位 以 上		
		データサイエンス基礎 1単位			
		地域概論 1単位			
	GS科目(6群)	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。		計15単位	
		GS言語科目			Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位
		自由履修科目 ※			2単位以上
基 礎 科 目	8単位以上				
初習言語科目					
専門 教育 科目	学域GS科目	学域俯瞰科目 4単位以上 ※アントレプレナーシップ論は必修	8単位 以 上		
		データサイエンス応用系科目 2単位以上			
		初学者科目 2単位			
	学域GS言語科目	2単位以上			
専門基礎科目					
専 門 科 目					
卒業に必要な単位数		124単位以上			

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く。）の単位を指す。

注. 共通教育科目における基礎科目の履修方法は、理工学域規程別表第2のとおりとする。

課題研究着手に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第6のとおりとする。

卒業に必要な単位数等及び単位修得に関する要件は、理工学域規程別表第7のとおりとする。

注2. GS科目発展系科目群の修得単位は「専門教育科目」の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する。

* 学域GS科目には算入できないので注意すること。

理工学域規程別表第 2

学類	授業科目	学年	毎週授業時間数				区分	単位数	修得要件
			前期		後期				
			第1 クォーター	第2 クォーター	第3 クォーター	第4 クォーター			
生命理工学類	微分積分学ⅠA	1	2				選択必修	1	選択必修から8単位以上を修得すること。
	微分積分学ⅠB	1		2			選択必修	1	
	線形代数学ⅠA	1	2				選択必修	1	
	線形代数学ⅠB	1		2			選択必修	1	
	物理学ⅠA	1	2				選択必修	1	
	物理学ⅠB	1		2			選択必修	1	
	化学ⅠA	1	2				選択必修	1	
	化学ⅠB	1		2			選択必修	1	
	化学ⅡA	1			2		選択必修	1	
化学ⅡB	1				2	選択必修	1		

(2) 共通教育科目の履修

① 導入科目

初年度は生命理工学類指定の「大学・社会生活論」、「データサイエンス基礎」、「地域概論」を必ず修得してください。また、本学類学生はGS科目「2E 細胞・分子生物学」を履修する事を望みます。

② 課題研究の着手

3年次後期末までに、共通教育科目に関し、卒業に必要な修得すべき単位数36単位以上を修得していなければ課題研究に着手できません。高学年になるほど共通教育科目を履修する時間帯が制限されますので、計画的に単位を修得してください。

(3) 教育職員免許状

教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

生命理工学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法は、『理工学域履修案内』に記載していますので、ここでは省略しますが、共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認してください。また、理科の教育職員免許状を取得するためには、以下の共通教育科目の履修が必要です。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応して開設している共通教育科目及び単位数		理科の教育職員免許状取得のための要件
	授業科目	単位数	
物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験	物理学実験	2	
	化学実験	2	
	地学実験	2	

注. 中学校1種免許状(理科)を取得する場合は、物理学実験、化学実験、及び地学実験のすべての科目を修得しなければなりません。高等学校1種免許状(理科)を取得する場合は、物理学実験、化学実験、地学実験から1科目2単位以上修得するか、または生命理工学類の専門教育科目の必要科目を修得しなければなりません。

(4) 外国人留学生の言語科目は、GS言語科目(日本語)で確認してください。

医 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	1単位	
		データサイエンス基礎	1単位	
		地域概論	1単位	
	GS科目(6群)	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。		28単位以上
		GS言語科目	Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位	
	自由履修科目 ※ ¹	2単位以上		
基礎科目	14単位			
初習言語科目				
専門教育科目	学域GS科目	6科目6単位		
	学域GS言語科目	2科目4単位		
	学類専門基礎科目	医学入門	0.5単位	
		早期医療体験	1.2単位	
学類専門科目 ※ ²	プロフェッショナルリズム	0.8単位		
	社会科学・行動科学	1単位		
卒業に必要な単位数		274.5単位以上		

※¹ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目（導入科目及びGS言語科目を除く）の単位を指します。

※² 学類専門科目は基礎医学、臨床医学基礎、臨床実習、総括講義、医学研究特設プログラムを含む。

注. 学域GS科目におけるGS科目発展系科目群の修得単位は、卒業に必要な単位数に算入できない。

(2) 共通教育科目の履修

① 導入科目

医学類指定の「大学・社会生活論」1単位、「データサイエンス基礎」1単位、「地域概論」1単位を必ず修得してください。

② 基礎科目は、数学(微分積分学ⅠA、ⅠB、線形代数学ⅠA、ⅠB、統計数学A、B)を6単位、物理学(物理学ⅠA、ⅠB、物理学ⅡA、ⅡB)を4単位、化学(化学ⅠA、ⅠB、化学ⅡA、ⅡB)を4単位の計14単位以上を修得してください。

③ GS言語科目は全て英語になります。

英語以外の言語科目は、自由履修科目とします。

外国人留学生の言語科目は、GS言語科目(日本語)で確認してください。

④ 共通教育科目の履修期間

医学類専門教育科目は、医学研究特設プログラムを除いて全科目が必修であるため、共通教育科目の42単位は、1年次でほぼ修得し終えることを強く望みます。

2年次で共通教育科目を履修できるのは、水曜日の午前のみです。

2年次終了までに、共通教育科目は42単位を修得しなければ、3年次の講義・実習を履修することができません。

詳細は、入学時に配付の「医学類履修・学生生活の手引」の「医薬保健学域医学類進級内規」で確認してください。

薬 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目		大学・社会生活論 1単位	
			データサイエンス基礎 1単位	
			地域概論 1単位	
	GS科目(6群)	32単位以上		1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。 計15単位
				28単位以上
				Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位
				2単位以上
GS言語科目				
自由履修科目 ※				
基礎科目		微分積分学 I A、I B (2単位)、統計数学A、B (2単位)、合計4単位		
初習言語科目				
専門教育科目	学域GS科目		医薬保健学基礎 I・II (2単位)、 アカデミックスキル (1単位)、 プレゼン・ディベート論 (1単位)、 データサイエンス系応用科目 (2単位)	
	学域GS言語科目		2科目2単位	
	専門基礎科目		4単位	
	専門科目		152単位以上	
卒業に必要な単位数		196単位以上		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)の単位を指します。

注. 学域GS科目におけるGS科目発展系科目群の修得単位は、卒業に必要な単位数に算入できない。

(2) 共通教育科目の履修

次の事項に留意して履修してください。

- ① 導入科目は、薬学類指定の科目を必ず修得してください。
- ② (1) 単位修得要件をよく理解した上で、必要な単位をもれなく修得してください。不明な点がある場合にはアドバイス教員に相談してください。なお、外国人留学生の言語科目は、GS言語科目(日本語)で確認してください。
- ③ 共通教育科目の32単位は1年次でほぼ修得し終えることを望みます。2年次以降は、専門教育科目の履修を主としていますので、共通教育科目を履修できる時間は限られてきます。
- ④ その他共通教育科目の履修は、薬学類シラバスにも記載していますのでよく読んで理解してください。
- ⑤ GS科目「6A インテグレート科学(化学の世界)」及び「2E 細胞・分子生物学」の履修を強く推奨し、「5B 統計学から未来を見る」の履修を推奨します。

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	1単位	
		データサイエンス基礎	1単位	
		地域概論	1単位	
	GS科目(6群)	32単位以上	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。	28単位以上
	GS言語科目		Practical English コース 4単位、 EAP コース 4単位	
	自由履修科目 ※		2単位以上	
	基礎科目		微分積分学 I A、I B (2単位)、統計数学 A、B (2単位)	合計 4単位
初習言語科目				
専門教育科目	学域GS科目		医薬保健学基礎 I、II (2単位)、 アカデミックスキル (1単位)、 プレゼン・ディベート論 (1単位)、 データサイエンス系応用科目 (2単位)	
	学域GS言語科目		医薬科学英語 I、II (2単位)	
	専門基礎科目		10単位	
	専門共通科目		21単位	
	コース専門科目	98単位以上	必修科目34単位、選択科目15単位以上 【生命医科学コース】 選択科目15単位以上のうち、創薬科学コースにおいて必修とするコース専門科目(授業形態：講義) 2単位以上を、選択必修とする。 【創薬科学コース】 選択科目15単位以上のうち、生命医科学コースにおいて必修とするコース専門科目(授業形態：講義) 2単位以上を、選択必修とする。 ※選択科目のうち、所属コース以外のコース専門科目(授業形態：講義)は、選択必修とする2単位以上を含め4単位までを卒業に必要なコース専門科目の単位に含めることができる。	
課題研究科目		10単位		
卒業に必要な単位数		130単位以上		

※ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)の単位を指します。

注. 学域GS科目におけるGS科目発展系科目群の修得単位は、卒業に必要な単位数に算入できない。

(2) 共通教育科目の履修

- ①外国人留学生の言語科目は、GS言語科目(日本語)で確認してください。
- ②共通教育科目の32単位は1年次でほぼ修得し終えることを望みます。2年次以降は、専門教育科目の履修を主としていますので、共通教育科目を履修できる時間は限られてきます。
- ③GS科目「2E細胞・分子生物学」の履修を強く推奨し、「6A インテグレートド科学(化学の世界)」の履修を推奨します。

保 健 学 類

(1) 単位修得要件

共通教育科目の開講科目等は、金沢大学共通教育科目に関する規程の定めるところによる。

区 分		修得すべき単位数及び条件		
共通教育科目	導入科目	大学・社会生活論	1単位	
		データサイエンス基礎	1単位	
		地域概論	1単位	
	GS科目(6群)	30~36 単 位 以 上	1群から5群の各群から2単位を含む12単位 6群から3単位 ※単一の群で3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。	28単位 以 上
	GS言語科目		Practical Englishコース4単位、 EAPコース4単位	
	自由履修科目 ※ ¹		2単位以上	
	基礎科目		看護、理学、作業 2単位以上 放射 8単位以上 検査 6単位以上	
初習言語科目				
専門教育科目	学域GS科目 ※ ²		5~6科目6単位以上	
	学域GS言語科目		2科目2単位	
	専門基礎科目	101~108 単 位 以 上	看護 15単位 放射 7単位 検査 15単位 理学、作業 12単位	
	専門科目		看護 83単位以上 放射 86単位以上 検査、理学、作業 85単位以上	
卒業に必要な単位数		135~142単位以上		

看護(看護学専攻)、放射(診療放射線技術学専攻)、検査(検査技術科学専攻)、理学(理学療法学専攻)、作業(作業療法学専攻)

※¹ 共通教育科目における自由履修科目は、GS科目、基礎科目及び初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した単位、並びにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)の単位を指します。

※² GS科目発展系科目群の修得単位を算入できます。

(2) 共通教育科目の履修

① 導入科目

保健学類指定の「大学・社会生活論」及び「データサイエンス基礎」、「地域概論」を必ず修得してください。

② GS科目

単位修得要件に従って、1群から5群の各群から2単位を含む12単位、6群から3単位の計15単位を修得してください。

③ GS言語科目

単位修得要件に従って、Practical Englishコース4単位、EAPコース4単位を修得してください。

外国人留学生の言語科目は、GS言語科目(日本語)で確認してください。

④ 養護教諭二種免許状(看護学専攻)

保健師免許を有する者が、養護教諭二種免許状を申請する場合、教育職員免許法及び同施行規則に定められた単位を修得しておかなければなりません。必要な共通教育科目は「20. 教育職員免許状」で確認し、可能な限り1年次で修得してください。

17. 基幹教育特設プログラム

(1) 「基幹教育特設プログラム」とは

「基幹教育特設プログラム」は、金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) に基づいて「金沢大学ブランド人材」を育成するプログラムです。目的意識を持って共通教育科目及び専門教育科目を履修することにより、学域・学類の目指す人材養成像よりも的を絞ったテーマについて学修することができます。

(2) 「基幹教育特設プログラム」の概要

「基幹教育特設プログラム」として「総合地域論」のプログラムを用意しています。修了に必要な単位を修得又は修得見込みの上で申請すれば、学位記とは別に修了認定証を授与します。「修了認定証」は、自ら学修成果を確認できるとともに、就職活動に活用することもできます。

(3) プログラムの修了要件と卒業に必要な単位

プログラムに算入できる授業科目の単位は、プログラムの修了要件の充足とともに、卒業のための単位修得要件の充足にも用いることができます。

(4) 「修了認定証」交付の申請

6月・12月下旬に申請方法・期間を掲示等で通知するので、「基幹教育特設プログラム修了認定申請書」を、基幹教育学務係に提出してください。

(5) プログラム「総合地域論」の概要・学修目標・修了要件等

【概要】

「総合地域論」は、金沢大学<グローバル>スタンダードに基づいたプログラムであり、「地域の感性」を育成し、「知識と社会」を結びつけ、自らの力で地域課題を見だし、地域の未来を切り開くことができる行動力ある人材の育成を目指しています。

【学修目標】

基幹教育特設プログラム「総合地域論」を受講する学生の学修目標は、次のとおりです。

- ・高い関心と意欲を持って、地域・社会・生活について学べること
- ・自己の使命を感じ、地域での体験に主体的に取り組めること
- ・自分の価値観を相対化し、地域という立場から思考・判断できること
- ・大学での学修を活かして地域課題を発見し、その課題解決を通じて地域に貢献できること
- ・すなわち、金沢大学<グローバル>スタンダードの精神を持って、地域の課題に取り組めること

【修了要件】

「総合地域論」は、共通教育科目と学域・学類科目の専門教育科目から構成しており、修了要件を定めています。

- ・A群は大学での学修と地域との関係を理解する必修の導入科目「地域概論」を修得
- ・B群は地域とのつながりを理解する選択必修の共通教育GS科目から2単位以上を修得
- ・C群は共通教育領域から広く地域を学ぶ地域志向科目で、自由履修科目を活用した選択必修科目から2単位以上を修得
- ・D群は学域学類領域から専門的に地域を学ぶ地域志向科目で、学域GS科目などの科目で構成され、3単位以上を修得

表中のA、B、C、D群から修了要件内訳に従って科目を選択・履修し、合計12単位以上を修得してください。

「総合地域論」修了要件

区分		科目名	単位数	修了要件 内訳	修了要件 合計単位数	科目区分	備考		
必修	A群	地域概論	1	1単位	12単位 以上	導入科目			
選択	B群	4 A 地域社会と文化人類学	1	2単位 以上		共通教育科目	GS科目		
		4 E グローバル時代の国際協力	1						
		4 F グローバル社会と地域の課題	1						
		5 D 環境学とESD	1						
		5 E 生活と社会保障	1						
		5 F 現代社会と人権	1						
選択	C群	未来デザインプラクティス	1	2単位 以上			自由履修科目		
		ゼミ/角間の里山づくり 春編	1						
		ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1						
		金沢の歴史と文化	2					シティカレッジ	
		石川県の行政	2					シティカレッジ	
		石川県の市町	2					シティカレッジ	
選択	D群	イノベーション基礎	1	3単位 以上			専門教育科目	融合学域	
		数理・データサイエンス基礎及び演習	2						
		SDGs基礎	1						
		SDGs実践	1						
		現代社会を知る	1						
		AIと未来社会	1						
		創業支援論	1						
		地域包括ケアと地方創生	1						
		地域政策論	1						
		未来型ヘルスケアシステム	1						
		北陸観光産業論	1						
		日本の工芸とデザイン	1						
		交流ネットワーク工学	1						
		北陸の都市・農村・文化	1						
		観光地域ビジネス論	1						
		比較地域発展論	1						
		北陸地域創生と社会学	1						
		北陸技術経営論	1						
		AIと未来の社会学	1						
		古代文明論	1						
		北陸の考古学	1						
		地理学概論A	2						
		地域創造学I	1						
		自然環境と社会	2						
イスラーム社会と文化	1								
地域計画論	1								
経済地理学	2								
						人文学類			
						地域創造学類			

選択	D群	機械工作実習	1	3単位以上	12単位以上	専門教育科目	機械工学類	
		エネルギー変換工学A	1					
		エネルギー変換工学B	1					
		エネルギー・環境工学A	1					
		エネルギー・環境工学B	1					
		企業開放講義	1					
		医薬保健学基礎Ⅰ（共通）	1				保健学類	
		医薬保健学基礎Ⅱ（共通）	1					
		保健医療福祉概論（看護）	1					自専攻の学生のみ
		公衆衛生学（検査）	2					自専攻の学生のみ
		障害者環境論（理学）	1					自専攻の学生のみ
		地域リハビリテーション論（理学）	1					自専攻の学生のみ
		社会貢献論演習（理学）	2					自専攻の学生のみ
		地域作業療法学（作業）	1					自専攻の学生のみ
社会関連活動学（理学・作業）	2	自専攻の学生のみ						

18. 先導STEAM人材育成プログラム（KU-STEAM）

(1) 先導STEAM人材育成プログラム（KU-STEAM）とは

先導STEAM人材育成プログラムは、全学域学生対象の文理融合教育を実践する特別プログラムです。自身の専門分野に軸足を置きながら、積極的に他分野の知見を深め、異分野・異文化協働を実践することによって、未来課題の解決に挑戦する、先導STEAM人材の育成を目的とします。

※「先導STEAM人材」とは…Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）といった理数系を学修する「STEM教育」にArt（アート、デザイン、リベラルアーツ）の創造的要素を加え、各領域での学修を実社会の課題解決に活かせる、俯瞰力と実践力を身につけた人材

【学修目標（5つのコンピテンシー）】



(2) プログラムの修了要件と卒業に必要な単位

プログラムを構成する授業科目は、プログラム独自の科目に加え共通教育科目及び専門教育科目から構成（融合学域を除く。）しており、構成科目の単位を修得することで、プログラムの修了要件の充足とともに、卒業のために必要な単位修得要件の充足にも用いることができます。

本プログラムは融合学域先導学類の教育リソースを活用した特別プログラムです。融合学域の学生も履修可能です。融合学域学生の修了要件は「融合学域学生ハンドブック」を参照してください。

区分	科目名	単位数	備考
プログラム導入科目 (融合先導知概論)	「地域概論」	1	共通教育導入科目
	「インテグレート科学」	3	共通教育GS科目6群*
	「AI入門」		
	「情報の科学」		
	「デザイン思考入門」		
「論理学と数学の基礎」			
データリテラシー科目	「データサイエンス基礎」	1	共通教育導入科目
	「アカデミックスキル」	1	学域GS科目
	学域GS科目	2	データサイエンス応用系科目
	融合学域先導学類開講科目		プログラムが指定する科目
ヒューマンリテラシー 科目**	融合学域先導学類開講科目	10	プログラムが指定する科目
	学域専門教育科目		副専攻科目からプログラムが指定する科目
	学域GS科目		プログラムが指定する科目
	共通教育GS科目		1群から5群のうちプログラムが指定する科目
科学技術リテラシー 科目**	共通教育自由履修科目	10	プログラムが指定する科目
	GS科目発展系科目群(専門教育科目)		プログラムが指定する科目
	「融合先導知実践演習A」		教学マネジメントセンターが提供する共通教育自由履修科目
	「融合先導知実践演習B・C」		教学マネジメントセンターが提供するGS科目発展系科目群
協働実践科目	インターンシップ・海外留学科目 「実践インターンシップ」	2	所属学域専門教育科目 教学マネジメントセンターが提供するGS科目発展系科目群

* 共通教育GS科目6群を構成する5科目(各1単位)から3科目を選択履修する。

** 人間社会学域学生は科学技術リテラシー科目を、理工・医薬保健学域学生はヒューマンリテラシー科目を履修する。

金沢大学 Web サイト トップ → 「教育・学生支援・学生活動」 → 「授業・履修」 → 「特長のある教育プログラム」 → 「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」

URL : <https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

プログラムの達成状況は学務情報サービスが可視化し、ブロンズ・シルバー・ゴールド・プラチナの各要件を満たした際には「修了証」がダウンロード可能です。「アカンサスポータル」 → 「学務情報サービス」 → 「ポートフォリオ」 → 「アワード」で確認してください。

※ 1年次に総合教育部に所属の学生については、2年次の学類移行後にアワードシステムに反映します。

19. データサイエンス特別プログラム

「数理・データサイエンス・AI」は、もはや特別な知識ではなく、日常の生活、仕事等の場においてそれらを「使いこなすこと」が当たり前の世界が既に到来しています。本プログラムを修了することで、このことを理解し、実際に、数理・データサイエンス・AIの恩恵を享受するための、基礎能力を身に付けることができます。

プログラムの達成状況は学務情報サービスが可視化し、ブロンズ・シルバー・ゴールド・プラチナの各要件を満たした際には「修了証」がダウンロード可能です。「アカンサスポータル」 → 「学務情報サービス」 → 「ポートフォリオ」 → 「アワード」で確認してください。

金沢大学 Web サイト トップ → 「教育・学生支援・学生活動」 → 「授業・履修」 → 「特長のある教育プログラム」 → 「データサイエンス特別プログラム」

URL : <https://note.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/239>



20. 教育職員免許状

教育職員免許状取得希望者は、教育職員免許法および同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。

共通教育科目で、所属や免許種別等に関係なく修得しなければならないものは、「日本国憲法概説 2 単位」、「保健体育関連科目から 2 単位」、「外国語コミュニケーション関連科目から 2 単位」、「データサイエンス基礎 1 単位」、「情報の科学 1 単位」の計 8 単位です。授業科目の詳細は、次の表で確認してください。

なお、放送大学で修得した「グローバル化時代の日本国憲法」の単位も、教員免許取得に必要な単位に充てることができます。詳細は基幹教育学務係で確認してください。

専門教育科目、教職関係科目で単位修得が必要な科目もありますが、要件等が所属や免許種別等によって異なるので、所属学類からの印刷物を熟読し、その指示に従ってください。

教育職員免許法施行規則に定める科目および単位数（令和 6（2024）年度入学者から適用）

教育職員免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応して開設している共通教育科目及び単位数		備 考
科 目	単位数	授業科目名	単位数	
日 本 国 憲 法	2	日本国憲法概説	2	必修
体 育	2	エクササイズ&スポーツ 実技	1	「エクササイズ&スポーツ実技」から 1 単位以上含む 2 単位以上選択必修。 なお、「エクササイズ&スポーツ 実技」0.5 単位の科目を 2 科目以上履修し、1 単位以上修得したとみなすことも可。
		スポーツ科学/メンタルトレーニング I	1	
		スポーツ科学/身体運動心理学 I	1	
		スポーツ科学/身体運動心理学 II	1	
		スポーツ科学/健康教育入門 I	1	
		スポーツ科学/健康教育入門 II	1	
		スポーツ科学/スポーツ健康科学入門 I	1	
		スポーツ科学/スポーツ健康科学入門 II	1	
		スポーツ科学/スポーツ生理学入門 I	1	
		スポーツ科学/スポーツ生理学入門 II	1	
		スポーツ科学/身体運動の神経制御 I	1	
		スポーツ科学/身体運動の神経制御 II	1	
		スポーツ科学/スポーツ栄養学	1	
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	Practical English I	1	A 群
		Practical English II	1	
		Practical English III	1	
		Practical English IV	1	
		English for Academic Purposes (EAP) I	1	B 群
		English for Academic Purposes (EAP) II	1	
		English for Academic Purposes (EAP) III	1	
		English for Academic Purposes (EAP) IV	1	
		ドイツ語基礎 1	1	
		ドイツ語基礎 2	1	
		ドイツ語実践基礎 1	1	
		ドイツ語実践基礎 2	1	
		ドイツ語基礎 3	1	
		ドイツ語基礎 4	1	
		ドイツ語実践基礎 3	1	
		ドイツ語実践基礎 4	1	
		ドイツ語展開 I	1	
		ドイツ語展開 II	1	
		フランス語基礎 1	1	
		フランス語基礎 2	1	
フランス語実践基礎 1	1			
フランス語実践基礎 2	1			
フランス語基礎 3	1			
フランス語基礎 4	1			

外国語コミュニケーション	2	フランス語実践基礎 3	1	B群
		フランス語実践基礎 4	1	
		フランス語展開 I	1	
		フランス語展開 II	1	
		ロシア語基礎 1	1	
		ロシア語基礎 2	1	
		ロシア語実践基礎 1	1	
		ロシア語実践基礎 2	1	
		ロシア語基礎 3	1	
		ロシア語基礎 4	1	
		ロシア語実践基礎 3	1	
		ロシア語実践基礎 4	1	
		ロシア語展開 I	1	
		ロシア語展開 II	1	
		中国語基礎 1	1	
		中国語基礎 2	1	
		中国語実践基礎 1	1	
		中国語実践基礎 2	1	
		中国語基礎 3	1	
		中国語基礎 4	1	
		中国語実践基礎 3	1	
		中国語実践基礎 4	1	
		中国語展開 I	1	
		中国語展開 II	1	
		朝鮮語基礎 1	1	
		朝鮮語基礎 2	1	
		朝鮮語実践基礎 1	1	
		朝鮮語実践基礎 2	1	
朝鮮語基礎 3	1			
朝鮮語基礎 4	1			
朝鮮語実践基礎 3	1			
朝鮮語実践基礎 4	1			
朝鮮語展開 I	1			
朝鮮語展開 II	1			
情報機器の操作	2	データサイエンス基礎	1	必修
		情報の科学	1	

※数理、データ活用及び人工知能に関する科目については、開講していません。

21. 成績評価（単位認定）

成績評価は、試験、授業参加状況、小テスト、レポート提出などにより判定します。各授業科目がどのような成績評価を行うかは、シラバスに明記しています。

(1) 試験の注意事項

成績評価の方法で最も多いのが試験です。試験を受ける際は、各担当教員の指示に従うほか、次の事項に注意してください。

- ・学生証の提示を求めることがあります。
- ・試験開始後30分間は退室を認めません。また、20分以上の遅刻者は受験を認めません。
- ・出席日数が授業時間数の3分の2に達していない場合は、受験資格が認められません。

- ・ 不正行為があった場合は、懲戒処分を科したうえ、当該学期（各学期又は各クォーター）の履修許可科目の単位をすべて無効とします。あらかじめ許可された場合を除き、携帯電話やスマートフォン、腕時計型端末、電子辞書、ICレコーダー、電卓等の電子機器類を所持することも不正行為としますので、注意してください。また、レポートにおける剽窃・盗用も上記の不正行為に該当します。特にWebサイトを利用してレポートを書く場合等に、出所を明記せずにその記事などをコピーして自分の文章として提出すると、剽窃・盗用と見なすことがあるので、注意してください。なお、生成AIを利用するだけで、課題レポートや学位論文を自ら考案しないで作成することは同様に不正行為となり得ます。生成AIの利用について、個別の授業で教員からの指示がある場合には、それに従ってください。
- ・ 不正行為と紛らわしい行為があった場合には、当該試験を途中で中断させて事情聴取を行うことがあります。これによる不利益は自己の責任であり、救済措置は講じません。
- ・ 試験答案を返却し、後日それを回収する場合は、答案を消して書き直すことは絶対にしてはいけません。元の答案を消した場合には、答案改竄という不正行為と見なします。
- ・ 病気や突発事故などの理由により定期試験が受けられない場合、すみやかに基幹教育学務係に申し出てください。申し出の内容により、追試験などの救済措置を行う場合があります。申し出の際には、診断書や遅延証明書などの第三者が発行した証明書が必要です。

ただし、必ず救済措置を受けられるというものではありません。健康管理に十分気を付け、いつもより早めに試験室に到着するようにしてください。

- 申請期間 試験当日、又はその翌日に申し出てください。
やむを得ない場合に限り、標準学年暦の試験期間の間も受付けます（試験が試験期間最終日の場合はその翌日まで）。
- 共通教育科目において救済措置が認められる場合がある事例

理 由	必要な証明書類
病気、けが	医師が作成した診断書（欠席がいつまで必要かが明記されていること。）
電車、バスの遅延	交通機関が発行する遅延証明書
二親等以内の親族の葬儀出席	会葬礼状等（移動に要した日を付記すること。）
災害	被災証明書

- 課外活動（大会参加、合宿等を含む）、自家用車・バイク・タクシー等による通学時の交通渋滞、自動車の故障、アルバイト、自動車学校の修了試験、就職活動など個人的な都合によるものは認めません。また、教員からの指示の聞き漏らしや個人的な不注意も理由になりません。
中間試験などの試験もこれに準じますが、科目担当教員や基幹教育学務係に相談してください。

(2) 単位保留制度

- ① 学修未達成の者に対し、担当教員が当該学期の成績を「**保留**」と評価することがあります。これを「単位保留制度」といいます。「保留」と評価した場合には、授業担当教員が課題等を指示し、その達成度によって次のクォーター以降に再度成績評価をおこないます。
- ② 単位保留制度を適用する授業科目は以下のとおりです。それぞれに保留のルール等の詳細が異なりますので、それぞれの説明を熟読してください。
 - ・ 「大学・社会生活論」、「データサイエンス基礎」、「地域概論」（22ページで確認）
 - ・ Practical English コース（33ページ～で確認）
 - ・ 基礎科目（44ページで確認）

(3) 成績の通知

① 成績通知

成績の通知は、掲示等で指示する日時にWebで公開します。アカンサスポータルから「学務情報サービス」→「履修・成績情報」→「成績参照」の順に進んでください。

② 成績通知上の評語

- ・単位を認定する場合（合格）の成績は、通常**S・A・B・Cの4段階**の評語で評価します。
- ・単位を認定しない場合（不合格）の成績評語には、**不可・保留・放棄**があります。
- ・一部の授業科目（導入科目など）では、上記とは別に**合・否**で成績評価をおこないます。
- ・入学前の既修得単位の認定や外部試験による単位認定、もしくは一部の海外短期留学をおこなう授業科目、および放送大学の授業科目などでは、**認定・不可**（既修得単位の認定や外部試験の単位認定には不可はない）という評語を使います。ただし、入学前の既修得単位の認定では、過去に本学にて修得した単位について、S・A・B・Cとすることがあります。また、外部試験であっても申請によりSで認定する場合があります。

③ 注意事項

- ・保留と評価した場合には、授業担当教員が課す課題等をおこなって、再度成績評価を受けますので、保留となった場合は必ず担当教員に連絡してその指示を受けてください。この場合は、**保留となった授業科目は履修が継続している扱いとなるため、履修登録の必要はありません。**
- ・保留となった授業科目の再度の単位認定結果は、次回以降の成績通知の際に通知します。学期途中で成績を通知することはありません。
- ・成績通知前に、教員に成績を尋ねてはいけません。

(4) 成績評価にかかる疑義申し出

成績を見て、評価に不審な点がある場合は、該当の科目の担当教員に直接申し出てください。担当教員から説明を受けてもなお、疑義が残る場合は、基幹教育学務係が掲示する内容をよく読んで、指定した期間内に申請してください。

(5) GPA制度

本学では、GPA制度（グレード・ポイント・アベレージ制度）を導入しています。これは、**成績評価を数値化したGP（グレード・ポイント）の平均値（GPA）**を算出して、学生指導や履修登録上限の緩和・進路決定（早期卒業・飛び入学・研究室配属等）などに反映する制度です。制度の詳細は、学類によって異なりますので、各学類のシラバスや履修の手引きなどで確認してください。

GPの数値とGPAの計算方法は以下のとおりです。

GP : S = 4点、A = 3点、B = 2点、C = 1点、不可・保留・放棄 = 0点

GPA : (4 × Sの合計単位数 + 3 × Aの合計単位数 + 2 × Bの合計単位数 + 1 × Cの合計単位数) ÷ 履修したGPA対象科目の総単位数

なお、成績評価が合・否もしくは認定・不可で示す授業科目はGPAの対象になりません。このほかに、学類によってGPAの対象外となる授業科目を指定していますので、各学類のシラバスや履修の手引き等で確認してください。

(6) 卒業に必要な英語力

本学では、原則として、在学中の英語外部検定試験の複数回受験、および学類ごとに指定された所定のスコア取得を卒業要件として義務付けています。1回目は1年次第4クォーターにおいて、本学が実施するTOEIC-IPテストを受験します。2回目の英語検定試験では、専門教育科目の必修科目の単位認定要件としてTOEIC等の英語外部検定試験を受験して、そのスコアを提出することが必要です。詳細は、各学類の履修の手引き等で確認してください。

22. 入学前の既修得単位の認定

本学入学前に大学・短大等で修得した単位は、所定の時期に審査を受けて認めた場合に限り、本学入学後の修得単位として認定します。

この審査を受けたい者は、4月5日（金）までに基幹教育学務係に詳細を尋ねたうえ、4月12日（金）までに所定の申請書を所属学類の学務係に提出し、指示を受けてください。

23. 授業評価アンケート

クォーター末に「授業評価アンケート」を実施します。詳細はアカンサスポータル等で通知します。

24. 「いしかわシティカレッジ」の授業科目の履修

本学では、いしかわシティカレッジ事業に参加する他大学等との単位互換制度により、他大学等の授業科目を履修し修得した単位は、本学が定める条件下で卒業要件単位に算入できます。ただし、履修途中の休学、退学、卒業および除籍の場合は単位認定しません。

(1) 履修できる授業科目

Webシラバス及び『シティカレッジ受講生募集ガイド』（基幹教育学務係およびラーニングコモンズに置いてある）のとおりです。

(2) 履修登録の制限

いしかわシティカレッジ（しいのき迎賓館または石川四高記念文化交流館で開講）において履修する科目の単位数は、履修登録単位数の上限単位に含みません。ただし、本学で履修する科目は、いしかわシティカレッジ科目であっても、上限単位に含みますので、注意してください。

また、学年暦や授業開始終了時刻が本学と異なりますので、併せて注意してください。

(3) 卒業学期の履修の注意事項

履修する学期が本学における卒業学期の場合は、本制度の修得単位は卒業単位に算入できません。

(4) 履修登録

授業は原則、いしかわシティカレッジの講義室で行います（一部各大学等で実施）。開講場所によって下記のとおり履修手続きが異なりますが、いずれの場合であっても本学での履修登録が必要です。（15ページで確認）なお、他大学の提供科目の時間割番号は、基幹教育学務係で確認してください。

いしかわシティカレッジで開講する科目の場合

UCI（大学コンソーシアム石川）ポータルから、事前に履修登録してください。

他大学の提供機関開講科目の場合

第1回目の授業で「シティカレッジ特別聴講学生出願票」を担当教員に提示して、履修の許可を願ひ出てください。担当教員が許可した場合、出願票の選考結果欄の「可」に○を付し、承認印を押印します。その後、科目提供機関の事務局に出願票を提示した後、基幹教育学務係に提出してください。

※詳細は、大学コンソーシアム石川のWebサイトもしくは『シティカレッジ募集ガイド』で確認してください。

(5) 成績

他大学の提供科目の場合、成績は認定・不可とし、GPA対象除外科目です。

(6) 学都いしかわグローバルチャレンジプログラム

金沢大学には、大学コンソーシアム石川の「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」の認定を受けている学類がありますので、学類のハンドブック等で確認してください。

このプログラムは、地域の課題を実践的に学び地域課題解決力を意欲的に修得しようとするローカルチャレンジと、海外の課題を体験的に学び地域課題解決を国際的な視野から修得しようとするグローバルチャレンジから構成しています。これら2つのプログラムを修了すると、大学コンソーシアム石川から「学都いしかわグローバル人材認定証」を受けることができます。このプログラムは、課題解決力、対人基礎力、対自己基礎力、国際力を高めることを目標としています。

25. 放送大学の授業科目の履修

本学では放送大学との単位互換協定により、本学学生が放送大学の特別聴講学生となり、指定した科目を修得した単位は、本学が定める条件下で卒業要件単位に算入することができます。

(1) 出願できる者

本学に在学の学生（前期は入学者を除く）

ただし、履修学期途中で休学、退学、卒業および除籍の場合は、同時に特別聴講学生の身分を失い、単位認定しません。

(2) 本制度による履修

放送大学の授業は、印刷教材（テキスト）と放送教材（DVDまたはCD）により行います。学期途中で1回、一定の範囲で出題される通信指導（レポート）を提出し合格した者は、15週分の視聴終了後に、自宅等のパソコンから、インターネットを通じてwebで単位認定試験を受験することになります。

特別聴講学生は、放送大学と本学から履修登録許可された科目について、インターネット配信をパソコン、スマートフォン等で視聴して学修します。また、基幹教育学務係でテレビ科目はDVDを、ラジオ科目はCDを借り、講義室等で視聴して学修することも可能です。放送教材の使用可能時間は、土曜日・日曜日および祝日を除く、9時から16時30分までです。

なお、放送大学石川学習センターに通学し、本学と同様の学修を行うことも可能です（これを理由としての本学駐車許可証の申請は認めません）。放送大学石川学習センターでの再視聴・学修は、火曜日から日曜日の9時30分から17時45分まで利用でき、18時に閉館します。必ず事務室で説明を受けてください。月曜日及び祝日・年末年始は休館です。

(3) 履修できる単位数

本学学則の第55条（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）、第56条（大学以外の教育施設等における学修）、第57条（入学前の既修得単位等の認定）等で定める学修での修得単位数を合わせて60単位以下です。

(4) 履修できる授業科目および認定単位

別表（放送大学との単位互換協定に係る単位認定対象科目）のとおり。

(5) 履修期間

第1学期（前期）：4月～9月（6か月間）

第2学期（後期）：10月～3月（6か月間）

(6) 成績評価および単位認定

- ・放送大学の成績評価によって、C以上の評語の科目に対しては下表に従い本学が単位認定し、本学の成績通知表や成績証明書に記載します。

放送大学評語	Ⓐ	A	B	C	D	E
金沢大学評語	認定				不可	

- ・放送大学で履修した授業科目の成績評価がDまたはEの場合で、放送大学の再試験を利用し、合格した場合の当該授業科目の単位は認定しません。
- ・単位認定は、履修学期の末日付で本学が行うため、この日に本学での在学身分を有していなければなりません。
- ・履修する学期が本学における卒業学期の場合は、本制度の修得単位は、卒業単位に算入できません。
- ・本人への成績通知は本学からと放送大学からの両方で行いますが、本学の成績通知表が正式のものとなります。また、本制度の修得単位は本学のものであり、放送大学は単位認定も証明書の発行も一切行いません。

(7) 入学料

特別聴講学生のため不要

(8) 授業料

1科目（2単位）当り 12,000円

(9) 出願手続の掲示と受付

基幹教育学務係

1学期（前期）：前年度の12月頃

2学期（後期）：当該年度の6月頃

(10) その他の注意

- ・必ず当該学期の本学履修登録期間（履修登録補正期間を含む）に本学の履修登録をして、履修時間割表の確認を行ってください。履修登録上限単位数には含みません。放送大学の手続きが完了していても本学の履修時間割表に記載がない場合は、単位認定しません。
- ・本学在学中に、個人的に放送大学の単位を修得しても、本学では単位認定しません。
- ・放送大学からの連絡事項は、個人宅と大学に届くものの両方があるので、通常の履修と同様に、常に**掲示に注意**して行ってください。
- ・詳細は、基幹教育学務係の窓口で照会してください。

(別表) 放送大学との単位互換協定に係る単位認定対象科目 (令和6 (2024) 年度)

自由履修科目

放送大学での履修科目			本学での単位認定科目			
区分	授業科目名	履修単位	平成28年度以降入学者			
			授業科目名	認定単位	区分	
コース科目	導入科目	人体の構造と機能 ('22)	2	人体の構造と機能	2	自由履修科目
	導入科目	生物環境の科学 ('16)	2	生物環境の科学	2	
	専門科目	精神分析とユング心理学 ('23)	2	精神分析とユング心理学	2	
	導入科目	西洋哲学の根源 ('22)	2	西洋哲学の根源	2	
	導入科目	心理学概論 ('24)	2	心理学概論	2	
	専門科目	フィールドワークと民族誌 ('24)	2	フィールドワークと民族誌	2	
	導入科目	社会学概論 ('21)	2	社会学概論	2	
	導入科目	社会福祉－新しい地平を拓く ('22)	2	社会福祉－新しい地平を拓く	2	
	導入科目	貧困の諸相 ('23)	2	貧困の諸相	2	
	専門科目	国際経営 ('19)	2	国際経営	2	
	導入科目	グローバル化時代の日本国憲法 ('19)	2	日本国憲法概説	2	
	導入科目	生活経済学 ('20)	2	生活経済学	2	
	専門科目	宇宙の誕生と進化 ('19)	2	宇宙の誕生と進化	2	

言語科目

放送大学での履修科目			本学での単位認定科目		
区分	授業科目名	履修単位	令和6年度入学者		
			授業科目名	認定単位	区分
基盤科目 (外国語)	英語で「道」を語る ('21)	2	EAP*	1	GS言語科目(英語)
	教養で読む英語 ('19)	2	EAP*	1	
	英語で読む大統領演説 ('20)	2	EAP*	1	
	ドイツ語Ⅰ ('23)	2	ドイツ語基礎1	1	初習言語科目
			ドイツ語基礎2	1	
	ドイツ語Ⅱ ('23)	2	ドイツ語基礎3	1	
			ドイツ語基礎4	1	
	フランス語Ⅰ ('24)	2	フランス語基礎1	1	
			フランス語基礎2	1	
	フランス語Ⅱ ('24)	2	フランス語基礎3	1	
			フランス語基礎4	1	
	中国語Ⅰ ('23)	2	中国語基礎1	1	
			中国語基礎2	1	
	中国語Ⅱ ('23)	2	中国語基礎3	1	
			中国語基礎4	1	
	韓国語Ⅰ ('20)	2	朝鮮語基礎1	1	
			朝鮮語基礎2	1	
	韓国語Ⅱ ('20)	2	朝鮮語基礎3	1	
朝鮮語基礎4			1		

*授業科目名は、別途、掲示により通知します。

26. 金沢大学共通教育科目に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、金沢大学における共通教育科目に関し必要な事項を定める。

(共通教育科目の区分)

第2条 共通教育科目として開講する授業科目（以下「授業科目」という。）の区分は、次のとおりとする。

導入科目

GS科目

GS言語科目

基礎科目

初習言語科目

自由履修科目

(授業科目、単位数及び履修要件)

第3条 授業科目及び単位数は、学年の始めに公示する。

- 2 共通教育科目の履修要件は、別表第1、別表第2及び別表第3のとおりとする。ただし、基礎科目及び初習言語科目の履修要件は、学域において別に定めるものとする。

(開放科目)

第4条 授業科目のうち、開放科目として別に指定する科目は、専門教育科目として履修することができる。

- 2 開放科目は、共通教育科目又は専門教育科目のいずれか一方としてのみ履修することができる。

(履修登録の制限)

第5条 各学期又は各クォーターにおいて履修登録できる上限単位数は、金沢大学履修規程（以下「履修規程」という。）第9条の定めるところによる。

- 2 前項の規定に関わらず、次の各号に掲げる授業科目は、履修登録の上限に算入しない。

- (1) 集中講義として開講する授業科目
- (2) いしかわシティカレッジにおいて開講する授業科目
- (3) 放送大学において開講する授業科目
- (4) 基礎科目（統計数学A、統計数学B、物理学実験、化学実験、地学I A、地学I B）。ただし、国際基幹教育院総合教育部に所属する者（理系の区分のみを定めて行う入学者選抜試験により入学したものに限る。）が履修する場合に限る。

(単位認定対象資格)

第6条 履修規程第11条第2号により、国際基幹教育院において定めることとされている出席すべき授業回数は、全授業回数の3分の2とする。ただし、実験、実習及び実技については、5分の4とする。

(試験)

第6条の2 各授業科目について、その授業の終了する学期又はクォーターの終わりに試験を行う。ただし、必要があるときはその期日を変えることができる。

- 2 授業科目の性質により、平常の成績等をもって前項の試験に代えることができる。
- 3 前条に定める出席すべき授業回数を満たし、試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第7条 授業科目の成績の評価基準等は、履修規程第14条の定めるところによる。

- 2 成績評価のうち、「合」及び「認定」と評価する授業科目は、別に定める。
- 3 単位認定を保留とすることができる授業科目は、次のとおりとする。

導入科目

GS言語科目（Practical English）

基礎科目

- 4 単位認定を保留とする基準及び保留後の成績評価については、別に定める。

(綜合成績評価)

第8条 授業科目の綜合成績評価は、履修規程第15条の定めるところによる。

2 GPAにおける保留及び再履修となる授業科目の取扱いについては、別に定める。

(成績評価の疑義申立て)

第9条 学生は、成績評価が成績評価基準に照らして不相当と考えるときは、履修規程第16条の定めるところにより、疑義を申立てることができる。

2 疑義申立てに係る取扱いについては、別に定める。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (略)

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行し、令和6年度入学者から適用する。

別表第1 単位修得要件

区分	修得すべき単位数			
導入科目	大学・社会生活論	1単位	26単位	28単位 以上
	データサイエンス基礎	1単位		
	地域概論	1単位		
GS科目 (6群)	1群から5群の各群から2単位以上 6群から3単位 計15単位			
GS言語科目	各コースから4単位 計8単位			
自由履修科目	すべての共通教育科目から2単位以上			

別表第2 GS科目の授業科目及び履修方法

1群 自己の立ち位置を知る (KUGS1)			履修方法
	授業科目名	単位数	
1A	現代世界への歴史学的アプローチ	1	1群から5群の各群から2単位を含む12単位を修得することとし、単一の群で3単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。
1B	グローバル時代の政治経済学	1	
1C	グローバル時代の社会学	1	
1D	ケーススタディによる応用倫理学	1	
1E	地球生物圏と人間	1	
2群 自己を知り、自己を鍛える (KUGS2)			
	授業科目名	単位数	
2A	哲学(自我論)	1	
2B	パーソナリティ心理学	1	
2C	グローバル時代の文学	1	
2D	健康科学	1	
2E	細胞・分子生物学	1	
2F	エクササイズ&スポーツ実技	1又は0.5	
備考	※2F「エクササイズ&スポーツ実技」は、内容の異なる授業科目の履修により1単位を超える修得も可能とする。1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。		
3群 考え・価値観を表現する (KUGS3)			
	授業科目名	単位数	
3B	クリティカル・シンキング	1	
3C	価値と情動の認知科学	1	
3E	芸術と自己表現	1	
3F	スポーツ科学	1	
備考	※3F「スポーツ科学」は、内容の異なる授業科目の履修により1単位を超える修得も可能とする。1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。		

4群 世界とつながる (KUGS 4)			履修方法	
	授業科目名	単位数		
4A	地域社会と文化人類学	1	1群から5群の各群から2単位を含む12単位を修得することとし、単一の群で3単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。	
4B	日本史・日本文化	1		
4C	異文化間コミュニケーション	1		
4D	異文化体験	1～8		
4E	グローバル時代の国際協力	1		
4F	グローバル社会と地域の課題	1		
備考	※4D「異文化体験」は、1単位までGS科目の修得すべき単位数に算入し、1単位を超える修得単位は自由履修科目に算入する。			
5群 未来の課題に取り組む (KUGS 5)			履修方法	
	授業科目名	単位数		
5A	科学技術と科学方法論	1		
5B	統計学から未来を見る	1		
5D	環境学とESD	1		
5E	生活と社会保障	1		
5F	現代社会と人権	1		
6群 新しい社会を生きる (KUGS 6)			履修方法	
	授業科目名	単位数		
6A	インテグレート科学	1		3単位を修得することとし、3単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。
6B	AI入門	1		
6C	情報の科学	1		
6D	デザイン思考入門	1		
6E	論理学と数学の基礎	1		

別表第3 GS言語科目の授業科目及び履修方法

	授業科目名	単位数	履修方法
英語	「Practical English」コース	Practical English I	4単位を修得
		Practical English II	
		Practical English III	
		Practical English IV	
		Practical English (演習)	
	「EAP」コース	English for Academic Purposes (EAP) I	4単位を修得
		English for Academic Purposes (EAP) II	
		English for Academic Purposes (EAP) III	
		English for Academic Purposes (EAP) IV	
		EAP (Retake)	

日本語	アカデミック基礎日本語A	1	日本語を母語としない外国人留学生を対象とし、履修方法は、学類が定めるところによる。	
	アカデミック基礎日本語B	1		
	アカデミック・ライティングA	1		
	アカデミック・ライティングB	1		
	講義の聴解A	1		
	講義の聴解B	1		
	上級読解I A	1		
	上級読解I B	1		
	上級読解II A	1		
	上級読解II B	1		
	日本事情A	1		
	日本事情B	1		
	日本語で学ぶ論理A	1		
	日本語で学ぶ論理B	1		
	初級2-1 A	1		日本語能力を要件としない入学者選抜試験により入学した外国人留学生及び学類が指定する特別プログラムを履修する外国人留学生を対象とし、履修方法は、学類が定めるところによる。
	初級2-2 A	1		
	初級2-3 A	1		
	初級2-4 A	1		
	初級2-1 B	1		
	初級2-2 B	1		
	初級2-3 B	1		
	初級2-4 B	1		
	中級聴解A	1		
	中級聴解B	1		
	中上級聴解A	1		
	中上級聴解B	1		
	速読A	1		
	速読B	1		
	中級作文A	1		
	中級作文B	1		
	中上級作文A	1		
	中上級作文B	1		
	初中級会話A	2		
	初中級会話B	2		
	中級会話A	1		
	中級会話B	1		
	中上級会話A	1		
	中上級会話B	1		
	漢字・語彙1 A	1		
	漢字・語彙1 B	1		
	漢字・語彙2 A	1		
	漢字・語彙2 B	1		
	漢字・語彙3 A	1		
	漢字・語彙3 B	1		
	漢字・語彙4 A	1		
	漢字・語彙4 B	1		
	漢字・語彙5 A	1		
	漢字・語彙5 B	1		

注 日本語を母語としない外国人留学生及び英語を母語とする者等の履修方法は、上表によらず学類が定めるところに基づき、入学年度の履修案内に示す。

27. 金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS) の解説

金沢大学〈グローバル〉スタンダード、すなわちKUGSは、金沢大学の人材育成の目標である世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成のために制定されました。

「金沢大学ブランド」人材には、次の点が求められています。

- ・社会の一員として自己の使命を国際社会で積極的に果たす
- ・知識基盤社会の中で中核的なリーダーとなる
- ・常に恐れることなく現場の困難に立ち向かえる能力・体力・人間力を兼ね備える

KUGSは6つのスタンダードから構成されており、各スタンダードは相互に独立したものはあるが、過去から未来へ、外在性から内在性へ、また自己から他者へと緩やかに配列されている。

スタンダード1. 自己の立ち位置を知る：

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力

スタンダード1が述べているのは、自分が置かれている状況をできるだけ正確にとらえることによって、自分が何をすべきかを自ら進んでつかみ取る能力のことである。ここで言う状況とは、巨視的な時間のスケールで言えば、今生きている現在から、生物としてのヒトが進化した地球の時間、そして、それに先立つ宇宙の時間にまで拡がり、空間的なスケールで言えば、現在の地点から、地域コミュニティ、地方、都市、国家、国際社会、そして地球全体にまで広がっている。

このような状況の中心には、文化的、政治的、経済的なさまざまな問題が存在している。しかし、これらの問題を事実として正しく知ったとしても、そこからどのような行動を起こすべきかを導き出すには、何らかの倫理的判断が必要である。それは、人類がこれまでに培ってきた倫理的な態度や感性にもとづいている。例えば、個人的な自由や欲求を求めることと、正義や公平を社会に実現することとを両立させるには、人類社会の倫理的規範に従うことが必要である。したがってここでは、さまざまな角度から自己の立ち位置を知るとともに、倫理的な態度や感性を養うことが求められる。

スタンダード1は、学士レベルの理解度において、学生が自分の置かれている状況を正しくとらえ、将来の自分の行動を導き出すようになることを意味する。

スタンダード2. 自己を知り、自己を鍛える：

自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

スタンダード2が述べているのは、まず自己の限界を知ることによって自己を知る能力、つまり心と身体の両面における自己のアイデンティティを知る能力のことである。しかし、この能力は直ちに、自己の限界を乗り越えるための人間力を常に高めていくことも要請する。自己が何であるかは、自己の内面をただ見つめるだけでは知ることはできない。スタンダード1で言う「状況」を含めて、自分の具体的なあり方を通してしか、自己が何であるかはとらえられない。

自己の具体的な姿は自らの限界をも示す。多様な知的・身体的能力がそれぞれに限界づけられた結果として出現する「形」が、その人の個性（アイデンティティ）であるとも言えよう。したがって、自己を知ることは自分の限界を知ることには他ならず、それゆえここから、「自分の限界内に留まり、現状に安住しようとする」者と「自分の限界に挑戦し、自分を高めていこうとする」者の違いが出てくる。

スタンダード2は、各人各様の状態に応じて「常に自己を高みへと引き上げていこう」とする人間力を、学士レベルの到達度において学生が培っていくことを意味する。

スタンダード3. 考え・価値観を表現する：

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力

スタンダード3が述べているのは、言葉や図表によって思考やアイデアなどの自分の考えを明確にする能力と、さらにそのような思考や表現行為の背後にある自分の感性や感情、価値観、ものの見方などを他者に的確に伝える能力のことである。

思考やアイデアは、たんに頭に思い浮かべているだけでは明確ではない。日本語や英語などの特定の文法に従って思考やアイデアを言葉にし、さらにそれを論理的に組み立てることで、はじめて明晰な説明や論証になる。さらに、説明や論証は、それを行う人の感性や価値観という、より広い文脈においてのみ、正確に理解される。そもそも思考やアイデアを表現することは、自己の奥にある感性や価値観を何とかして他者に伝えようとすることに他ならないからである。

スタンダード3は、学士レベルの技能程度において、学生が自分の考えを明確に表現し、その考えの背後にある感情やものの見方を他者に的確に伝えるようになることを意味する。

スタンダード4. 世界とつながる：

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力

スタンダード4が述べているのは、他者と共生する能力のことである。同じ文化に属するものどうしでさえ、他人は考えや、感じ方、行動パターンの点で自分とは異なり、その意味で理解しがたい存在である。これまで多くの共同体や社会は、他者を慣習や法制度によってできるだけ均一的な存在へと同化しようとしてきた。しかし、いまや求められるのは同化ではなく、歴史的にも文化的にも自分たちとは大きく異なる「多様な他者たち」との共存・共生である。

他者との実り豊かな共生のためには、自分たちの国の歴史や文化はもちろん、自らを育んできた郷土に対する知識と自覚が必要である。他者との実際の共生は、普遍的なコスモポリタン同士の関係ではありえない。世界の中における自分たちの「特殊性」を自覚することこそ、「他者の異質性」と共に生きるための前提となる。

しかしまた、他者との「共生の作法」を身につけることは、たんなる心構えの問題ではない。国際関係に対する理解や、個人と国家・民族・宗教などとの入り組んだ関係に対する認識も必要となる。法の下での平等、性別や障害や人種などから生ずるあらゆる偏見・差別の撤廃、いかなる個人にも保障されるべき人権、様々な形態での移民の受け入れや難民に対する保護など、互いの存在の根源性を受け入れながら他者とつながるためには、どの国も今後、数多くのハードルを超えていかなければならない。

スタンダード4は、自分たちの文化を自覚し、他者との文化的差異を率直に認めながら、徹底して寛容な態度で積極的に「他者の異質性」と交わっていかうとする意欲を、学士レベルの到達度において、学生がもつようになることを意味する。

スタンダード5. 未来の課題に取り組む：

科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から、地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力

スタンダード5が述べているのは、現在から未来にいたる状況認識に基づいて、未来の課題に積極的に取り組んでいく能力のことである。現在の世界では、地球温暖化による自然環境の激変やボーダレスな新型感染症の発生など、地球規模でしか解決しえない課題が深刻さを増している。その一方で、国際社会においては、アジアやアフリカ諸国の相対的な比重の高まりや新興国の台頭など、これまでのヨーロッパやアメリカを中心とした世界秩序が変容しつつある。また日本においても、急激な少子高齢化や経済競争力の低下など、10年先の姿を見通すことさえ困難になっている。

しかし、このように予測困難な時代であるからこそ、科学の叡智を結集して、大災害や貧困層の拡大、軍事的衝突や経済的危機を回避しなければならない。そのためには、客観的な現状分析から未来を予測しようとする諸科学の方法論と成果を身につけなければならない。もちろん、未来予測は容易ではない。

しかし、困難がたとえ大きくとも、最新の技術と発想をもって人類が取り組むべき重要な課題なのである。

スタンダード5は、学士レベルの理解度において学生が、地球と人類の未来像をできるだけ総合的に描き、それをもとに未来の課題に進んで取り組むことを意味する。

スタンダード6. 新しい社会を生きる：

Society 5.0において、幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未来の社会的課題を解決に導くための能力

スタンダード6が述べているのは、Society 5.0を生きるために準備すべき能力のことである。大量のデータが駆動する社会Society 5.0では、人工知能（AI）やロボットが一般化し、産業構造、働き方が急激に変化すると予想されている。その変化に対応するために我々は、ロボットやAIでは代替できない人間固有の能力を強化し、一人一人が異なる強みや個性を持った他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる「人間を中心とした社会」の実現を目指すこととなる。

この新しい社会において、未来の社会的課題の解決を目指す人材には、幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドが欠かせない。また、真理探究や課題解決を指向するサイエンス・エンジニアリング的発想に加えて、美と人間・社会の幸福を追究するアート・デザインの発想の両方を併せ持つ必要がある。さらに、自らの主張を論理立てて表現する能力、プログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力等も含む高度な情報活用能力を融合することで新しい社会を生き抜くための実践力を身につけることができる。

スタンダード6は、学士レベルの理解度において学生が、未来社会で課題に直面した際に対応できる能力を養い、多様な専門知をつなげて解決へ導くための基礎能力の学修を目指すものである。

II 時間帶表

共通教育科目の時間帯表

令和6(2024)年度1年次第3クォーター

(は、専門教育科目の開講予定時間帯です。)

曜日	時限	融合学域		人間社会学域及び総合教育部(文系)							理工学域及び総合教育部(理系)							医薬保健学域				時限				
		先導	観光デザイン スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	総合教育部(文)	数学科	物質化	生命理工	総合教育部(理)	3学第-151組	3学第-152組	3学第-153組	3学第-154組	地球社会	医	薬		医薬科	保健		
月	1																									
	2		化学II A*					EAP II				化学II A*	化学II A	化学II A*	化学II A*	化学II A*		物理学II A		化学II A					物理学II A#	
	3												線形代数学II A	微分積分学II A*											#	
	4																								物理学実験*(看護)	
	5																								アカデミックスキル	
火	1																									
	2							Practical English III																		
	3												EAP II													
	4																								(移動)	
	5																								プレゼン・ディベート論	
水	1																									
	2																									
	3																									
	4																									
	5																									
木	1																									
	2																									
	3																									
	4																									
	5																									
金	1																									
	2																									
	3																									
	4																									
	5																									

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。*：選択科目 ★：選択必修 #：専攻により異なる(保健学類)
 ※医(移動) 医薬科学(移動) …角間・宝町キャンパス間の移動時間
 ※総合教育部(文系)：基礎科目履修希望者は、「総合教育部案内」を参照すること。
 ※西洋古典語(ギリシア語、ラテン語)の履修希望者は、「ギリシア語・ラテン語(西洋古典語)の履修」(51~52ページ)を参照すること

令和6(2024)年度1年次第4クォーター

(は、専門教育科目の開講予定時間帯です。)

曜日	時限	融合学域		人間社会学域及び総合教育部(文系)							理工学域及び総合教育部(理系)							医薬保健学域				時限			
		先導	観光デザイン スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	総合教育部(文)	数学科	物質化	生命理工	総合教育部(理)	3学第-151組	3学第-152組	3学第-153組	3学第-154組	地球社会	医	薬		医薬科	保健	
月	1																								
	2																								(移動)
	3																								物理学II B#
	4																								物理学実験*(看護)
	5																								
火	1																								
	2																								
	3																								
	4																								
	5																								
水	1																								
	2																								
	3																								
	4																								
	5																								
木	1																								
	2																								
	3																								
	4																								
	5																								
金	1																								
	2																								
	3																								
	4																								
	5																								

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。*：選択科目 ★：選択必修 #：専攻により異なる(保健学類)
 ※医(移動) …角間・宝町キャンパス間の移動時間
 ※総合教育部(文系)：基礎科目履修希望者は、「総合教育部案内」を参照すること。
 ※西洋古典語(ギリシア語、ラテン語)の履修希望者は、「ギリシア語・ラテン語(西洋古典語)の履修」(51~52ページ)を参照すること

共通教育科目の時間帯表

令和7(2025)年度2年次第1クォーター

(は、専門教育科目の開講予定時間帯です)

曜日	時間	融合学域			人間社会学域				理工学域					医薬保健学域				時間					
		先導	観光デザイン	スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	数物科	物質化	生命理工	機械工	フロンティア	電子情報通信	地球社会		医	薬	医薬科	保健	
月	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					(理学・作業)	4
	5																						5
火	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					(検査)	4
	5																					(検査)	5
水	1																					1	
	2																					2	
	3																					(移動)*	3
	4																					4	
	5																					5	
木	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					4	
	5																					5	
金	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					4	
	5																					5	

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。

*: 選択科目

※医(移動) …角間・宝町キャンパス間の移動時間

令和7(2025)年度2年次第2クォーター

(は、専門教育科目の開講予定時間帯です)

曜日	時間	融合学域			人間社会学域				理工学域					医薬保健学域				時間					
		先導	観光デザイン	スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	数物科	物質化	生命理工	機械工	フロンティア	電子情報通信	地球社会		医	薬	医薬科	保健	
月	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					(理学・作業)	4
	5																						5
火	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					(検査)	4
	5																					(検査)	5
水	1																					1	
	2																					2	
	3																					(移動)*	3
	4																					4	
	5																					5	
木	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					4	
	5																					5	
金	1																					1	
	2																					2	
	3																					3	
	4																					4	
	5																					5	

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。

*: 選択科目

※医(移動) …角間・宝町キャンパス間の移動時間

共通教育科目の時間帯表

令和7(2025)年度2年次第3・4クォーター

(□は、専門教育科目の開講予定時間帯です)

曜日	時間	融合学域			人間社会学域					理工学域					医歯保健学域				時間				
		先端	観光デザイン	スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	数物科	物質化	生命理工	機械工	フロンティア	電子情報通信	地球社会	医		薬	医学科	保健	
月	1																						1
	2																						2
	3																						3
	4																						4
	5																						5
火	1																						1
	2																						2
	3																						3
	4																						4
	5																						5
水	1																						1
	2																						2
	3																					(移動)※	3
	4																						4
	5																						5
木	1																						1
	2																						2
	3																						3
	4																						4
	5																						5
金	1																						1
	2																						2
	3																						3
	4																						4
	5																						5

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。

※医(移動) …角間・宝町キャンパス間の移動時間

共通教育科目の時間帯表

令和8(2026)年度3年次第1・2クォーター

()は、専門教育科目の開講予定時間帯です

曜日	時限	融合学域			人間社会学域					理工学域					医薬保健学域				時限					
		先導	観光デザイン	スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	数物科	物質化	生命理工	機械工	フロンティア	電子情報通信	地球社会	医		薬	医薬科	保健		
月	1																						1	
	2																							2
	3																							3
	4																							4
	5																							5
火	1																							1
	2																							2
	3																							3
	4																							4
	5																							5
水	1																							1
	2																							2
	3																							3
	4																							4
	5																							5
木	1																							1
	2																							2
	3																							3
	4																							4
	5																							5
金	1																							1
	2																							2
	3																							3
	4																							4
	5																							5

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。

令和8(2026)年度3年次第3・4クォーター

()は、専門教育科目の開講予定時間帯です

曜日	時限	融合学域			人間社会学域					理工学域					医薬保健学域				時限						
		先導	観光デザイン	スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	数物科	物質化	生命理工	機械工	フロンティア	電子情報通信	地球社会	医		薬	医薬科	保健			
月	1																							1	
	2																								2
	3																								3
	4																								4
	5																								5
火	1																								1
	2																								2
	3																								3
	4																								4
	5																								5
水	1																								1
	2																								2
	3																								3
	4																								4
	5																								5
木	1																								1
	2																								2
	3																								3
	4																								4
	5																								5
金	1																								1
	2																								2
	3																								3
	4																								4
	5																								5

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。

共通教育科目の時間帯表

令和9(2027)年度4年次第1・2クォーター

(は、専門教育科目の開講予定時間帯です)

曜日	時間	融合学域			人間社会学域				理工学域					医薬保健学域				時間				
		先導	観光デザイン	スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	数理科	物質化	生命理工	機械工	フロンティア	電子情報通信	地球社会		医	薬	医薬科	保健
月	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
火	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
水	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
木	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
金	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。

令和9(2027)年度4年次第3・4クォーター

(は、専門教育科目の開講予定時間帯です)

曜日	時間	融合学域			人間社会学域				理工学域					医薬保健学域				時間				
		先導	観光デザイン	スマート創成科	人文	法	国際	経済	学校教育	地域創造	数理科	物質化	生命理工	機械工	フロンティア	電子情報通信	地球社会		医	薬	医薬科	保健
月	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
火	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
水	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
木	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5
金	1																					1
	2																					2
	3																					3
	4																					4
	5																					5

※専門教育科目の開講予定時間帯であっても、その時間帯に専門教育科目が開講されていない場合は、共通教育科目を履修できます。

Ⅲ 学生生活

- ☆ 「金沢大学学生便覧」にある「学生生活」「施設案内」も必ず確認してください。
ここでは、共通教育科目を履修する上での必要なことに限定しています。

1. 学生生活に関する相談

勉強、進路、就職、健康問題、その他のことで困ったことや悩みごとがあれば、所属学類等のアドバイス教員または学生相談窓口に何でも気軽に相談してください。相談の内容について秘密を保持するように配慮しています。総合教育講義棟、保健管理センターにも相談室があります。

詳細は、金沢大学Webサイト→教育・学生支援・学生活動→学生相談窓口(困ったときは)に掲載しています。

・総合教育講義棟の学生相談室

学期中の平日、基幹教育学務係向かいにある「なんでも相談室-よるまっし」で、学生生活一般について相談を受け付けています。教員または大学院学生・学類学生が担当しています(相談担当者名を記した開室日程表を月ごとに相談室前に掲示します)。

・保健管理センターの学生相談室

月～金曜日の午前・午後、本部棟 1 階の保健管理センターで、学生生活全般について相談を受け付けています。公認心理師が常にいます。メール(hokekan@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)や電話(076-264-5255)で予約をしてください。

・ハラスメント相談窓口

本学では、ハラスメント相談の窓口として、ハラスメント相談員を全学に配置しています。所属学類等に関係なく、どの相談員に相談しても構いません。相談しやすい相談員へ相談してください。

本学Webサイトに掲載されている『きいつけまっし』の「1. 心と身体の健康・悩み事」の項目も確認してください。

『きいつけまっし』

金沢大学Webサイト→教育・学生支援・学生活動→学生相談窓口(困ったときは)

・障がい学生支援室

「障がい学生支援室」は、角間キャンパスの本部棟にあり、障がいのある学生の修学や生活に関する様々な相談に応じています。

相談の申し込みは下記までご連絡ください。相談日時を調整します。

(連絡先) 障がい学生支援室(本部棟1階、2階学務部学生支援課)

E-mail: siensitsu@adm.kanazawa-u.ac.jp TEL: 076-264-5168

・LGBTQ+相談窓口

LGBTQ+の学生や周りの人たちが抱えるさまざまな悩みごと、性自認や性的指向等に関する相談窓口を設置しています。

対面相談は、LGBTQ+の研修を受けた守秘義務のあるカウンセラーが対応しますので、安心してご相談ください。

また、LGBTQ+の学生や周囲の人の修学における支障や心配事を解消することを目指し、本学の取組や対応をまとめた「LGBTQ+サポートガイド」を公表しました。詳細はダイバーシティ推進機構のWebサイトにて確認してください。

■LGBTQ+相談窓口・LGBTQ+サポートガイド

金沢大学Webサイト「トップ」→検索「金沢大学ダイバーシティ推進機構」

<https://ipdi.w3.kanazawa-u.ac.jp/global#lgbtq>

2. キャンパス交通ルール

本学では、教育研究の場にふさわしい環境を保全するため、キャンパス内における交通規制をおこなっています。学内の交通ルールを守って、安全確保、教育研究環境保全のために、節度ある行動をしてください。

(1) 自動車通学

自動車による通学は、特別な事情がある場合以外は許可しません。特別な事情とは、身体に障がいがある場合、公共交通機関を利用することが地理的に非常に困難な場合等です。特別な事情がある場合は、掲示板で期限等を確認した上で、基幹教育学務係に申請して許可を得てください。

(2) 交差点での進入禁止

金沢大学中央の交差点から総合教育講義棟へ向かう道路は、車両進入禁止です。すべてのキャンパス内の交通ルールを遵守してください。

(3) 建物周辺への乗り入れ禁止

角間地区はアカデミックゾーン（総合教育講義棟・体育館・各学類の建物周辺を含む周回道路内）への乗り入れ、駐停車は禁止です。降りるためだけの乗り入れも絶対にしないでください。角間地区周回道路も駐停車禁止です。

(4) 自転車通学・バイク通学

自転車による通学は、令和5年4月1日から改正道路交通法の施行により、自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されましたので、ヘルメットを着用してください。また、金沢市は条例で自転車損害賠償保険への加入を義務付けています。

自転車またはバイクは、所定の駐輪場に止めてください。駐輪場の使用について、手続きは必要ありません。なお、アカデミックゾーン（総合教育講義棟・体育館・各学類の建物周辺を含む周回道路内）への乗り入れ、駐輪を禁止します。また、全てのキックボードは、電動か否かを問わず自転車と同様、アカデミックゾーン（総合教育講義棟・体育館・各学類の建物周辺を含む周回道路内）は走行禁止です。

(5) 違反者に対する処分

許可証を掲示していない自動車の駐車、駐輪場以外での自転車・バイクの駐輪に対しては、警告ポールを取り付けます。警告ポールは所定の手続きを経るまで最低一週間は、取り外しません。

また、**悪質な違反**（繰り返しの違反、警告ポールの破損等）は**懲戒処分の対象**とします。

なお、キャンパス交通ルールの詳細やこれに関係するさまざまな注意事項については、**本学Webサイトに掲載されている『きいつけまっし』を必ず読んでください。**

金沢大学Webサイト→教育・学生支援・学生活動→学生相談窓口（困ったときは）→学生生活ハンドブック『きいつけまっし』→「交通事故をなくそう」

3. 総合教育棟の利用

(1) 講義室等の使用

学生が課外活動のために総合教育講義棟の講義室使用を希望する場合は、あらかじめ基幹教育学務係で講義室の空き状況を確認の上、学務部学生支援課で了承を得、「学内施設使用許可願」を基幹教育学務係に提出し許可を得てください。

- 1) 使用は、平日16時30分～19時50分の間のA3又はA4講義室とし、教育、研究等に支障のない範囲で許可します。ただし、休業期間中は除きます。
- 2) 「学内施設使用許可願」は、責任者が直接基幹教育学務係に提出してください。
- 3) 使用希望日の、1週間前から前日までに許可を得てください。
- 4) 使用の許可を得た場合でも、授業その他の都合で変更することがあります。
- 5) 火気の使用は厳禁です。
- 6) 許可された使用目的以外に使用しないでください。
- 7) 他に迷惑をかけないように、静かに使用してください。
- 8) 各室とも机、椅子など備え付けの物は、移動しないでください。
移動した場合は、必ず原状復帰してください。
- 9) 常に清潔に保ち、講義室等の維持保全（美化および使用後の消灯・窓閉め）に協力してください。
- 10) 施設等を故意または過失によってき損した場合は、基幹教育学務係に申し出るとともに、速やかに修理し、原状に復してください。

以上の注意事項を守らない場合は、使用許可を取り消します。

(2) プレゼンテーション室

総合教育講義棟2階（基幹教育学務係隣り）にあるプレゼンテーション室は、グループ学修や教育、学習及び研究に関する説明会等のイベント等に利用できます。

- 1) 利用時間は、平日8時30分～19時50分まで、長期休業期間中は17時00分までです。
- 2) 予約せずに自由に利用できます。
- 3) 予約する場合は、基幹教育学務係窓口にて予約申込書を提出してください。予約受付は、希望日の1週間前から前日の17時00分までです。

(3) 学生自習室

学生自習室は総合教育2号館4階（Ⅳ. 建物配置図参照）にあります。

また、総合教育講義棟A4講義室は、授業に使用しない時間帯は、学生自習室として利用できます。

(4) 掲示等

掲示その他、これに類するものは、基幹教育学務係に申し出てください。

※ 課外活動のための使用場所は、原則として、課外活動共用施設（サークル棟）・大学会館集会室です。

4. パソコンとネットワーク

(1) 金沢大学では、ノートパソコンを必携としています。学内には無線LANのアクセスポイントや有線LANの情報コンセントを、主要な講義室、ロビー等に設置しており、ノートパソコンで、インターネットなどのネットワークを便利に、かつ安全に利用できる環境を整備しています。授業のみならず、学生生活や研究活動などさまざまな形で利用できます。

(2) ノートパソコンは、各自の責任で管理してください。

体育館・グラウンド等を使用する保健体育関連科目の授業に出席する場合などに限り、その授業の間だけ3階のB10示範教室、4階のC10示範教室および5階のD10講義室前の専用ロッカーを使用できます（野外に出る実験等の場合も使用できます）。専用ロッカーを使用する場合には次のルールを守ってください。

- ・専用ロッカーは保健体育関連科目などの授業の間だけしか使用できません。授業終了後は、すみやかに取り出してロッカーを明け渡してください（長時間ロッカーに入れたままの場合には、強制的に撤去します）。
- ・専用ロッカーにはノートパソコン以外のものは入れないでください。貴重品は、基幹教育学務係に預けることができます。

(3) 大学生活でパソコンおよびネットワークを十分に活用するためには、入学当初に、①ノートパソコンのセルフチェックを行う、またはパソコン仕様点検を受ける、②KAINS IDの登録、③アカンサスポータル利用方法の修得、④インターネットによる履修登録方法の修得の4つのことをしなければなりません。

- ① セルフチェックを行うかパソコン仕様点検を受けるかは、所属学類等で異なります。
- ② 入学後、学内のネットワークを利用するために「KAINS ID」の登録が必要です。KAINS Account Centerから、所定の操作で登録できます。

このKAINS IDを使って安全にインターネットを利用するためには最低限の「情報倫理とネットワークセキュリティ」の知識を修得する必要があります。そのために、「データサイエンス基礎」の授業の最初の3回で「情報倫理とネットワークセキュリティ」を学修します。

- ③ アカンサスポータルは、学生個々人のさまざまな情報にアクセスするための入口となるインターネット上のシステム（Webページ）です。このシステムを利用するためのIDとパスワードを【金沢大学

ID】といい、履修ガイダンスで配付します。アカンサスポータルの使用方法は、「データサイエンス基礎」の授業中に指導します。そのため入学者は必ずこの第1回目の授業に出席してください。

- ④ 履修登録は、アカンサスポータルから行います。金沢大学IDを用いてアカンサスポータルにアクセスし、「学務情報サービス」をクリックしてください。リンク先の「履修・成績情報」から「履修登録」に進み登録を行ってください。履修登録の詳しい方法は、『学生便覧』で確認してください(第1クォーターのみ別途指示があります)。

- (4) 本学の学生証はICカードで、出欠管理に活用しています。授業によっては出席確認に必要なので、学生証は忘れずに携帯してください。学生証による出席確認を行う場合は、講義室の前後に設置の端末に学生証をかざして打刻をしてください。なお、スマートフォンで打刻を行うことができる「金沢大学身分証アプリ」を施行中です。右の二次元コードからダウンロードして、正規の学生証と一緒に活用してください。ただし、不正な打刻を確認した場合は、当該授業科目の成績評価を「不可」または「放棄」とすることがあるので、留意してください。



- (5) パソコンを始めとするコンピュータまたはネットワークの不正な使用は、懲戒処分の対象とします。

5. 大学院進学のおすすめ

DXによる技術革新が生み出す社会構造の大変革の時代において、高度専門人材がますます社会から求められている実情を踏まえ、大学院への進学を強く推奨しています。

大学院進学者には多くの奨学金並びに学費減免制度を用意しているほか、進学検討時から修了まで伴走的にキャリア支援を行っています。また、大学院では、未来の多様な課題発見・解決力やアカデミックな研究力のほか、研究発表等を通して、より高いコミュニケーション力、プレゼンテーション力、発想力も伸ばすことができます。自分のキャリアプランの一つとして考えることを強く勧めます。詳細は、学務部学生支援課で確認してください。

6. 所属変更・休学・復学・退学

所属変更(転学類・転コース等)、休学、復学および退学は、各学類等の学務係が取り扱っています。転学類・転コース等の情報は、掲示板で必ず確認してください。

7. その他

- (1) 本学は敷地内禁煙です。総合教育講義棟の最寄りの喫煙場所は、大学会館3階西側屋上広場です。喫煙する場合は喫煙のルールを厳守し、非喫煙者に迷惑をかけたり、環境を害することがないように十分気をつけましょう。言うまでもなく、20歳未満の者の喫煙は法律で禁止されています。
- (2) 騒音防止と敷石保護のため、アカデミックゾーン(総合教育講義棟・体育館・各学類の建物周辺を含む周回道路内)のスケートボード等は禁止です。

IV 建物配置図

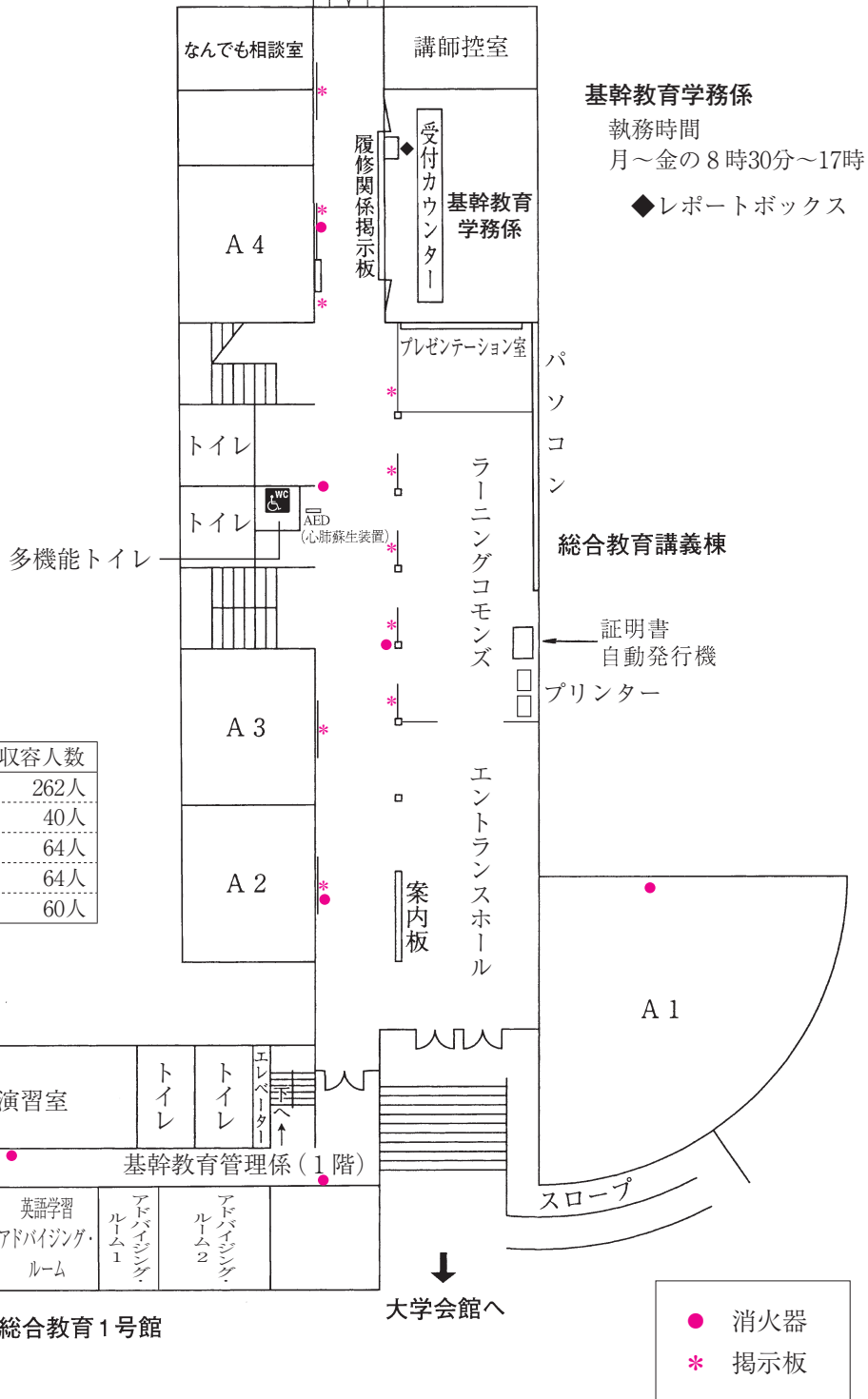
総合教育棟 平面図

(総合教育2号館・体育館へは、3階に上がって渡廊下で)

2階

履修関係掲示板
授業日程
講義室変更
休講・補講
試験
履修登録等

2号館地下通路 → 人間社会第2講義棟方面
(ここから2号館には入れません)



室番	室名	収容人数
241	A 1 講義室	262人
246	A 2 講義室	40人
247	A 3 講義室	64人
249	A 4 講義室	64人
210	A 5 演習室*	60人

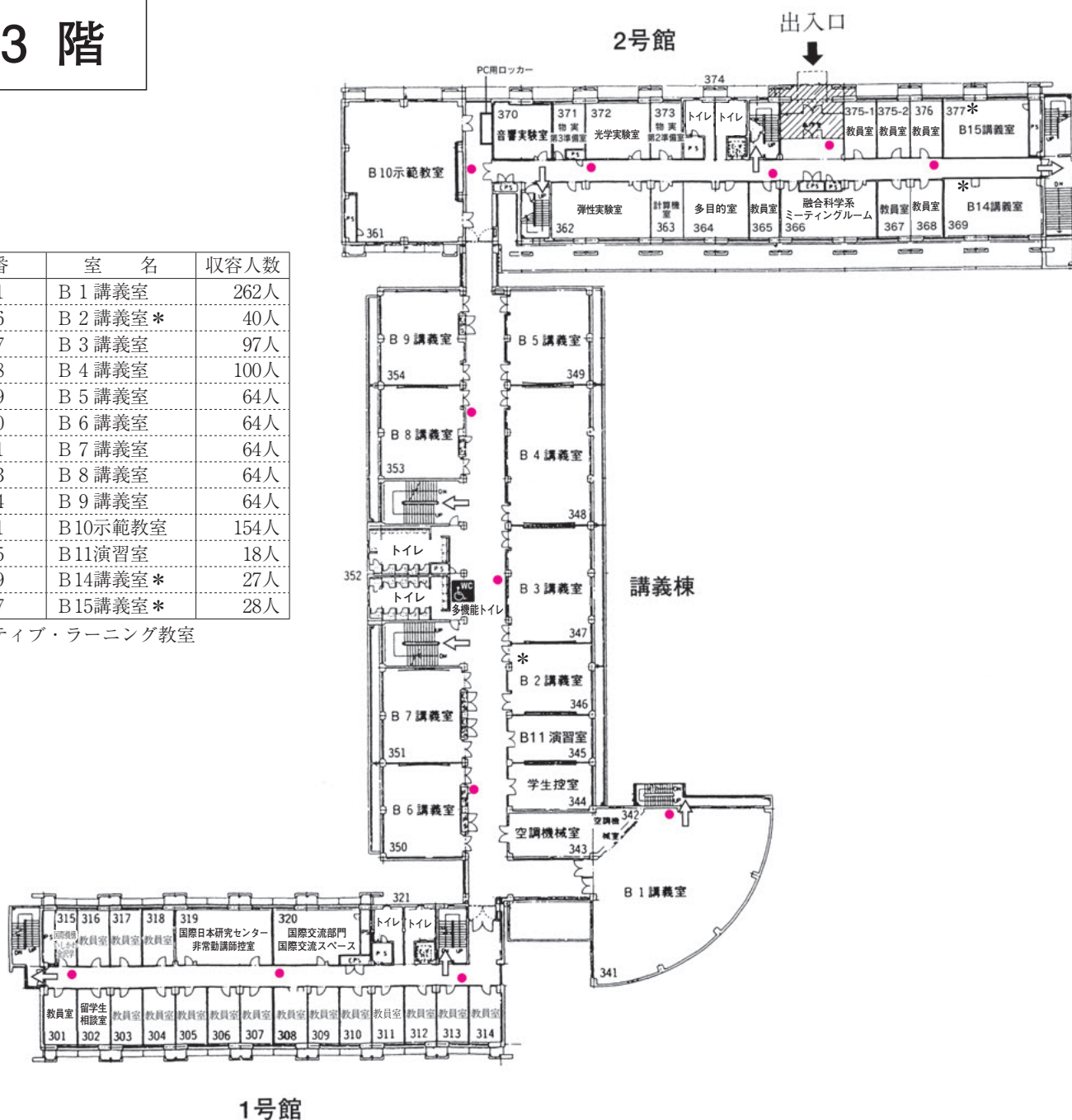
*アクティブ・ラーニング教室

※ A 4 講義室は、授業に使用しない時間帯は、学生自習室として利用できます。

3階

室番	室名	収容人数
341	B 1 講義室	262人
346	B 2 講義室*	40人
347	B 3 講義室	97人
348	B 4 講義室	100人
349	B 5 講義室	64人
350	B 6 講義室	64人
351	B 7 講義室	64人
353	B 8 講義室	64人
354	B 9 講義室	64人
361	B 10 示範教室	154人
345	B 11 演習室	18人
369	B 14 講義室*	27人
377	B 15 講義室*	28人

* アクティブ・ラーニング教室



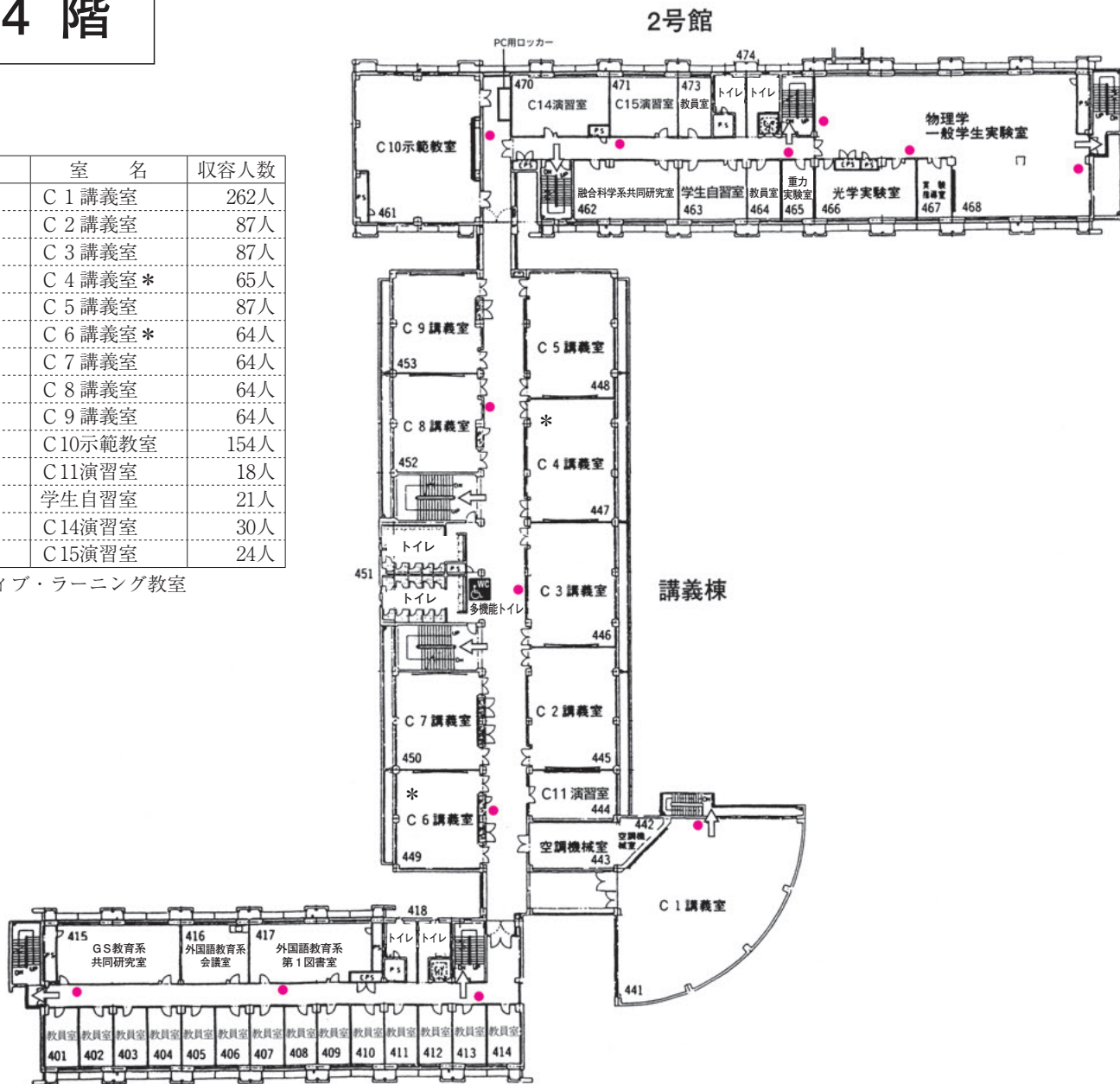
← 避難経路

● 消火器

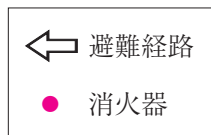
4 階

室番	室名	収容人数
441	C 1 講義室	262人
445	C 2 講義室	87人
446	C 3 講義室	87人
447	C 4 講義室*	65人
448	C 5 講義室	87人
449	C 6 講義室*	64人
450	C 7 講義室	64人
452	C 8 講義室	64人
453	C 9 講義室	64人
461	C10示範教室	154人
444	C11演習室	18人
463	学生自習室	21人
470	C14演習室	30人
471	C15演習室	24人

* アクティブ・ラーニング教室



1号館



5 階

室番	室名	収容人数
541	D 1 講義室 *	32人
542	D 2 講義室 *	40人
543	D 3 講義室 *	40人
546	D 4 講義室(AV)	108人
545	D 5 講義室 *	95人
547	D16演習室	18人
548	D 6 講義室 *	64人
549	D 7 講義室 *	49人
551	D 8 講義室 *	64人
552	D 9 講義室 *	64人
561	D10講義室	154人
562	D11演習室	10人
563	D12演習室	40人
564	D13演習室	30人
569	D14講義室	36人
572	D15演習室	24人

* アクティブ・ラーニング教室



← 避難経路

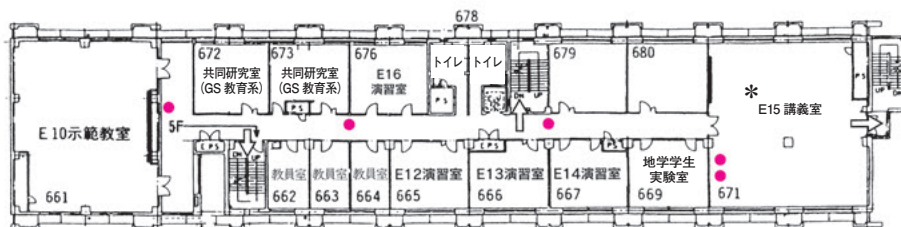
● 消火器

6 階

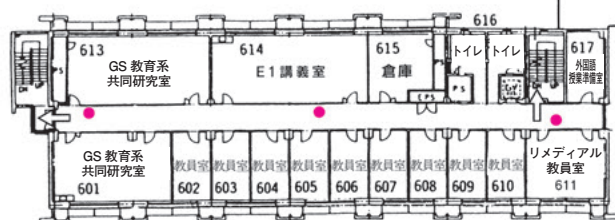
室番	室名	収容人数
614	E 1 講義室	50人
661	E 10 示範教室	154人
665	E 12 演習室	24人
666	E 13 演習室	24人
667	E 14 演習室	24人
671	E 15 講義室*	80人
676	E 16 演習室	24人

*アクティブ・ラーニング教室
E10示範教室へは、
講義棟 5 階から 2 号館へ渡る。

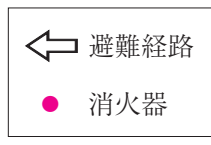
2号館



講義棟 (5階建)



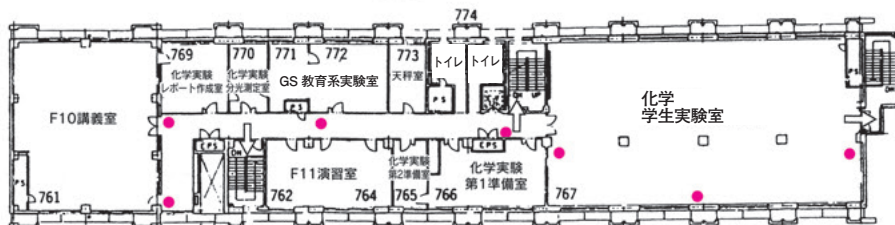
1号館



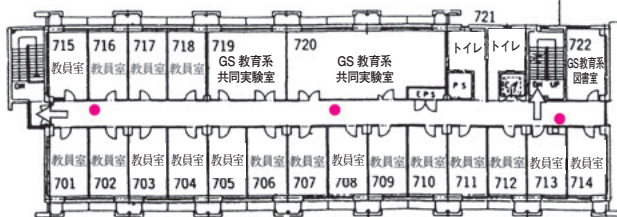
7 階

室番	室名	収容人数
761	F10講義室	105人
762	F11演習室	24人

2号館



講義棟 (5階建)



1号館

← 避難経路
● 消火器

総合教育 1 号館、2 号館在室者一覧（五十音順）

(2024年 4 月 1 日現在)

カナ	氏 名	部 屋 番 号	所 属	カナ	氏 名	部 屋 番 号	所 属
ア	浅 川 毅	1号館6階 611号室	G S教育	タ	滝 野 隆 久	1号館7階 702号室	G S教育
	有 賀 三 夏	2号館3階 365号室	融 合		ダリシエ・ミシェル	1号館6階 610号室	G S教育
	飯 倉 江里衣	1号館5階 515号室	外 国 語		趙 菁	1号館5階 508号室	外 国 語
	飯 田 玲 子	1号館6階 609号室	G S教育		藤 間 崇	1号館6階 602号室	G S教育
	井 出 明	1号館7階 705号室	G S教育	ナ	中 野 正 俊	2号館6階 662号室	高大接続
	翁 璋	1号館6階 605号室	G S教育		西 川 未来汰	1号館7階 712号室	G S教育
	エブヌ・マライニン	1号館4階 403号室	外 国 語		西 嶋 愉 一	1号館5階 514号室	外 国 語
	大 澤 隆 将	1号館5階 506号室	G S教育		野 中 雄 大	1号館7階 710号室	G S教育
	太 田 亨	1号館3階 303号室	国 際	ハ	橋 本 将	1号館5階 501号室	外 国 語
	大 藪 加 奈	1号館4階 406号室	外 国 語		濱 田 里 羽	1号館7階 701号室	G S教育
	小笠原 知子	1号館7階 714号室	G S教育		ハモンド・マーク	1号館4階 402号室	外 国 語
	小 高 敬 寛	1号館7階 706号室	G S教育		早 川 文 人	1号館5階 504号室	外 国 語
	小田桐 拓志	1号館6階 603号室	融 合		ビットマン・ハイコ	1号館3階 316号室	国 際
	カ	垣 内 康 孝	1号館4階 405号室		G S教育	フリッパス・ジェミー	2号館4階 464号室
數 見 由紀子		1号館4階 413号室	外 国 語		深 川 美 帆	1号館3階 312号室	国 際
唐 島 成 宙		1号館6階 608号室	G S教育		ブラウン・デール	1号館5階 517号室	外 国 語
河 田 英 介		1号館4階 410号室	外 国 語	マ	眞 住 優 助	1号館7階 718号室	G S教育
菅 野 磨 美		1号館4階 407号室	外 国 語		松 井 三 枝	2号館3階 375-2号室	G S教育
菊 谷 まり子		1号館7階 715号室	G S教育		松 浦 義 昭	2号館6階 663号室	G S教育
木 村 岳 裕		1号館7階 711号室	G S教育		松 島 大 輔	2号館4階 473号室	融 合
工 藤 充		1号館7階 704号室	G S教育		ママドゥア・アイダ	1号館3階 308号室	国 際
クラチャンスカ・ヤナ		1号館5階 502号室	外 国 語		三 橋 了 爾	1号館7階 703号室	G S教育
グユネベルク・パトリック		1号館6階 606号室	G S教育		村 山 孝 之	1号館7階 707号室	G S教育
黒 川 英 徳		1号館6階 607号室	G S教育		ヤ	家 口 美智子	1号館4階 414号室
河 内 幾 帆		2号館6階 664号室	融 合	八 柳 祐 一		1号館7階 717号室	G S教育
小 熊 猛		1号館4階 404号室	外 国 語	山 村 公 恵		1号館5階 503号室	外 国 語
小 島 莊 一		1号館3階 313号室	国 際	山 本 洋		1号館3階 306号室	国 際
小 林 恵美子	1号館5階 507号室	G S教育	尹 一 喜	1号館5階 505号室		G S教育	
サ	斉 木 麻利子	1号館3階 304号室	国 際	吉 永 契一郎		1号館7階 708号室	G S教育
	斎 藤 峯 雄	1号館6階 611号室	G S教育	ラ	ラナー・ジェイコブ	1号館4階 409号室	外 国 語
	佐々木 葉 月	1号館5階 509号室	G S教育		ローゼンバーク・ジェームス	1号館3階 318号室	国 際
	佐 藤 圭	1号館7階 709号室	G S教育	ワ	渡 辺 敦 子	1号館7階 713号室	G S教育
	佐 藤 朋 子	1号館5階 513号室	外 国 語		渡 辺 達 雄	1号館6階 604号室	G S教育
	佐 藤 智 哉	1号館3階 311号室	国 際				
	澤 田 茂 保	1号館4階 401号室	外 国 語				
	芝 口 翼	1号館7階 716号室	G S教育				
	シュナイダー・アンドリュウ	1号館3階 307号室	国 際				
	菅 野 孝 史	1号館6階 611号室	G S教育				
	鈴 木 政 勝	1号館3階 310号室	G S教育				
	セン・ラージ・ラキ	1号館3階 305号室	国 際				

・教員室は変更になる可能性があります。
 ・最新の在室者一覧は、各館入口の案内板で確認してください。

備考

- ・G S 教育：GS教育系（国際基幹教育院）
- ・外 国 語：外国語教育系（国際基幹教育院）
- ・高大接続：高大接続コア・センター
- ・融 合：融合研究域
- ・国 際：国際日本研究センター

この『共通教育科目履修案内』は、学生の学修に役立てることを目的に作っています。
ここが分からない、こういう説明があればもっと良くなる、という意見や希望がありましたら、下記の学務部基幹教育支援課基幹教育学務係までお知らせください。

令和6（2024）年度共通教育科目履修案内

令和6（2024）年4月

金沢大学国際基幹教育院

〒920-1192 金沢市角間町

T E L 076-264-5758

F A X 076-234-4171

e-mail stgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp

学務部基幹教育支援課基幹教育学務係

所 属	学 域	学 類
氏 名		